特263
299

0036645000

0036645-000

特２６３－２９９

新工場関係法規集

東都工務協会・編

光画荘

下巻

昭和１７

AGF

特263
299

新工場關係法規集（下卷）

東都工務協會編

新工場關係法規（下）目次

工場取締規則……一
工場取締規則執行心得……一
「セルロイド」工場取締規則……一
「セルロイド」工場取締規則執行心得……一
「アセチレン」瓦斯接取締規則……一
「アセチレン」瓦斯接取締規則執行心得……一
臨時資金調整法（抜萃）……一
臨時資金調整法執行令（抜萃）……一
臨時農地等管理令（抜萃）……一
電力調整令施行規則（抜萃）……一
機械設備制限規則……一
繊維工業設備ニ關スル件……一
製鐵設備制限規則……一

鑄造設備制限規則……一三一
アルミニウム屑配給統制規則……一三三
汽罐取締令……一三四
汽罐構造規格……一三九
汽罐取締令施行細則……一七八
原動機取締規則……一八五
自動車車庫取締規則……一九四
自動車車庫取締規則執行心得……二〇五
危險物取締規則……二〇五
建築關係法規(抜萃)……二一六
市街地建築物法施行令(抜萃)……二一六
市街地建築物法施行規則(抜萃)……二三一
市街地建築物法施行細則(抜萃)……二三三
市街地建築物法令中取扱ニ關スル件(抜萃)……二三四
工場構內變電設備所設置並施設變更ニ關スル注意書……二三六

鐵鋼工作物築造許可規則……二四二
鐵鋼工作物築造許可規則第一條但書ノ規定ニ依リ許可ヲ要セザル
工作物ノ種類ニ關スル件……二四五
企業許可令……二四六
企業許可令施行規則……二五一

新工場關係法規（下）

工場取締規則

（昭和十二年八月七日警視廳令第一四號
昭和十三年八月　同　第四一號改正
昭和十四年六月二十四日同　第一六號改正
昭和十六年七月五日同　第一七號改正）

第一章　通則

第一條　本令ニ於テ工場ト稱スルハ常時左ニ掲グル作業ヲ爲ス建設物ヲ謂フ

一　常時十人以上ノ職工ヲ使用シ工場法ノ適用ヲ受クルモノ

二　原動機（電動機、蒸氣機關、蒸氣「タービン」、「ガス」機關、石油機關及水車ヲ謂フ以下之ニ同ジ）ヲ使用スル作業ニシテ左ニ掲グルモノ

イ　製釘、製鋲、鑢ノ目立、製針、鋼球ノ製造鍛冶又ハ鉋削

ロ　骨、牙角類、貝殼又ハ石材ノ挽割若ハ粉碎

ハ　「コルク」、「エボナイト」又ハ人造「レジン」ノ粉碎若ハ乾燥研磨又ハ懐爐灰ノ袋詰

ニ　鑛石、土砂、硫黄、金屬、煉瓦、陶磁器又ハ木質ノ粉碎

ホ　撚糸、電線被覆、製袋、組紐、編物裁縫機織、編織物ノ起毛若ハ反毛

ヘ　鋸機、槌機、搗機、「プレス」、打貫機、高速回轉粉碎機又ハ「ボールミル」ヲ使用スル物品ノ製造若ハ加工

ト　馬力數合計一以上ノ原動機ヲ使用スル金屬ノ切削、硝子ノ研磨、印刷、製本又ハ水洗濯

チ　馬力數合計二以上ノ原動機ヲ使用ス

ル物品ノ製造又ハ加工

三　左ニ掲グル作業

イ　毒藥、劇藥、毒物又ハ劇物ノ製造

ロ　鉛、水銀、鉛若ハ水銀ノ化合物ヲ原料トスル物品、水銀ヲ用フル計器、鉛ヲ用フル鑪又ハ水銀「ポンプ」ヲ用フル物品ノ製造

ハ　動物ノ剝製

ニ　「シアン」鹽類、硝酸鹽類又ハ油ヲ用フル金屬ノ熱處理

ホ　金屬ノ酸洗、腐蝕又ハ砂吹

ヘ　「アルコール」類、「エーテル」、「アセトン」、「ベンゾール」、「テレビン」油、過鹽素酸鹽類、「マグネシウム」、過酸化水素水、過酸化「ソーダ」、赤燐、過酸化「カリ」又ハ醋酸「エステル」類ノ製造若ハ精製

ト　藥品ニ依ル物品ノ漂白、「ドライクリーニング」又ハ「ドライダイング」

チ　芳香油ノ製造又ハ精製

リ　乾性油若ハ溶劑ヲ用フル紙布又ハ「テレビン」油若ハ樹脂ヲ原料トスル物品ノ製造

ヌ　油脂ノ製造、精製又ハ加熱加工

ル　「タール」類若ハ鑛油ノ蒸溜、精製、罐詰又ハ其ノ蒸溜產物若ハ殘渣ヲ原料トスル物品ノ製造

ヲ　「アスファルト」ノ精製又ハ瀝質物ヲ用フル「フェルト」若ハ紙ノ製造

ワ　鹽化鐵、硫酸鐵、鹽化硫黃、燐酸、無水醋酸、醋酸、炭酸「ソーダ」、晒粉次硝酸蒼鉛、五硫化「アンチモン」、亞硫酸鹽類、硫化「カリ」、硫化「ソーダ」硫化石灰、「イヒチオールスルホン」酸「アンモン」、「グリセリン」、「アスピリン」、「チオ」硫酸鹽、安息香酸、「タンニン」酸、「サツカリン」ノ製造又ハ硫黃ノ精製

カ　動物炭、活性炭又ハ「カラメル」ノ製造

ヨ　「ゴム」製品、「ファクチス」ノ製造又ハ溶劑若ハ「ラバーセメント」ヲ用フル「ゴム」製品ノ貼合又ハ「ゴム」ノ再製

タ　石炭ノ乾餾

レ　染料若ハ其ノ中間物、塗料、顏料、印刷「インキ」又ハ繪具ノ製造

ソ　塗料ノ加熱乾燥、燒付又ハ塗料、染料、繪具ノ吹付

ツ　古綿、落綿、古麻、屑紙、屑絲、屑毛又ハ襤褸類ノ精製若ハ選別

ネ　羽若ハ毛ノ精製、選別、染色又ハ纖維、皮革ノ染色

ナ　石綿、珪藻土、炭酸「マグネシア」等ヲ用フル保溫材料ノ製造又ハ「セメント」袋ノ除粉

ラ　金屬箔、金屑粉ノ製造又ハ金屬粉ノ貼着

ム　製綿、麻ノ梳解、「フェルト」又ハ粉狀纖維ヲ用フル物品ノ製造

ウ　石膏、消石灰、生石灰、煉瓦、坩堝土器瓦、陶磁器、樂燒ヲ除ク)、琺瑯鐵器、琺瑯藥、硝子又ハ人造砥石ノ製造

キ　電球、眞空管、「ネオン」管其ノ他之ニ類スル放電管ノ製造

ノ　電氣用「カーボン」ノ製造

オ　電池ノ製造

ク　煉炭ノ製造

ヤ　肥料ノ製造

マ　石鹼ノ製造

ケ　「ビスコース」ノ製造

フ　人造「レジン」ノ製造又ハ加熱加工

コ　紙又ハ「パルプ」ノ製造

エ　蛋白質ノ加水分解ニ依ル製品ノ製造

テ　「マッチ」ノ製造

ア　火藥、爆藥又ハ火工品ノ製造

サ　火氣ヲ使用スル古罐潰又ハ油罐ノ洗滌

キ　製革、製膠又ハ毛皮若ハ骨ノ精製

ユ　壓縮「ガス」若ハ液化「ガス」ノ製造又ハ之ヲ用フル氷若ハ氷菓ノ製造

メ　砂糖包裝蓋ノ洗汁ヲ原料トスル砂糖蜜ノ製造

ミ　砂糖ノ精製

シ　金屬ノ熔融、精錬、又ハ電氣、「ガス」ヲ用フル金屬ノ熔接若ハ切斷

エ　汽罐、鐵槽、鐵筒、鐵製金庫類ノ製造又ハ金屬板ノ槌打加工

ヒ　硝子ノ腐蝕、砂吹又ハ加熱加工

モ　硝子ノ粉碎又ハ金屬、骨、牙角類若ハ貝殼ノ乾燥研磨

セ　「クロム」鍍金又ハ一・二「キロワット」以上ノ電力ヲ使用スル電鍍、電解若ハ充電

前項ニ該當セザル建設物ト雖モ常時作業ヲ爲スモノニシテ保安上危險、衛生上有害又ハ公益上支障アリト認ムルモノニ付テハ本令ノ全部若ハ一部ヲ適用スルコトアルベシ

第二條　本令ニ依リ警視總監ニ提出スル願屆ハ所轄警察署長ヲ經由スベシ

本令ニ於テ所轄警察署長ト稱スルハ工場設置地所轄警察署長ヲ謂フ

第三條　本令ニ依ル願屆ハ願屆人ニシテ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ法定代理人、準禁治產者ナルトキハ保佐人、妻ナルトキハ夫ノ連署ヲ要ス

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ本令ニ依ル許可又ハ認可ヲ取消スコトアルベシ

一　本令ニ依ル願屆ニ虛僞ノ事項ヲ記載シタルトキ

二　竣功期日ヲ經過シ仍工事竣功セザルトキ

三　工場ノ使用權ヲ喪失シタルトキ

四　法定代理人、保佐人又ハ夫ノ同意若ハ許可ヲ取消サレタルトキ

第五條　工場ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ使用ノ禁止、停止其ノ他必要ナル措置ヲ命ズルコトアルベシ

一　保安上危險ト認ムルトキ

二　衛生上有害ト認ムルトキ

三　其ノ他公共ノ利益ヲ害スル虞アリト認ムルトキ

四　本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ

第六條　前二條ノ規定ニ依ル處分ハ第八條但書ノ工場ニ付テハ所轄警察署長之ヲ行フ

第七條　當該官吏工場ヲ臨檢セントスルトキ又ハ檢査ニ必要ナル準備ヲ命ジタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

第二章　設備手續

第八條　工場ヲ設置セントスルトキ又ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ警視總監ニ願出デ許可ヲ受クベシ但シ第一條第一項第二號チニ該當スル工場ニシテ馬力數合計三以下ノ原動機ヲ使用スルモノ（市街地建築物法施行規則第百四十三條第一項第二號乃至第五號中ノ一ニ該當スルモノヲ除ク）ニ付テハ所轄警察署長ニ屆出ヅベシ

一　建築物（第九條第一項第二號ノ建築物ヲ除ク）ノ改築、再築、增築、擴張、用途變更又ハ移轉ヲ爲サントスルトキ

二　敷地ノ擴張又ハ縮少ヲ爲サントスルトキ

三　作業ノ種別又ハ方法ヲ變更シ若ハ增業セントスルトキ

四　原動機ヲ增設、變更又ハ移轉セントスルトキ

五　第三章ニ揭グル機械其ノ他設備ヲ增設變更又ハ移轉セントスルトキ

六　壓力每平方センチメートル　〇・七キログラム以上ノ耐壓容器ノ引換ヲ爲サントスルトキ

七　窯爐又ハ煙突ヲ增設、變更又ハ移轉セントスルトキ

八　燃料ヲ變更セントスルトキ

九　除害設備ヲ增設、變更、移轉又ハ廢止セントスルトキ

第九條　工場ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ警視總監ニ屆出ヅベシ但シ前條但書ノ工場ニ付テハ所轄警察署長ニ屆出ヅベシ

一　建築物ノ大修繕又ハ大變更ヲ爲サントスルトキ

二　作業ニ關係ナキ建築物ニシテ床面積二十平方メートル以下且高五メートルヲ超エザルモノノ改築、再築、增築、擴張、用途變更又ハ移轉ヲ爲サントスルトキ（市街地建築物法施行規則第百四十三條第一項第二號又ハ第五號ニ該當スルモノヲ除ク）

三　機械其ノ他設備（第三章ニ揭グルモノヲ除ク）ノ增設、變更又ハ移轉ヲ爲サントスルトキ

四　煙筒又ハ煙突ヲ廢止セントスルトキ

五　建築物ヲ縮少又ハ除却セントスルトキ

六　原動機、機械其ノ他設備ノ廢止ヲ爲サントスルトキ

七　燃料一日ノ最大消費量ヲ變更セントスルトキ

八　工事竣功期日ヲ變更セントスルトキ

前條但書及前項第一號乃至第四號ノ屆出ヲ

ハ起工十日以前ニ之ヲ爲スベシ但シ第十條第三項ノ規定ニ依リ副本ノ交付ヲ受ケタルトキハ屆出デ後十日ニ至ラズト雖モ起工スルコトヲ得

第十條　前二條ノ規定ニ依ル願屆書ハ第一號樣式ノ一、二又ハ三ニ依リ左ノ書類添附ノ上正副二通ヲ提出スベシ但シ願屆ニ關係ナキ事項ハ之ヲ省略スルコトヲ得

一　配置圖

イ　周圍ノ狀況

ロ　敷地內建築物ノ配置

ハ　機械其ノ他設備（動力傳導裝置ヲ含ム）ノ配置

二　建築物ノ圖面及設計書

三　第三章ニ揭グル原動機、機械其ノ他設備ノ圖面（電動機ヲ除ク）及構造調書

四　第十五條ニ揭グル原動機、機械其ノ他設備ノ基礎圖面

五　第二十五條ノ規定ニ依ル消火設備ニ關スル調書及配置圖

六　職工五十人以上ヲ使用スル工場ニ在リテハ職工ヲ收容スヘキ寄宿舍又ハ住宅ニ關スル調書

七　臨時資金調整法第四條ノ二ニ該當スルモノニ在リテハ日本銀行總裁ノ許可通知書ノ寫同條但書該當ノモノニ在リテハ其ノ旨記載シタル書類

八　臨時農地管理令第三條ニ該當ノモノニ在リテハ農林大臣又ハ地方長官ノ許可書ノ寫（同令第四條該當ノモノヲ除ク）

九　電力調整令施行規則第一條又ハ第三條ニ該當ノモノニ在リテハ遞信大臣又ハ遞信局長ノ電力供給認可書ノ寫、但シ十キロワット（又ハ十五馬力）未滿ノモノニ在リテハ豫定電氣供給事業者ノ電力供給契約書ノ寫及自家用電氣施設ノ認可ヲ受ケタルモノニシテ其ノ契約量以內ノ增加設備ニ在リテハ其ノ旨記載シタル書類

十　機械設備制限規則第二條ニ該當ノモノニ在リテハ商工大臣又ハ地方長官ノ許可書ノ寫、同條但書ニ該當スルモノニ在リテハ其ノ旨記載シタル書類

十一　纖維工業設備ニ關スル件（昭和十四年六月商工省令第三十一號）ニ該當スルモノニ在リテハ地方長官ノ許可書ノ寫

十二　製鐵設備制限規則第二條ノモノニ在リテハ商工大臣ノ許可書ノ寫

十三　鑄造設備制限規則第二號ニ該當ノモノニ在リテハ商工大臣ノ許可書ノ寫、同條但書ニ該當ノモノニ在リテハ其ノ旨記載シタル書類

十四　アルミニウム屑配給統制規則第七條ニ該當ノモノニ在リテハ商工大臣ノ許可書ノ寫、同條但書ニ該當ノモノニ在リテハ其ノ旨記載シタル書類

十五　麥類配給統制規則第十二條ニ該當ノモノニ在リテハ農林大臣ノ許可書ノ寫

十六　木材統制法施行規則第十條ノ規定又ハ同第十五條第三號若ハ第十六條第一項第二號ニ該當シ農林大臣又ハ地方長官ノ

許可若ハ行政官廳ノ認可ヲ受クベキモノニ在リテハ其ノ許可書又ハ認可書ノ寫

十七　小麥粉等製造配給統制規則第九條第二項又ハ第十二條ノ規定ニ依リ農林大臣又ハ地方長官ノ許可ヲ受クベキモノニ在リテハ其ノ許可書ノ寫

十八　企業許可令第三條又ハ第六條ノ規定ニ依リ行政官廳ノ許可又ハ指定統制會ノ承認ヲ受クベキモノニ在リテハ其ノ許可書又ハ承認書ノ寫但シ企業許可令施行規則第六條又ハ第十條ノ規定ニ依リ許可又ハ承認ヲ要セザルモノニ在リテハ臨時資金調整法第四條又ハ第四條ノ二ノ規定ニ依ル認可書又ハ許可通知書ノ寫（日本銀行總裁ノ認可通知書又ハ許可通知書ノ寫）若ハ臨時資金調整法第四條ノ二ノ但書ノ規定ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ要セザルモノナル旨記載シタル書類

前項ノ外必要ト認ムル書類又ハ圖面ノ提出ヲ求ムルコトアルベシ

第一項ノ規定ニ依リ提出シタル副本ハ願書ノモノニ在リテハ指令書ト共ニ屆書ノモノニ在リテハ第二號樣式ニ依ル工場屆濟證印ヲ押捺シテ之ヲ交付ス

第十一條　工事竣功シタルトキハ第三號樣式ノ一ニ依リ屆出デ第四號樣式ニ依ル使用認可證ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ竣功前ト雖モ支障ナシト認ムルトキハ其ノ一部使用ヲ認可スルコトアルベシ

一部使用認可ヲ受ケントスルトキハ第三號樣式ノ二ニ依リ屆出ヅベシ

使用認可證ハ之ヲ工場ニ保存スベシ亡失又ハ毀損シタルトキハ第五號樣式ノ一又ハ二ニ依リ事由書ヲ添附シ遲滯ナク屆出デ再交付ヲ受クベシ

第十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ本令ニ依ル許可又ハ認可ハ其ノ效力ヲ失フ

一　竣功期日經過後六ケ月以内ニ使用認可ヲ受ケサルトキ

二　所在不明九十日以上ニ亘リタルトキ

第十三條　他ノ法令（昭和十一年四月警視廳令第六號危險物取締規則、同年五月警視廳令第七號「アセチレン」熔接取締規則、同年十一月警視廳令第十七號自動車車庫取締規則及市街地建築物法令ヲ除ク）ニ依リ警視總監ノ許可又ハ認可ヲ受クルヲ要スル事項ニシテ本令ノ規定ニ依ル許可又ハ認可ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ法令ニ依ル願書ニ本令ノ規定ニ依ル事項ヲ併セ具スベシ但シ重複スルモノハ之ヲ省略スルコトヲ得

前項ノ願出デニ對シ許可又ハ認可ヲ爲シタルトキハ併セテ本令ノ規定ニ依ル許可又ハ認可ヲ爲シタルモノトス

第三章　構造設備

第十四條　工場ノ構造設備ニ付テハ本章ニ定ムル制限ニ依ルベシ

第十五條　原動機及原動機ニ依リ運轉スル槌機、搗機、壓延機、「プレス」、打貫機、剪斷機、平削盤、印刷機、筬鋸盤、「コンプレッサー」、高壓「ポンプ」、送風機、蓄勢機等並ニ「パイレン」其ノ他ノ設備ニシテ作業上著シキ震動ヲ發生シ公共ノ安寧ヲ害スル虞アル場合ハ其ノ基礎、据附位置等ヲシテ震動防止上適當ナルモノト爲スベシ

第十六條　原動機ニ依リ運轉スル圓鋸盤、帶鋸盤、鉋盤等ノ木工機械、槌機、壓延機、「プレス」、打貫機、「ヘッダー」、「ニューマチックリベッター」、「ネヂ」切盤、金屬研磨盤、伸線機、伸管機、鍵司立盤、「ガラ」、織機、組紐機、「ミシン」、製袋機、印刷機、玉磨機、高速回轉粉碎機、「ポンプ」、送風機等ヲ用フル作業、足踏「プレス」、油「バーナ」ヲ用フル作業及騷音ヲ伴フ製品試驗、金屬槌打、鍛工等作業上著シキ騷響ヲ發生シ公共ノ安寧ヲ害スル虞アル場合ハ其ノ裝置、据附位置、建物構造等ヲシテ騷響防止上適當ナルモノト爲スベシ

第十七條　爆發性、發火性若ハ引火性料品ノ製造又ハ取扱ヲ爲ス作業場、貯藏倉庫、置

場、貯槽類又ハ容器ハ爆發、火災豫防上適當ナル位置、構造、設備ト爲スベシ

第十八條　綿、羊毛、麻糸、木毛其ノ他ノ可燃性料品ヲ多量ニ取扱ヒ火災ノ危險著シキ作業場、倉庫置場又ハ起毛、反毛等ノ作業場ハ防火上適當ナル位置、構造、設備ト爲スベシ

第十九條　物品ノ加熱乾燥室ハ耐火構造又ハ不燃材料ヲ以テ構成若ハ被覆シ適當ナル換氣裝置ヲ施シ且其ノ熱源ニ對シ安全ナル施設ヲ爲スベシ

第二十條　耐壓容器ニシテ壓力毎平方センチメートル〇・七キログラム以上ノモノニ付テハ自動「スキウチ」、安全弁其ノ他適當ナル安全裝置ヲ施シ且壓力計ヲ附スベシ

第二十一條　作業ニ際シ有臭有害ノ瓦斯、蒸氣、鹽氣又ハ粉塵ヲ發散シ公共ノ安寧ヲ害スル虞アル場合ハ之ガ排出、密閉、洗滌、燃燒、

濾過等適當ナル措置ヲ爲スベシ

第二十二條　作業ニ際シ有臭有害ノ廢波又ハ著シク纖維其ノ他ノ夾雜物若ハ色素ヲ含ム廢波ヲ排出シ公共ノ安寧ヲ害スル虞アル場合ハ之ガ中和、沈澱濾過其ノ他除害ニ必要ナル施設ヲ爲スベシ

第二十三條　作業ニ際シ紫外線、「レントゲン」線、白熱光線、紅光等ノ有害光線ヲ發生シ危害ヲ生ズル虞アル場合ハ遮蔽其ノ他防止上適當ナル施設ヲ爲スベシ

第二十四條　工場ノ位置ハ學校、幼稚園、診療所、産院ニ對シ適當ノ距離ヲ保有スベシ

第二十五條　工場ニハ消火器、砂、水槽其ノ他適當ナル消火設備ヲ爲スベシ

作業ノ種類、建築物ノ規模、構造等ニ依リ必要アリト認ムルトキハ消火栓又ハ自動消火栓其ノ他ノ設置ヲ命ズルコトアルベシ

第二十六條　工場ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ設計ノ變更若ハ必要ナル施設ヲ命ジ又ハ其ノ出願ニ對シ許可セズ若ハ屆出事項ノ禁止ヲ命ズルコトアルベシ

一　著シク震動、騷音ヲ發生シ又ハ火災其ノ他保安上危害ヲ生ズル虞アリト認ムルトキ

二　著シク煤煙、粉塵ヲ發散シ又ハ有臭有害ノ瓦斯、蒸氣、鹽氣若ハ廢液、有害光線等ヲ發生シ衛生上危害ヲ生ズル虞アリト認ムルトキ

三　其ノ他公共ノ利益ヲ害スル虞アリト認ムルトキ

第四章　工場管理

第二十七條　事業主ハ左ノ事項ヲ遵守スベシ

一　危害豫防又ハ公害除去ノ爲設ケラレタル設備ハ常ニ有效ニ保持スルコト

二　油類ニ依リ浸染シタル襤褸、紙屑類ハ之ヲ有蓋不燃性容器ニ納置スルコト

三　作業場内ノ通路ハ常ニ有效ニ保持スルコト

四　非常口ハ常ニ避難ニ支障ナカラシメ置クコト

五　非常口又ハ危險ナル箇所ニハ適當ナル表示ヲ爲スコト

六　第十七條又ハ第十八條前段ニ揭グル場所ニ於テ濫ニ火氣ヲ使用シ若ハ火花ヲ發セシメザルコト

七　前號ノ場所ニハ喫煙其ノ他火氣使用禁止ノ旨表示スルコト

八　有煙燃料ヲ使用スル場合ハ適時ニ煙突ヲ掃除スルコト

第二十八條　工場ヲ承繼シタルトキハ第六號樣式ノ一又ハ二ニ依リ双方連署ノ上使用認可證ヲ添附シ十日以内ニ屆出ヅベシ但シ準用シ能ハザルトキ又ハ使用認可證ヲ添附シ能ハザルトキハ其ノ旨屆書ニ附記シ且其ノ事由ヲ疏明スルニ足ルベキ書類ヲ添附スベシ

相續ニ因ル承繼アリタルトキハ相續人ハ相續開始ノ日ヨリ三十日以内ニ第六號樣式ノ三ニ依リ使用認可證ヲ添附シ其ノ旨屆出ヅベシ

第二十九條　事業主自ラ工場ヲ管理スルコトヲ能ハザルトキハ工場ニ付一切ノ權限ヲ有スル管理人ヲ選任シ第七號樣式ノ一ニ依リ管理人ノ履歷書、選任契約書竝ニ使用認可證ヲ添附シ届出ヅベシ之ヲ變更シタルトキ亦同ジ但シ變更ノ場合ハ第七號樣式ノ二ニ依ルベシ

前項ノ管理人不適當ト認ムルトキハ其ノ變更ヲ命ズルコトアルベシ

第三十條　工場法ニ依リ選任セラレタル工場管理人ハ本令ニ依ル管理人ト看做ス

前項ノ選任アリタルトキハ第七號樣式ノ三ニ依リ使用認可證ヲ添附シ選滯ナク其ノ旨届出ヅベシ

第三十一條　管理人ハ本令ノ適用ニ付テハ事業主ニ代ルモノトス

第三十二條　作業時間竝ニ始業時及終業時ヲ變更セントスルトキハ第八號樣式ノ一又ハ二ニ依リ正副二通ヲ作成シ届出ヅベシ但シ臨時ノ變更ニ在リテハ所轄警察署長ニ届出

ヅベシ

前項ノ規定ニ依リ提出シタル謄本ハ第二號樣式ニ依ル工場届済證印ヲ押捺シテ之ヲ交付ス

第三十二條ノ二　工場ニシテ工場法又ハ工場就業時間制限令ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲シ就業時間ノ延長ヲ爲シタル場合ハ前條第一項但書ノ規定ニ依ル届出ハ之ヲ要セズ

第三十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ第九號樣式ノ一又ハ二ニ依リ使用認可證ヲ添附シ選滯ナク届出ヅベシ

一　事業主ノ住所氏名（法人ニ在リテハ其ノ名稱事務所所在地又ハ代表者ノ氏名）ニ變更アリタルトキ

二　管理人ノ住所、氏名ニ變更アリタルトキ

三　工場設置地地名番號ニ變更アリタルトキ

四　事業ヲ廢止シタルトキ

第三十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ第九號樣式ノ一又ハ二ニ依リ選滯ナク届出ヅベシ

一　法定代理人、保佐人又ハ失ニ變更アリタルトキ

二　工場名ニ變更アリタルトキ

三　休業六月ニ及ブトキ又ハ休業後事業ヲ開始シタルトキ

第三十五條　事業主ハ第十一號樣式ニ依リ毎年十月一日現在ノ工場概況ヲ同月十五日迄ニ管轄警察署ニ届出ヅベシ但シ工場法施行細則第二十八條ノ規定ニ依ルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十六條　工場ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル事項アリタルトキハ第十二號樣式ニ依リ選滯ナク管轄警察署ニ届出ヅベシ但シ工場法施行規則第二十五條、第二十六條ノ規定ニ依ルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一　火災、爆發、破裂、倒壞其ノ他ノ事故發生シタルトキ

二　職工其ノ他ノ從業者業務ノ爲死亡シ又ハ負傷若ハ急性中毒ニ罹リ療養ノ爲三日以上ノ休業ヲ要スベキトキ

第三十七條　事業主ハ本令ニ依リ提出シタル書類ニシテ第八條、第九條及第三十二條ノ規定ニ依ル謄書又ハ届書ノ謄本ハ永久ニ其ノ他ノ書類ハ謄本ヲ作成シ二年間之ヲ工場ニ保存スベシ

第三十八條　第八條但書ノ工場ニ付テハ第二十六條及第二十九條第二項ノ規定ニ依ル處分ハ所轄警察署長之ヲ行フ

第五章　罰則

第三十九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ科料ニ處ス

一　第七條乃至第九條、第十一條第一項又ハ第三項、第二十五條第一項、第二十七條又ハ第三十七條ノ規定ニ違反シタル者

二　第二十八條、第二十九條第一項、第三十條第二項、第三十二條第一項、第三十三條乃至第三十六條ノ規定ニ依ル届出ヲ

ヲ怠リタル者

三　第五條、第二十五條第二項、第二十六條又ハ第二十九條第二項ノ規定ニ依ル命令若ハ處分ニ違反シタル者

第四十條　事業主又ハ管理人ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人、職工其ノ他ノ従業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本令又ハ本令ニ基キテ爲ス命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第四十一條　事業主ニシテ未成年者又ハ禁治産者ナル場合ニ於テ管理人アルトキハ本令ノ罰則ハ之ヲ其ノ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

事業主法人ニシテ管理人ナキトキハ本令ノ罰則ハ之ヲ其ノ代表者ニ適用ス

附　則

第四十二條　本令ハ昭和十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四十三條　昭和四年十月警視廳令第三十五號工場取締規則ハ之ヲ廢止ス

第四十四條　工場ニシテ昭和四年十月警視廳令第三十五號工場取締規則ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケ若ハ届出デタル爲シタルモノハ本令ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケ若ハ届出デタル爲シタルモノト看做ス

第四十五條　本令ニ依リ新ニ許可又ハ届出デヲ要スルニ至リタルモノニ在リテハ昭和十三年三月三十一日迄ニ主管官廳ニ届出デ許可ヲ受ケ又ハ届出デタル爲スベシ

第四十六條　本令ニ依リ主管官廳ニ變更ヲ生ズルニ至リタルモノニ在リテハ第十三號樣式ニ依リ使用認可證ヲ添附シ前條ノ期日迄ニ主管官廳ニ届出ヅベシ

第一號樣式ノ一（第十條第一項ニ依ルモノ）（用紙美濃紙）

工場設置願（届）

本籍
受付印

署受付印

事業主	住所	
	氏名	
	生年月日	
工場名		
作業ノ種別		
作業ノ方法（又ハ別紙作業方法説明書ノ通）		
作業時間	自　時　分　至　時　分　時間	
常時使用スル職工數	男　名 女　名	其ノ他ノ從業者數　男　名　女　名
敷地面積		建築物ノ構造用途種別　各階床面積　一階　二階　三階
建築面積（合計）		
床面積（合計）		

法人ニ在リテハ事務所所在地、名稱及代表者ノ氏名

工場取締規則

工場原動機

種別	馬力数	個数

工場原動機ノ概要

名称	主要寸法又ハ能力ヲ示ス標準	個数	用途

突	煙	構造種別	口径及高サ	基数

汽	罐	種別	大サ	基数

窯	業	種類	一日最大消費見積量

除害設備ノ概要

工事使用期日

右工場設置ニ関係書類相添ヘ此段及御届（届）候也

年　月　日

住所
事業主　氏名　印
代理人　氏名　印

殿

第一號様式ノ二（第十條第一項ニ依ルモノ）（用紙美濃紙）

本籍
受付印

署
受付印

工場（局）

工場名

工場設置地地名番地

事業主
住所
氏名
生年月日

法人ニ在リテハ事務所所在地、名称及代表者ノ氏名

工場ノ種別

作業ノ種別

常時使用スル職工数　男　名　女　名

其ノ他ノ従業者数　男　名　女　名

原動機

種別	馬力数	個数

機械其ノ他ノ設備

名称	用途	個数

突	煙	構造種別	口径及高サ	基数

汽	罐	種別	大サ	基数

窯	業	種類	一日最大消費見積量

コトルスル入記ヲ要ス狀ノ在現

工場原動機

種別	馬力数	個数

機械其ノ他ノ設備

名称	用途	個数

突	煙	構造種別	口径及高サ	基数

汽	罐	種別	大サ	基数

窯	業	種類	一日最大消費見積量

折……ル……

	現在	本願ニ依ル増減	合計（又ハ差引）
原動機馬力數			
敷地面積			
建築面積			
床面積			

出願ノ要旨

除害設備

工事竣功期日

右工場　年　月　日　致度關係書類相添ヘ此段及御願（届）候也

右事業主　氏　名印

住所

右代理人　氏　名印

殿

第一號様式ノ三（第十條第一項ニ依ルモノ）

（用紙半紙）

工事竣功期日變更届

事業主　住所

氏　名

一　工場所在地

一　工場名

一　作業ノ種別

一　出願ノ要旨

一　届出ノ要旨

一　許可届濟　年　月　日

一　指令番號

一　竣功期日

一　延期セントスル年月日

右工事ノ爲メ竣功期日變更致シ度候間此段及御届候也

年　月　日

右　氏　名印

警視總監　殿

第二號様式

第號　昭和年月日　工場届濟　警視廳

直徑四十五ミリメートル

第號　昭和年月日　工場届濟　警察署

直徑四十五ミリメートル

第三號樣式ノ一　（第十一條第一項ニ依ルモノ）（用紙半紙）

工事竣功屆

一　工場設置地地名番號
一　工場名
一　業務
一　許可年月日
一　指令番號
一　竣功年月日

右ノ通竣功致候條使用認可相成度此段及御屆候也

年　月　日

住所
事業主　氏　名　印

警視總監　殿

第三號樣式ノ二　（第十一條第二項ニ依ルモノ）（用紙半紙）

工事一部竣功屆

一　工場設置地地名番號
一　工場名
一　業務
一　許可年月日
一　指令番號
一　一部竣功年月日

右工場添附圖面ノ通工事一部竣功致候條一部使用認可相成度此段及御屆候也

年　月　日

住所
事業主　氏　名　印

殿

第四號樣式（文字及線ハ本廳主管ノモノハ赤色警察署主管ノモノハ黑色）

表面

一　本認可證ハ工場内ニ保存スヘシ
一　竣功屆ニハ本認可證ヲ添附スヘシ

第　號
工場使用認可證
昭和　年　月　日

作業別	
所在地	
事業主氏名	
管理人氏名	

縱十五糎　横二十一糎

年月日	記載事項	主務者印

第五號樣式ノ一（第十一條第三項ニ依ルモノノ）（用紙半紙以下第十一號樣式モ之ニ同ジ）

工場使用認可證亡失届

一、工場設置地地名番號
一、工場名
一、業務
一、工場設置許可年月日
一、工場使用認可年月日
一、亡失ヲ知リタル年月日

右工場使用認可證亡失致候條再交付相成度別紙事由書相添へ此段及御届候也

年　月　日

住所
事業主　氏名　印

警視總監　殿

第五號樣式ノ二（第十一條第三項ニ依ルモノノ）

工場使用認可證毀損届

一、工場設置地地名番號
一、工場名
一、業務
一、工場設置許可年月日
一、工場使用認可年月日
一、毀損シタル年月日

右工場使用認可證毀損致候條再交付相成度別紙事由書ニ毀損セル工場使用認可證相添へ此段及御届候也

年　月　日

住所
事業主　氏名　印

警視總監　殿

第六號樣式ノ一（第二十八條第一項ニ依ルモノノ）

工場永續届

一、工場設置地地名番號
一、工場名

一　業　務
一　承繼　年　月　日

右工場承繼致候條工場使用認可證相添ヘ双方連署ノ上此段及御屆候也

年　月　日

住所
譲渡人　氏　名　印
住所
譲受人　氏　名　印
生年月日

警視總監　殿

第六號樣式ノ二　（第二十八條第一項ニ依ルモノ）

工場承繼並工場名變更屆（工場承繼ト同時ニ工場名ヲ變更スル場合）

一　工場設置地地名番號
一　工場名　承繼前

一　承繼後
一　業　務
一　承繼　年　月　日

右工場承繼前記ノ通工場名變更致候條工場使用認可證相添ヘ双方連署ノ上此段及御屆候也

年　月　日

住所
譲渡人　氏　名　印
住所
譲受人　氏　名　印
生年月日

警視總監　殿

第六號樣式ノ三　（第二十八條第二項ニ依ルモノ）

工場承繼屆（相續ニ因ル場合）

一　工場設置地地名番號
一　工場名
一　業　務
一　承繼　年　月　日

右工場相續ニ因リ承繼致候條工場使用認可證相添ヘ此段及御屆候也

年　月　日

住所
被相續人　氏　名　印
被相續人トノ續柄
住所
相續人　氏　名　印
生年月日

警視總監　殿

第七號樣式ノ一　（第二十九條第一項ニ依ルモノ）

工場管理人選任屆

一　工場設置地地名番號
一　工場名
一　業務
一　工場管理人　住所　氏　名
生年月日

右ノ者ヲ工場管理人ニ選任致候條本人ノ履歷書、選任契約書並ニ工場使用認可證相添ヘ此段及御屆候也

年　月　日

住所
事業主　氏　名　印

警視總監　殿

第七號樣式ノ二　（第二十九條第一項但書ニ依ルモノ）

工場管理人變更選任屆

一　工場設置地地名番號
一　工場名
一　業務
一　工場管理人　變更前　住所　氏　名
變更後　住所　氏　名
生年月日

工場取締規則

一　變更選任年月日（工場法ニ依ル場合ニアリテハ認可又ハ届出年月日）
右ノ通工場管理人變更致候條本人ノ履歴書、選任契約書（工場法ニ依ル場合ハ以上二通共省略）工場使用認可證相添ヘ此段及御届候也

年　月　日

住所　事業主　氏　名　印

警視總監　殿

第七號樣式ノ三（第三十條第二項ニ依ルモノ）

工場法ニ依リ管理人ヲ選任シタル場合ノ届

一　工場設置地地名番號
一　工場名
一　工場管理人　住所　氏　名
一　選任年月日

住所　事業主　氏　名　印

警視總監　殿

第八號樣式ノ二（第三十條第二項ニ依ルモノ）

工場作業時間變更届

一　工場設置地地名番號
一　工場名
一　業務
一　變更事由
一　變更前作業時間　自　時　分　至　時　分
一　變更後作業時間　自　時　分　至　時　分
一　變更年月日
一　從來作業時間　自　時　分　至　時　分
一　變更作業時間　自　時　分　至　時　分

右工場作業時間變更致候條此段及御届候也

年　月　日

住所　事業主　氏　名　印

警察署長
官　氏　名　殿

第九號樣式ノ一（第三十三條、第三十四條ニ依ルモノ）

工場變更届

一　變更事項
一　變更前
一　變更後
一　變更年月日

右ノ通變更致候條工場使用認可證相添ヘ此段及御届候也

工場設置地地名番號
工場名
業務

年　月　日

住所　事業主　氏　名　印

警視總監　殿

備考 冒頭變更事項欄ニハ變更事項ヲ記入スルコト

第九號樣式ノ二（第三十三條第四號ニ依ルモノ）

事業廢止屆

一 工場設置地地名番號
一 工場名
一 業務
一 事業廢止年月日

右ノ通事業廢止致候條工場使用認可證相添ヘ此段及御屆候也

年 月 日

住所 事業主 氏 名 印

警視總監 殿

第十號樣式ノ一（第三十四條第三號ニ依ルモノ）

工場休業屆

一 工場設置地地名番號
一 工場名
一 業務
一 休業ノ始期及終期 自 年 月 日 至 年 月 日

前記ノ通休業致候條此段及御屆候也

年 月 日

住所 事業主 氏 名 印

警視總監 殿

第十號樣式ノ二（第三十四條第三號ニ依ルモノ）

休業中ノ工場ノ事業開始屆

一 工場設置地地名番號
一 工場名
一 業務
一 屆出休業年月日 自 年 月 日 至 年 月 日
一 事業開始年月日

前記ノ通休業中ノ處事業開始致候條此段及御屆候也

年 月 日

住所 事業主 氏 名 印

警視總監 殿

第十一號樣式（第三十五條ニ依ルモノ）

工場概況屆

年 月 日

工場所在地
工場名
事業主又ハ管理人 氏 名 ●

警視總監 殿

（一）職工數

男女別	年齢別	員數
男	十四歲未滿	
	十四歲以上十五歲未滿	
	十五歲以上十六歲未滿	
	十六歲以上	
	計	
女	十四歲未滿	
	十四歲以上十五歲未滿	
	十五歲以上十六歲未滿	
	十六歲以上	
	計	
合計		

(二) 從業者數

男女別	男	女	計
人員			

(三) 原動機ノ種別、臺數及馬力數

電動機		蒸汽機關		瓦斯又ハ石油機關		其ノ他ノ原動機	
臺數	馬力	臺數	馬力	臺數	馬力	臺數	馬力

記載心得

一 職工(徒弟ヲ含ム)トハ事業主ノ代理人、戸主、家族又ハ事務員ヲ除キタルモノヲ謂フ

二 從業者トハ職工以外ノモノニシテ工場内ニ於テ作業ニ從事スルモノヲ謂フ

三 原動機中汽罐又ハ自家發電ノ電力ニ依リ運轉スル電動機並ニ豫備發電機運轉ノ爲設置スルモノハ之ヲ除ク

工場災害事故報告

第十二號樣式(第三十六條ニ依ルモノ)(用紙美濃半折大)

事業主ノ住所		氏名	印
工場設置地 地名番號		工場名	
作業ノ種別	職工數	男	女	計
事故發生日時	年 月 日 前後 時 分		
災害原因及發生狀況			

被害ノ狀況							
死傷者數			被害ノ狀況				
性	男	女					
死亡者							
三日以上ノ休業ヲ要スル者							
其他ノ負傷者							
計							

死傷又ハ中毒者ノ氏名及男女別年齡					
性	氏名	年齡			
本事故ニ對スル措置					

年 月 日 屆出

工場取締規則

第十三號樣式（第四十六條ニ依ルモノ）（用紙美濃紙）

工場現況届

本籍
受付印

署受付印

事業主ノ	住所
	氏名
	生年月日
工場所在地地名番號	
工場名	
作業ノ種別	
作業ノ方法	
作業時間	自　時　分　至　時　分
常時使用スル職工數	男　名 女　名
	其ノ他ノ從業者數　男　名 女　名
敷地面積	
建築面積（合計）	建築物ノ構造　用途種別　各階床面積 一階　二階　三階
床面積（合計）	

法人ニ在リテハ事務所所在地、名稱及代表者ノ氏名

| | | |

工場取締規則執行心得

（昭和十六年七月三日制令第四四四號第五）

第一條　工場取締規則（以下單ニ規則ト稱ス）第一條第二項ノ規定ニ依リ規則ノ全部又ハ一部ヲ適用スル必要アリト認ムル建設物アルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ速ニ之ヲ保安衛生部長ニ報告スベシ

第二條　警察署長規則第四條、第五條又ハ第二十九條第二項ノ規定ニ依ル處分ヲ要スト認ムルモノアルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ本廳主管ノ工場ニ在リテハ之ヲ保安衛生部長ニ報告シ警察署主管ノ工場ニ在リテハ之ヲ保安衛生部長ニ稟議スベシ

第三條　警察署長規則第八條ノ規定ニ依ル願書ヲ受理シタルトキハ速ニ調査ノ上第一號樣式ニ依ル調査書ヲ作成添附シ署印ヲ押捺シ之ヲ保安衛生部長ニ進達スベシ

第三條ノ二　警察署長規則第九條ノ規定ニ依ル本廳ノ主管ニ係ル工場ノ屆書ヲ受理シタルトキハ左ノ各號ニ依リ處理スベシ

一　第一項第一號乃至第四號ニ該當スル屆ニ在リテハ速ニ調査ノ上第一號樣式ニ依ル調査書ヲ作成添付シ署印ヲ押捺シテ之ヲ保安衛生部長ニ進達シ本廳ヨリ屆書ノ副本ニ工場屆濟證印ヲ押捺シテ返送セラレタルトキハ速ニ之ヲ屆出人ニ交付シ正本ハ之ヲ保存スヘシ

二　第一項第五號乃至第七號ニ該當スル屆ニ在リテハ速ニ調査シ支障ナシト認ムルモノニ付テハ副本ニ工場屆濟證印（香號ノ記入ヲ要セズ）ヲ押捺シテ屆出人ニ之ヲ交付シ正本ハ之ヲ保存スヘシ但シ調査ニ依リ支障アリト認ムルモノハ保安衛生部長ニ稟議ノ上措置スヘシ

三　第一項第八號ニ該當スル屆ニ在リテハ副本ニ工場屆濟證印（香號ハ願書ノ本廳受付香號ニ依ル）ヲ押捺シテ之ヲ屆出人ニ交付シ正本ハ願書ニ添付シ置クヘシ但シ工場竣功ノ見込ナシト認ムルモノニ在リテハ意見ヲ具シ關係書類ヲ保安衛生部長ニ進達スヘシ

第四條　警察署長規則第八條但書ノ規定ニ依ル屆書又ハ第九條ノ規定ニ依ル警察署主管ノ屆書ヲ受理シタルトキハ速ニ調査シ支障ナシト認ムルモノニ付テハ屆書ノ副本ニ規則第十條第三項ノ規定ニ依ル工場屆濟證印ヲ押捺シテ之ヲ交付スベシ

前項屆出ノ內容ニシテ規則第二十六條ノ規定ニ依リ之ヲ禁止セントスルトキハ事由ヲ詳記シ保安衛生部長ニ稟議スベシ

第五條　工場ニシテ作業ノ變更其ノ他ニ因リ主管官廳ニ變更ヲ生ズルニ至ルベキトキハ新ニ工場設置願ヲ提出セシムルコトナク當該願屆書ニ關係書類ヲ添ヘ新ナル主管官廳ニ送付スベシ

但シ警察署主管工場ニシテ常時使用スル職工數十名以上ト爲リタル場合ハ新ニ設置願ヲ提出セシムベシ

第六條　警察署長工場ニ關シ特ニ技術上ノ調査ヲ要スルモノアリト認ムルトキハ保安衛生部長ニ其ノ調査ヲ求ムベシ

第七條　警察署長規則第十一條第一項ノ規定ニ依ル竣功屆ヲ受理シタルトキハ左ノ各號ニ依リ處理スベシ

一　本廳ノ主管ニ係ル工場ノ願屆書ノ正本ニ「竣檢」ノ印ノ押捺アルモノニ在リテハ速ニ實査シ支障ナシト認ムルモノハ其ノ旨屆書ニ朱書シ願屆書ノ正本其ノ他ノ關係書類ト共ニ保安衛生部長ニ進達スヘシ但シ設置ノ場合ヲ除クノ外既ニ交付シタル工場使用認可證ヲ添付スベシ

二　前號ノ願屆書ノ正本ニ「竣檢」ノ印ノ押捺ナキモノニ在リテハ速ニ實査シ支障ナシト認ムルトキハ工場使用認可證（香號ハ願書ノ本廳受付香號ニ依ル）ヲ交付シ屆書ハ正本ニ添付シ置クベシ但シ設置ノ場合ヲ除クノ外既ニ交付シタル工場使用認可證ニ其ノ旨記入シ之ヲ還付スベシ

三　規則第十一條第一項但書ノ規定ニ依ル

竣功届ノ處理ニ付テモ前各號ノ規定ニ依ルベシ

四　警察署主管ニ係ル工場ノ竣功届ヲ受理シタルトキハ速ニ實査シ支障ナシト認ムルトキハ遲滯ナク工場使用認可證ヲ交付スベシ但シ設置ノ場合ヲ除クノ外既ニ交付シタル工場使用認可證ニ其ノ旨記入シ之ヲ還付スベシ

第八條　規則中願届書ニ付樣式ヲ示セルハ便宜ニ基ヅクモノナルヲ以テ多少ノ相違アルモ要件ヲ具備セル願届書ハ之ヲ受理スベシ

第九條　警察署長規則第十一條第三項ノ規定ニ依ル届書ヲ受理シ事實相違ナシト認ムルトキハ工場使用認可證（番號ハ警察署ノ受付番號ニ依リ記載事項欄ニ再交付ノ旨記入スルコト）ノ再交付ヲ爲シ届書ニ再交付年月日ヲ記入シ之ヲ保存スベシ

第十條　警察署長規則第二十八條、第二十九條第一項、第三十條第二項及第三十三條ノ規定ニ依ル届書ヲ受理シ事實相違ナシト認ムルトキハ其ノ届出ニ係ル事項ヲ速ニ使用認可證ニ記入シ之ヲ届出人ニ還付シ届書ニシテ本廳主管ノモノニ在リテハ署印ヲ押捺シ使用認可證記入濟ノ旨附記シ之ヲ保安衛生部長ニ進達スベシ但シ規則第三十三條第四號ノ場合ハ使用認可證ト共ニ進達スベシ

第十一條　警察署長規則第三十二條第一項本文ノ届書ヲ受理シタルトキハ專ラ附近關係ヲ調査シ本廳主管工場ニ在リテハ意見ヲ附シ意見ノ要ナキトキハ届書ニ署印ヲ押捺シテ保安衛生部長ニ進達シ警察署主管工場又ハ同條但書ノ届出ニシテ支障ナキトキハ届書副本ニ同條第二項ノ規定ニ依ル工場届濟證印ヲ押捺シ之ヲ交付スベシ但シ臨時變更届ハ概ネ期間二月以内ヲ限リ届出セシムベシ

第十二條　警察署長ハ規則第三十四條ノ規定ニ依ル届書ニシテ事實相違ナシト認ムルトキハ届書ニ署印ヲ押捺シテ保安衛生部長ニ進達スベシ

第十三條　警察署長規則第三十五條ノ規定ニ依ル届書ヲ受理シタルトキハ速ニ之ヲ取纏メ保安衛生部長ニ進達スベシ

第十四條　工場ニ關シ重大ナル事故發生シタルトキハ直ニ現場ニ付調査シ其ノ狀況ヲ電報又ハ電話ニ依リ保安衛生部長ニ報告スベシ

第十五條　規則第三十六條ノ規定ニ依ル届書ハ左ノ各號ニ準據セシムベシ

一　災害原因及發生狀況ハ可及的詳細ニ記入セシムルコト

二　成ルベク災害發生ノ現場及附近ノ寫眞又ハ見取圖ヲ添附セシムルコト

第十六條　工場ノ臨檢視察ニ當リテハ特ニ左ノ事項ニ注意スベシ

一　許可ヲ受ケズシテ規則第八條各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲スコトナキヤ

二　届出ヲ爲サズシテ規則第九條各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲スコトナキヤ

三　使用認可ヲ得ズシテ使用スルコトナキヤ

四　規則第二十七條ニ規定スル遵守事項ヲ勵行シ居ルヤ

五　届出ヲ爲サズシテ工場作業時間ヲ延長スルコトナキヤ

六　著シク震動、騷響、煤煙、粉塵若ハ有臭有害ノ瓦斯、蒸氣、廢液等ヲ發散シ公共ノ安寧ヲ害スルコトナキヤ

第十七條　警察署長ハ工場ニ關シ重大ナル違反事實又ハ取締上參考トナルベキ事項アリタルトキハ之ヲ保安衛生部長ニ報告スベシ

第十八條　警察署長ハ第三號樣式及第四號樣式ノ臺帳ヲ作成シ整理スベシ

許可ニシテ條件又ハ期限ヲ附シタルモノナルトキハ當該事項ヲ臺帳ニ朱書シ置クベシ

第十九條　警察署長ハ毎月事務取扱ノ結果ヲ第五號樣式ノ一及二ニ依リ翌月十日迄ニ保安衛生部長ニ報告スベシ

附　則

本令ハ昭和十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

工場取締規則執行心得

昭和四年十二月訓令甲第三十八號工場取締規則執行心得ハ之ヲ廢止ス

本令公布前發シタル指示又ハ通牒ニシテ本令ノ規定ニ抵觸スルモノハ其ノ效力ヲ失フ

本令ハ昭和十六年七月十二日ヨリ施行ス

第一號樣式（用紙美濃半切）

署長	警部	主任

昭和　年　月　日調査

警察署	調査者
地域	地區
本建築物假設建築物ノ區別	
建築線關係ノ適否	
許可路線ノ有無	
周圍ノ狀況	
作業上特ニ注意ス可キ事項	
右各項以外支障ノ有無	

第二號樣式（縱十二糎横六糎）

工場假使用承認書

工場名又ハ事業主名

昭和　年　月　日　許可指令第　號

工場服濟證第　號

ノ件假使用ヲ承認ス

本承認書ハ使用認可證交付ノ際返却スベシ

昭和　年　月　日

警察署

工場取締規則施行心得

工　場　業　主

住所
氏名

代理人
住所
氏名

使用認可　年　月　日

作業種類	合計	職工	男子	十五年以上							
				十五年未満							
			女子	十五年以上							
				十五年未満							
職工就業時間	休憩時間	午前	時　分ヨリ	時　分マデ							
		午後	時　分ヨリ	時　分マデ							
休業日											
備考											

種別	番号	出力	数
工動作業			

原動機	合計	馬力									
	汽缶	馬力									
	汽機	馬力									
	瓦斯発動機	馬力									
	電動機	馬力									
	水車	馬力									
電灯設備	有	灯									
	無										

（裏面ニ主任）

（第一号様式（第十二条関係））

年　月　日											

第四號樣式（カード式縦十三糎横十八糎）（表面）

工場臺帳	署長	警部	主任	係

事業主	氏名		管理人	氏名		工場所在地	
	住所			住所			

設置許可	年　月　日	使用認可	年　月　日

作業別		電動機	合計　馬力	職工數	男	坪數	地積 敷面	
			箇		女			
					計		築積 建面	
		作業時間	自　時　分	從業者數	男			
			至　時　分		女		床積 面	
					計			

設備機械

備考

（管主署察管）

年　月　日	變更事項

（裏面）

第五號樣式（用紙半紙半切）

昭和　年　月　日

保安部長宛

年　月分工場事務取扱報告

種別	前月末現在	設置	廢止	本月末現在	休業	設置	使用	使用
					廢出	禁止	禁止	停止
工場數								

警察署長

「セルロイド」工場取締規則

（昭和十四年六月二十四日警令第一七號改正）

第一章　通　則

第一條　本令ハ他ノ法令ニ別段ノ規定アルモノノ外左ノ各號ノ一ニ該當スル作業ヲ爲ス工場ニ之ヲ適用ス

一　「ニトロセルローズ」又ハ「セルロイド」ノ製造

二　「ニトロセルローズ」又ハ「セルロイド」ヲ材料トスル物品ノ製造又ハ加工

三　「ニトロセルローズ」又ハ「セルロイド」塗料ノ製造又ハ吹付若ハ塗付（手塗ヲ除ク）

四　「セルロイド」屑ノ水洗、撰別

第二條　本令ニ依リ警視總監ニ提出スベキ願届ハ所轄警察署長ヲ經由スベシ

第三條　本令ニ依ル願届ハ願届人ニシテ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ法定代理人、準禁治産者ナルトキハ保佐人、妻ナルトキハ夫ノ連署ヲ要ス

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ本令ニ依ル許可又ハ認可ヲ取消スコトアルベシ

一　本令ニ依ル職居ニ處セラノ事項ヲ記載シタルトキ

二　竣功期日ヲ經過シ仍工事竣功セザルトキ

三　工場ノ使用權ヲ喪失シタルトキ

四　法定代理人、保佐人又ハ夫ノ同意又ハ許可ヲ取消サレタルトキ

第五條　工場ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ使用ノ禁止、停止其ノ他必要ナル措置ヲ命ズルコトアルベシ

一　保安上危險ト認ムルトキ

二　衞生上有害ト認ムルトキ

三　其ノ他公供ノ利益ヲ害スル虞アリト認ムルトキ

四　本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ

第六條　警視官吏工場ヲ臨檢セントスルトキ

「セルロイド」工場取締規則

又ハ検査ニ必要ナル準備ヲ命ジタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

第二章　設備手續

第七條　工場ヲ設置セントスルトキ又ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ警視總監ニ届出ヅベシ

一　建築物ヲ大修繕又ハ大變更セントスルトキ

二　作業ニ關係ナキ建築物ニシテ床面積二十平方米以下且高サ五米ヲ超エザルモノヲ改築、再築、増築、擴張、用途變更又ハ移轉セントスルトキ（市街地建築物法施行規則第百四十三條第一項第二號乃至第五號ニ該當スルモノヲ除ク）

三　建築物ヲ縮少又ハ除却セントスルトキ

四　機械其ノ他設備ヲ増設、變更又ハ移轉セントスルトキ

五　原動機、機械其ノ他設備ヲ廢止セントスルトキ

六　煉熕又ハ煙突ヲ廢止セントスルトキ

七　燃料ノ一日最大消費量又ハ原料若ハ材料ノ一日最大取扱量ヲ變更セントスルトキ

セントスルトキ

第八條　工場ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ警視總監ニ届出ヅベシ

一　建築物ヲ大修繕又ハ大變更セントスルトキ

二　作業ニ關係ナキ建築物ニシテ床面積二十平方米以下且高サ五米ヲ超エザルモノヲ改築、再築、増築、擴張、用途變更又ハ移轉セントスルトキ（市街地建築物法施行規則第百四十三條第一項第二號乃至第五號ニ該當スルモノヲ除ク）

三　建築物ヲ縮少又ハ除却セントスルトキ

四　機械其ノ他設備ヲ増設、變更又ハ移轉セントスルトキ

五　原動機、機械其ノ他設備ヲ廢止セントスルトキ

六　煉熕又ハ煙突ヲ廢止セントスルトキ

七　燃料ヲ變更セントスルトキ

八　防火又ハ消火設備ヲ變更セントスルトキ

九　常時使用スル職工數其ノ他從業者數ヲ變更セントスルトキ

十　工事竣功期日ヲ變更セントスルトキ

前項ニ依ル届出事項中第一號乃至第九號ハ行爲ノ十日以前ニ之ヲ爲スベシ但シ第九條第三項ノ規定ニ依リ副本ノ交付ヲ受ケタルトキハ届出後十日ニ至ラズト雖モ届出事項ヲ爲スコトヲ得

第九條　前二條ノ規定ニ依ル届出ハ第一號様式ノ一、二又ハ三ニ依リ左ノ書類ヲ添附ノ上正副二通ヲ提出スベシ但シ届出ニ關係ナキ事項ハ之ヲ省略スルコトヲ得

一　配置圖

イ　周圍ノ狀況

ロ　敷地内建築物ノ配置

ハ　機械其ノ他設備ノ配置及動力傳導裝置ノ概要

二　建築物ノ圖面及設計圖

三　原動機、機械其ノ他設備ノ構造調書

四　第十四條ノ規定ニ依ル消火設備ニ關スル調書及配置圖

五　職工五十人以上ヲ使用スル工場ニ在リテハ職工ヲ收容スベキ寄宿舍又ハ住宅ニ關スル調書

六　臨時資金調整法第四條ノ二ノ規定ニ依リ府縣ノ許可ヲ受クベキモノニ在リテハ日本銀行總裁ノ許可通知書ノ寫、同條但書ノ規定ニ該當スルモノニ在リテハ其ノ旨記載シタル書類

七　臨時農地等管理令第三條ノ規定ニ依リ農林大臣又ハ地方長官ノ許可ヲ受クベキモノニ在リテハ其ノ許可書ノ寫（同令第四條ノ規定ニ該當スルモノヲ除ク）

八　電力調整令施行規則第一條又ハ第三條ノ規定ニ依リ遞信大臣又ハ遞信局長ノ認可ヲ受クベキモノニ在リハテ其ノ電力供給認可書ノ寫但シ十キロワット（又ハ十五馬力）未滿ノモノニ在リテハ聽定電氣

供給事業者ノ電力供給契約書ノ寫、自家用電氣施設ノ認可ヲ受ケタルモノニシテ其ノ契約量以内ノ増加設備ニ在リテハ其ノ旨記載シタル書類

九　企業許可令第三條ノ規定ニ依リ行政官廳ノ許可又ハ指定統制會ノ承認ヲ受クベキモノニ在リテハ其ノ許可書又ハ承認書ノ寫但シ企業許可令施行規則第六條ノ規定ニ依リ許可又ハ承認ヲ要セザルモノニ在リテハ臨時資金調整法第四條ノ規定ニ依ル政府ノ認可又ハ許可ニ關スル書類ノ寫（日本銀行總裁ノ認可通知書又ハ許可通知書ノ寫）臨時資金調整法第四條ノ二但書ノ規定ニ依リ政府ノ許可ヲ要セザルモノニ在リテハ其ノ旨記載シタル書類

前項ノ外必要ト認ムル書類又ハ圖面ノ提出ヲ求ムルコトアルベシ（第一項ノ規定ニ依リ提出シタル副本ハ願書ノモノニ在リテハ指令書ト共ニ屆書ノモノニ在リテハ第二號樣式ニ依ル「セルロイド」工場届済證印ヲ押捺シテ之ヲ交付ス）

第十條　工事竣功シタルトキハ第三號樣式ノ一ニ依リ届出デ第四號樣式ニ依ル使用認可證ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ竣功前ト雖モ支障ナシト認ムルトキハ其ノ一部使用ヲ認可スルコトアルベシ

一部使用認可ヲ受ケントスルトキハ第三號樣式ノ二ニ依リ届出ヅベシ

使用認可證ハ之ヲ工場内ニ保存スベシ亡失又ハ毀損シタルトキハ第五號樣式ノ一又ハ二ニ依リ遲滯ナク届出デ再交付ヲ受クベシ

第十一條　工場ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ本令ニ依ル許可ハ其ノ效力ヲ失フ

一　竣功期日經過後六月以内ニ使用認可ヲ受ケザルトキ

二　事業主ノ所在不明九十日以上ニ亘リタルトキ

第十二條　他ノ法令（昭和十一年四月警視廳令第六號危險物取締規則、同年五月警視廳令第七號「アセチレン」瓦斯取締規則、同年十一月警視廳令第十七號自動車車庫取締規則及市街地建築物法令ヲ除ク）ニ依リ警視總監ノ許可又ハ認可ヲ受クルヲ要スル事項ニシテ本令ノ規定ニ依ル許可又ハ認可ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ法令ニ依ル願書ニ本令ノ規定ニ依ル事項ヲ併セ具スベシ但シ重複スルモノハ之ヲ省略スルコトヲ得

前項ノ願出ニ對シ許可又ハ認可ヲ爲シタルトキハ併セテ本令ノ規定ニ依ル許可又ハ認可ヲ爲シタルモノトス

第三章　構造設備

第十三條　作業場ノ構造設備ハ左ノ制限ニ依ルベシ

一　平家建タルコト

甲　平家建ノ全部ヲ使用スル場合

イ　床面積十七平方米ヲ超過スルモノニ在リテハ外壁ハ耐火構造又ハ準耐火構造トシ十七平方米以下ノモノニ在リテハ外壁ハ不燃材料ヲ以テ構成シ又ハ被覆スルコト

ロ　壁體、柱及床ハ不燃材料ヲ以テ構成シ又ハ被覆スルコト

ハ　屋根ハ不燃材料ヲ以テ葺葺シ屋根裏、天井其ノ他ニシテ露出セル木部其ノ他可燃性ノモノハ不燃材料ヲ以テ被覆スルコト

乙　平家建ノ一部ヲ使用スル場合

イ　床面積十七平方米ヲ超過スルモノニ在リテハ壁體ハ耐火構造トシ十七平方米以下ノモノニ在リテハ壁體ノ内面ハ厚サ三十五粍以上ノ「セメントモルタル」塗タルコト

ロ　天井、柱及床ハ不燃材料ヲ以テ構成シ又ハ被覆スルコト

ハ　天井、柱及床以外ノ露出セル木部其ノ他ノ可燃性ノモノハ不燃材料ヲ以テ被覆スルコト

二　出入口ハ容易ニ安全ナル場所ニ避難シ得ル爲適當ナルモノ二箇以上ヲ設ケ其ノ戸ハ外開戸又ハ引戸ト爲スコト

三　窓、出入口其ノ他ノ開口ニハ不燃材料ニテ構成シ又ハ被覆シタル建具ヲ使用スルコト

四　原動機及汽罐ハ別室又ハ安全ナル場所ニ在ルモノノ外災害豫防上適當ナル方法ニ依リ設備スルコト

五　機械、器具ニ依リ切屑ヲ多量ニ生ズル作業場ハ別室トシ保安上適當ナル設備ヲ爲スコト

六　「ニトロセルローズ」及其ノ製品ヲ粉碎シ又ハ細斷スル作業場ハ別棟トシ保安上適當ナル設備ヲ爲スコト

七　塗料ノ吹付ヲ爲シ又ハ引火性ノ蒸氣ヲ發散スル作業場ニハ有效ナル換氣裝置ヲ設クルコト

八　「ニトロセルローズ」、「セルロイド」又ハ「ニトロセルローズ」塗料ノ置場ハ火災豫防上適當ナル構造ト爲スコト

九　電氣工作物ハ火災豫防上適當ナル施設ヲ爲スコト

十　作業上特ニ必要トスル火床、七輪、電熱器、蒸氣管等ニハ安全ナル裝置ヲ施スコト

前項ノ制限ニ付テハ建築物ノ構造、設備、作業ノ方法又ハ四圍ノ狀況ニ依リ特ニ斟酌シ又ハ別段ノ事項ヲ命ズルコトアルベシ

第十四條　工場ニハ水槽、消火器、砂其ノ他適當ナル消火設備ヲ爲スベシ

作業ノ種類、建築物ノ規模、構造等ニ依リ必要アリト認ムルトキハ消火栓又ハ自動消火栓其ノ他ノ設置ヲ命ズルコトアルベシ

第十五條　工場ノ周圍ニ塀壁アル場合ハ二箇以上ノ避難口又ハ避難設備ヲ塀壁中適當ナル箇所ニ設ケ其ノ標示ヲ爲スベシ

第十六條　工場敷地ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ工場ノ設置ヲ許可セズ但シ建物ノ構造、設備、作業ノ方法又ハ四圍ノ狀況ニ依リ支障ナシト認メラルルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一　宮城、離宮又ハ御用邸ヨリ四百米以內ニアルトキ

二　學校、病院、公會、兵營、幼稚園、興行場其ノ他多衆ヲ收容スベキ建造物ヨリ百米以內ナルトキ

第十七條　工場ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ設計ノ變更若ハ必要ナル施設ヲ命ジ又ハ其ノ出願ニ對シ許可セズ若ハ屆出事項ヲ禁止スルコトアルベシ

一　著シク騷音、震動ヲ發シ又ハ火災ヲ生ジ其ノ他保安上危險ノ虞アリト認ムルトキ

二　著シク煤煙、粉塵ヲ發散シ又ハ有臭有害ノ瓦斯、蒸氣、煙氣若ハ廢液ヲ生ジ其ノ他衞生上有害ノ虞アリト認ムルトキ

三　其ノ他公共ノ利益ヲ害スル虞アリト認ムルトキ

第四章　工場管理

第十八條　工場ノ作業ハ本令ニ定ムル作業場以外ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第十九條　作業場ニ於テハ左ノ事項ヲ遵守スベシ

一　作業上特ニ必要アル場合ノ外火氣ヲ使用シ又ハ火花ヲ發セシメザルコト

二　燈火ハ安全燈、電燈其ノ他危險ナキモノノ外使用セザルコト

三　「セルロイド」ハ三日ノ作業ニ必要ナル量ヲ超エテ藏置セザルコト

四　爆藥其ノ他危險ノ行爲ヲ爲サザルコト

五　一日二回以上場內ノ掃除ヲ爲スコト

六　危害豫防又ハ公害除去ノ爲ニ設ケラレタル設備ハ常ニ有效ニ保持スルコト

七　作業中生ズル「セルロイド」屑ハ之ヲ明示セル有蓋不燃性容器ニ收納スルコト

八　作業場內ノ通路ハ常ニ有效ニ保持スルコト

九　非常口ハ常ニ避難ニ支障ナカラシメ置クコト

十　非常口又ハ危險ナル箇所ニハ適當ナル標示ヲ爲スコト

十一　有爆燃料ヲ使用スル場合ハ適時ニ燈

突ヲ掃除スルコト

第二十條　事業主ハ作業場ノ階段キ場所ニ左ノ事項ヲ掲示スベシ

一　喫煙其ノ他火氣使用ヲ禁ズルコト

二　場内掃除ノ回數及其ノ時刻

第二十一條　工場ヲ承繼シタルトキハ第七號樣式ノ三樣式ノ一又ハ二ニ依リ双方連署ノ上工場使用認可證ヲ添附シ十日以内ニ届出ヅベシ但シ連署シ能ハザルトキハ其ノ旨ヲ附記シ且其ノ事由ヲ確認スルニ足ルベキ書類ヲ添附スベシ

相續ニ因ル承繼アリタルトキハ相續人ハ相續開始ノ日ヨリ三十日以内ニ第六號樣式ノ三ニ依リ工場使用認可證ヲ添附シ其ノ旨届出ヅベシ

第二十二條　事業主自ラ工場ヲ管理スルコト能ハザルトキハ工場ニ付一切ノ權限ヲ有スル管理人ヲ選任スルコトヲ得

管理人ヲ選任又ハ變更シタルトキハ第七號樣式ノ一又ハ二ニ依リ管理人ノ履歷書、選任契約書竝ニ使用認可證ヲ添附シ届出ヅベシ

管理人ヲ帰任シタルトキハ第七號樣式ノ三ニ依リ使用認可證ヲ添附届出ヅベシ

管理人ニシテ不適當ト認ムルトキハ其ノ變更ヲ命ズルコトアルベシ

第二十三條　工場法ニ依リ選任セラレタル工場管理人ハ本令ニ依ル管理人ト看做ス

前項ノ選任アリタルトキハ第七號樣式ノ四ニ依リ使用認可證ヲ添附シ遲滯ナク其ノ旨届出ヅベシ

第二十四條　管理人ハ本令ノ適用ニ付テハ事業主ニ代ルモノトス

第二十五條　作業時間竝ニ始業時、終業時ヲ變更セントスルトキハ第八號樣式ノ一又ハ二ニ依リ正副二通ヲ作成シ届出ヅベシ但シ臨時ノ變更ニ在リテハ所轄警察署長ニ届出ヅベシ

前項ノ規定ニ依リ提出シタル副本ハ第二號樣式ニ依ル「セルロイド」工場届濟證印ヲ押

捺シテ之ヲ交付ス

第二十五條ノ二　工場ニシテ工場法又ハ工場就業時間制限令ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲シ就業時間ノ延長ヲ爲シタル場合ハ前條第一項但書ノ規定ニ依ル届出ハ之ヲ要セズ

第二十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ第九號樣式ノ一又ハ二ニ依リ使用認可證ヲ添附シ遲滯ナク届出ヅベシ

一　事業主ノ住所氏名（法人ニ在リテハ其ノ名稱事務所所在地及代表者名）ニ變更アリタルトキ

二　工場管理人ノ住所氏名ニ變更アリタルトキ

三　工場設置地地名番號ニ變更アリタルトキ

四　事業ヲ廢止シタルトキ

第二十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ第十號樣式ノ一乃至三ニ依リ遲滯ナク届出ヅベシ

一　法定代理人、保佐人又ハ夫ニ變更アリタルトキ

二　工場名ニ變更アリタルトキ

三　休業六月ニ及ブトキ又ハ休業後事業ヲ開始シタルトキ

第二十八條　工場ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ第十一號樣式ニ依リ遲滯ナク届出ヅベシ但シ工場法施行規則第二十五條又ハ第二十六條ノ規定ニ依ルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一　火災、爆發、破裂、倒壞其ノ他ノ事故發生シタルトキ

二　職工其ノ他ノ從業者業務ノ爲死亡シ又ハ負傷シ若ハ急性中毒ニ罹リ療養ノ爲三日以上休業ヲ要スベキトキ

三　其ノ他一時ニ三人以上ノ死傷者ヲ生ジタルトキ

第二十九條　事業主ハ第十二號樣式ニ依リ毎年十月一日現在ノ工場概況ヲ同月十五日迄ニ届出ヅベシ但シ工場法施行細則第二十八

條又ハ工場取締規則第三十五條ノ規定ニ依ルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十條　事業主ハ本令ニ依リ提出シタル書類ニシテ第七條又ハ第八條ノ規定ニ依ル願屆ノ副本ハ事業繼續期間中、其ノ他ノ書類ハ謄本ヲ作成シ二年間之ヲ工場ニ保存スベシ

第五章　罰　則

第三十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ科料ニ處ス

一　第六條、第七條、第十條第一項同第三項、第十四條第一項、第十五條、第十八條乃至第二十條、第三十條ノ規定ニ違反シタル者

二　第八條、第二十一條、第二十二條第二項同第三項、第二十三條第二項、第二十五條第一項、第二十六條乃至第二十九條ノ規定ニ依ル屆出ヲ怠リ又ハ其ノ屆出ニ虛僞ノ記載ヲ爲シタルモノ

三　第五條、第十四條第二項、第十七條第二十二條第四項ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者

第三十二條　事業主又ハ管理人ハ其ノ代理人家族、同居者、雇人、職工其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第三十三條　事業主ニシテ未成年者又ハ禁治產者ナル場合ニ於テ管理人ナキトキハ本令ノ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

事業主法人ニシテ管理人ナキトキハ本令ノ罰則ハ之ヲ其ノ代表者ニ適用ス

附　則

本令ハ昭和十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和六年六月警視廳令第二十一號「セルロイド」工場取締規則ハ之ヲ廢止ズ

工場ニシテ昭和六年六月警視廳令第二十一號「セルロイド」工場取締規則ニ依リ許可若ハ認可ヲ受ケ又ハ屆出ヲ爲シタルモノハ本令ニ依リ許可若ハ認可ヲ受ケ又ハ屆出ヲ爲シタルモノト看做ス

第一號樣式ノ一（第九條第一項ニ依ルモノ）（日本標準規格B4）

「セルロイド」工場設置願

署受付印　○

本廳受付印　○

事業主	住所	
	氏名	
	生年月日	
法人ニ在リテハ事務所所在地、名稱及代表者ノ氏名		
工場設置地地名番號		
工場名		
作業ノ種別		
作業ノ方法（又ハ別紙作業方法說明書ノ通）		
作業時間	自　時　分　至　時　分　時間	
常時使用スル職工數	男　名 女　名	其ノ他ノ從業者數　男　名　女　名
敷地面積		建築物ノ構造　用途種別　各階床面積　一階　二階　三階
建築面積（合計）		
床面積（合計）		
作業場床面積（合計）		

折……ル

原動機			機械其ノ他ノ設備			
種別	馬力數	個數	名稱	主要寸法又ハ能力ヲ示ス標準	個數	用途

煙突		汽罐		窯爐	燃料	
構造種別	口徑及高サ	種別	大サ		種類	一日最大消費見積量

除害設備ノ概要

工事竣功期日

右工場設置致度關係書類相添ヘ此段及御願候也

年　月　日

右事業主　氏　名　印

住所

右代理人　氏　名　印

警視總監　殿

第一號樣式ノ二（第九條第一項ニ依ルモノ）（日本標準規格B4）

「セルロイド」工場

願、屆）

署受付印

本廳受付印

事業主

住所

氏名

生年月日

法人ニ在リテハ事務所所在地、名稱及代表者ノ氏名

工場設置地地名番號

工場名

作業ノ種別

常時使用スル職工數　男　女　名　名

其ノ他ノ從業者數　男　女　名　名

現在ノ狀態ヲ記入スルコト

原動機			機械其ノ他ノ設備		
種別	馬力數	個數	名稱	用途	個數

煙突		汽罐		窯爐
構造種別	口徑及高サ	種別	大サ	

「セルロイド」工場取締規則

	現在	本願ニ依ル増減	合計(又ハ差引)
原動機馬力数			
敷地面積			
建築面積			
床面積			
作業場床面積			
出願ノ要旨			
除害設備			
工事竣功期日			

右工場　致度關係書類相添(此段及御願(届)候也

年　月　日　右事業主　住所　氏　名　印

警視總監　殿

右代理人　住所　氏　名　印

第一號標式ノ三　(第九條第一項ニ依ルモノ)

(用紙半紙)

工事竣功期日變更届

事業主　住所　氏　名

一　工場所在地

一　工場名

一　作業ノ種別

一　願届出ノ要旨

一　願届出年月日

一　許可届済年月日

一　指令番號

一　竣功期日

一　延期セントスル年月日

右工事　ノ爲メ竣功期日變更致シ度候間此段及御届候也

年　月　日　右　住所　氏　名　印

警視總監　殿

「セルロイド」工場取締規則

第二號標式

直徑四十ミリメートル

直徑四十ミリメートル

第三號標式ノ一　(第十條第一項ニ依ルモノ)

(用紙半紙)

工事竣功届

一 工場所在地
一 工場名
一 作業ノ種別
一 願届出ノ要旨
一 願届出年月日
一 許可済年月日
一 指令番號
一 竣功年月日

右ノ通竣功致候條使用認可相成度此段及御届候也

年 月 日

右

事業主 住所

氏名 印

警視總監 殿

（用紙半紙）

第三號様式ノ二（第十條第二項ニ依ルモノ）

工事一部竣功届

一 工場所在地
一 工場名
一 作業ノ種別
一 願届出ノ要旨
一 願届出年月日
一 許可済年月日
一 指令番號
一 一部竣功年月日

右工場添附圖面ノ通工事一部竣功致候條一部使用認可相成度此段及御届候也

年 月 日

右

事業主 住所

氏名 印

警視總監 殿

第四號様式（色、赤色）（縦十五糎横二十二糎）

表面

一 本認可證ハ工場内ニ保存スベシ
一 竣功届ニハ本認可證ヲ添附スベシ
一 廃場届ニハ本認可證ヲ添附スベシ

「セルロイド」工場取締規則

第　　號

セルロイド工場使用認可證

昭和　年　月　日

作業別	
所在地	
事業主氏名	
管理人氏名	

裏面

年月日	記載事項	主務者認印

一、毀損事由
右工場使用認可證毀損致候條再交付相成度別紙毀損セル工場使用認可證相添へ此段及御届候也

年　月　日

右
事業主　住所
氏　名　印
殿

警視總監

第六號様式ノ二（第二十一條第一項ニ依ルモノ）

工場承繼並工場名變更届
（工場承繼ト同時ニ工場名ヲ變更スル場合）

一、工場所在地
一、工場名　承繼前
　　承繼後
一、作業ノ種別
一、承繼年月日

右工場承繼前記ノ通工場名變更致候條工場使用認可證相添へ双方連署ノ上此段及御届候也

年　月　日

住所
讓渡人　氏　名　印
住所
讓受人　氏　名　印
生年月日

殿

警視總監

第六號様式ノ三（第二十一條第二項ニ依ルモノ）

工場承繼届（相續ニ因ル場合）

一、工場所在地
一、工場名
一、作業ノ種別
一、承繼年月日

右工場相續ニ因リ承繼致候條工場使用認可證相添へ此段及御届候也

年　月　日

住所
讓受人　氏　名　印
生年月日

被相續人　氏　名
被相續人トノ續柄
住所
相續人　氏　名　印
生年月日

殿

警視總監

第七號様式ノ一（第二十二條第二項ニ依ルモノ）

工場管理人選任届

一、工場所在地
一、工場名
一、作業ノ種別
一、工場管理人　住所
　　氏　名
　　生年月日

右ノ者ヲ工場管理人ニ選任致候條本人ノ履歴書、選任契約書並ニ工場使用認可證相添へ此段及御届候也

年　月　日

事業主　住所
氏　名　印

殿

警視總監

第七號様式ノ二（第二十二條第二項ニ依ルモノ）

工場管理人變更選任届

一、工場所在地

一　工場名
一　作業ノ種別
一　工場管理人　變更前　住所　氏名
　　變更後　住所　氏名
　　生年月日
一　變更選任年月日（工場法ニ依ル場合ニアリテハ認可年月日）
右ノ通工場管理人變更致候條本人ノ履歴書選任契約書（工場法ニ依ル場合ノ）ハ以上二通共省略、工場使用認可證相添ヘ此段及御屆候也
　　年　月　日
　　事業主　住所　氏名　印
警視總監　殿

第七號樣式ノ三（第二十二條第三項ニ依ルモノ）

工場管理人解任屆
一　工場所在地
一　工場名
一　工場管理人　住所　氏名
　　生年月日
一　選任認可年月日
一　指令番號
右ノ通工場法ニ依リ工場管理人選任認可相成候條工場使用認可證相添ヘ此段及御屆候也
　　年　月　日
　　事業主　住所　氏名　印
警視總監　殿

第八號樣式ノ一（第二十五條第一項ニ依ルモノ）

工場作業時間（始業時、終業時）變更屆
一　工場所在地
一　工場名
一　作業ノ種別
一　變更事由
一　從來作業時間　自　時　分　至　時　分
一　變更作業時間　自　時　分　至　時　分
右工場作業時間變更致候條此段及御屆候也
　　年　月　日
　　事業主　住所　氏名　印
警視總監　殿

第八號樣式ノ二（第二十五條第一項ニ依ルモノ）

工場作業時間臨時變更屆
一　工場所在地
一　工場名
一　作業ノ種別
一　臨時變更事由
一　定時作業時間　自　時　分　至　時　分
一　臨時變更作業時間　自　時　分　至　時　分
一　變更期間　自　月　日　至　月　日
右工場作業時間臨時變更致候條此段及御屆候也
　　年　月　日
　　事業主　住所　氏名　印
警視總監　殿

第九號樣式ノ一（第二十六條第一號乃至第三號ニ依ルモノ）

變更屆

一　變更事項

變更前

變更後

一　變更年月日

右ノ通變更致候條工場使用認可證相添ヘ此段及御屆候也

工場所在地

工場名

作業ノ種別

年　月　日

事業主　住所

氏　名印

警視總監　殿

備考　冒頭變更事項欄ニハ變更事項ヲ記入スルコト

第九樣式ノ二（第二十六條第四號ニ依ルモノ）

事業廢止屆

一　工場所在地

一　工場名

一　作業ノ種別

一　事業廢年止月日

右ノ通事業廢止致候條工場使用認可證相添ヘ此段及御屆候也

年　月　日

事業主　住所

氏　名印

警視總監　殿

第十號樣式ノ一（第二十七條第一號及第二號ニ依ルモノ）

變更屆

一　變更事項

變更前

變更後

一　變更年月日

右ノ通變更致候條此段及御屆候也

工場所在地

工場名

作業ノ種別

年　月　日

事業主　住所

氏　名印

警視總監　殿

備考　冒頭變更事項欄ニハ變更事項ヲ記入スルコト

第十號樣式ノ二（第二十七條第三號ニ依ルモノ）

工場休業屆

一　工場所在地

一　工場名

一　作業ノ種別

一　休業期間　自年月日　至年月日

右ノ通休業致候條此段及御屆候也

年　月　日

事業主　住所

氏　名印

警視總監　殿

第十號樣式ノ三（第二十七條第三號ニ依ルモノ）

休業中ノ工場ノ事業開始屆

一　工場所在地

一　工場名

一　作業ノ種別

一　屆出休業期間　自年月日　至年月日

一　事業開始年月日

右ノ通休業中ノ處事業開始致候條此段及御屆候也

年　月　日

事業主　住所

氏　名印

警視總監　殿

第十一號樣式（第二十八條ニ依ルモノ）（日本標準規格B4）

工場災害事故報告

| | | |

(二) 従業者数

男女別	男	女	計
員数			

(三) 原動機ノ種別、数及馬力数

電動機	蒸汽機關	瓦斯又ハ石油機關	其ノ他ノ原動機
数	馬力	数	馬力	数	馬力	数	馬力

記載心得

一 職工(徒弟ヲ含ム)トハ事業主ノ代理人、戸主、家族又ハ事務員ヲ除キタルモノヲ謂フ

二 従業者トハ職工以外ノモノニシテ工場内ニ於テ作業ニ従事スルモノヲ謂フ

セルロイド工場取締規則執行心得

「セルロイド」工場取締規則ノ執行ニ關シテハ左記ニ依リ取扱フベシ

記

一 本通達ニ於テ規則ト稱スルハ「セルロイド」工場取締規則、工場ト稱スルハ「セルロイド」工場ヲ謂フ

二 「セルロイド」ヲ材料トスル物品ノ製造又ハ加工ヲ爲ス作業ニシテ左ノ各號ノ條件ヲ具備スル所謂内職業ハ工場ノ範圍ニ屬セザルモノト看做シ規則ヲ適用セズ

イ 原動機ヲ使用セザルコト

ロ 作業專用面積五平方米以下ナルコト

ハ 従業者ハ三人以下ノ家族ニ限ルコト

ニ 加熱加工ヲ爲サザルコト

ホ 研磨、削リ、孔明ケ等ニ依リ乾燥セル屑ヲ生ゼザルコト

ヘ 引火性料品ヲ使用セザルコト

「セルロイド」工場取締規則執行心得

前各號ノ條件ヲ具備セザルモノト雖モ其ノ規模、收入等ヨリ見テ内職業ノ範圍ヲ超エズ且危險ノ虞ナキ作業ヲ爲スモノト認メタルトキハ保安部長ノ指示ヲ受ケ本則適用ノ有無ヲ決定スルコト

三 規則第七條ノ規定ニ依ル願書又ハ第八條ノ規定ニ依ル届書ヲ受理シタルトキハ所定ノ事項ヲ具備スルヤ否ヤヲ調査シ別表第一號樣式ニ依ル調査書ヲ作成添附シ署印ヲ押捺シ速ニ進達スルコト

四 規則第十條ノ規定ニ依ル竣功届ヲ受理シタルトキハ左ノ各號ニ依リ處理スルコト

イ 竣功届書ヲ受理シタルトキハ速ニ實査シ支障ナシト認ムルモノハ其ノ旨届書ニ朱書シ署印ヲ押捺シテ保安部長ニ進達スルコト

ロ 前號ノ場合ニ於テ願届書ノ副本上部ニ「竣檢」ノ印ノ押捺ナキモノノ竣功届ナルトキハ第二號樣式ニ依ル「工場假使用承認書」ヲ交付スルコト

工場假使用承認書ヲ交付シタルモノニ對シ規則第十條第一項ニ規定スル使用認可證ノ送付アリタルトキハ該承認證ト引換ニ之ヲ交付スルコト

ハ　規則第十條第一項但書ノ規定ニ供ル屆書ノ處理ニ付テモ前各號ノ規定ニ依ルコト

前項ノ場合ニハ設置ノ場合ヲ除クノ外使用認可證ヲ添附セシムルコト

五　規則中願屆書ニ付樣式ヲ示セルハ便宜ニ基クモノナルヲ以テ多少ノ相違アルモ要件ヲ具備セルトキハ之ヲ受理スルコト

六　規則第四號、第五條、第十七條、第二十二條第四項ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ヲ要スト認メタルトキハ其ノ事由ヲ具シ保安部長ニ報告スルコト

七　規則第十一條ノ規定ニ依リ許可ノ效力ヲ失ヒタル者アルトキハ其ノ都度事情ヲ具シ保安部長ニ報告スルコト

八　規則第二十一條、第二十二條第二項、同第三項、第二十三條第二項、第二十六條ノ規定ニ依ル屆書ヲ受理シ事實相違ナシト認ムルトキハ其ノ屆出ニ係ル事項ヲ使用認可證ニ記入ノ上之ヲ屆出人ニ還付シ屆書ニハ署印ヲ押捺シ使用認可證記入濟ノ旨附記シ之ヲ保安部長ニ進達スルコト但シ規則第二十六條第四號ノ場合ハ使用認可證ト共ニ進達スルコト

九　規則第二十五條第一項ノ屆書ヲ受理シタルトキハ專ラ附近關係ヲ調査シ意見ヲ附シ署印ヲ押捺シテ保安部長ニ進達スルコト同條但書ノ屆出ニシテ支障ナキトキハ屆書副本ニ同樣第二項ノ規定ニ依ル「セルロイド」工場屆濟證印ヲ押捺シ之ヲ交付スルコト但シ臨時變更屆ハ概ネ期間二月以內ニ限リ屆出セシムルコト

十　規則第二十七條ノ規定ニ依ル屆書ニシテ事實相違ナシト認ムルトキハ屆書ニ署印ヲ押捺シテ保安部長ニ進達スルコト

十一　工場ニ關シ特ニ技術上ノ調査ヲ要スルモノアルトキハ保安部長ニ其ノ旨報告スルコト

十二　規則第二十八條ノ規定ニ該當スル事故發生シタルトキハ直ニ其ノ狀況ヲ電報又ハ電話ニ依リ保安部長ニ報告スルコト

十三　工場ノ臨檢視察ニ當リテハ特ニ左ノ事項ニ注意スルコト

イ　許可又ハ屆出ナクシテ規則第七條各號又ハ第八條各號ノ行爲ヲ爲ス者ナキヤ

ロ　使用認可ヲ得ズシテ使用スル者ナキヤ

ハ　作業場外ニ於テ作業ヲ爲ス者ナキヤ

ニ　消火栓ニ訪火ノ設備ヲ有效ニ保持セザル者ナキヤ

ホ　規則第十九條所定ノ事項ヲ遵守セザル者ナキヤ

ヘ　規則第二十條所定ノ揭示ヲ爲サザル者ナキヤ

ト　作業場ノ通路、階段、出入口、避難口等ニ其ノ障碍トナルベキ物ヲ置キ又ハ鎖鑰ヲ施シ避難ニ支障ヲ來ス虞ナキヤ

チ　建築物ニシテ腐朽、破損ノ爲危險ノ虞アルモノナキヤ

リ　規則第三十條ノ規定ニ違反スル者ナキヤ

ヌ　前各號ノ外取締上必要ト認ムル事項

十四　工場ニ關シ重大ナル違反事實又ハ取締上參考トナルベキ事項アリタルトキハ之ヲ保安部長ニ報告スルコト

十五　別表第三號樣式ノ「セルロイド」工場寒候ヲ作成シ異動アル毎ニ之ガ整理ヲ爲スコト

許可ニシテ條件又ハ期限ヲ附シタルモノナルトキハ其ノ事項ヲ朱書スルコト

十六　「セルロイド」工場寒候ハ當分ノ間從前ノ樣式ニ依ルモノヲ使用スルコトヲ得

第一號樣式（用紙日本標準規格B4）

署長	警部	主任

警察署

地域		地區	
建築線關係ノ有否		本建築物假設建築物ノ區別	
計畫路線ノ有無		調査者	
屋開ノ狀況			
作業上特ニ注意ス可キ事項			
右各項以外支障ノ有無			

昭和　年　月　日調査

第二號樣式（縦十二糎　横六糎）

「セルロイド」工場假使用承認書

事業主又ハ管理人

工場名

昭和　年　月　日

許可指令第　號

工場局濟證第　號

ノ件假使用ヲ承認ス

本假承認書ハ使用認可證交付ノ際返却スヘシ

昭和　年　月　日

警察署

第三號樣式（カード式縱一九糎 横二四糎）（赤色刷）（表面）

署長		警部		主任		係	

セルロイド工場臺帳

事業主		管理人		工場所在地		地域 / 地區	
設置許可	昭和　年　月　日	使用認可	昭和　年　月　日	適用屆出	昭和　年　月　日		
製品ノ種別 / 作業ノ大要		職工數	男　名 / 女　名 / 計　名	從業者	男　名 / 女　名 / 計　名	作業時間	自午前　時　分 / 至午後　時　分
敷地面積		煙突	構造別		電動機　個計　馬力	危險物	大量 / 小量 貯藏所　個 / 個
建築面積			高サ				
作業場床面積			口徑		汽罐　個		種別 / 數量 及
構造種別		燃料		消火設備		原料又ハ材料ノ一日最大取扱量	
設備概況							
備考							

（裏面）

年月日指令番號	許可事項	年月日指令番號	許可事項
昭和　年　月　日 指令第　號		昭和　年　月　日 指令第　號	
昭和　年　月　日 指令第　號		昭和　年　月　日 指令第　號	
昭和　年　月　日 指令第　號		昭和　年　月　日 指令第　號	
昭和　年　月　日 指令第　號		昭和　年　月　日 指令第　號	

「アセチレン」熔接取締規則

第一條　本令ハ酸素ト「アセチレン」（熔解「アセチレン」ヲ除ク以下之ニ同ジ）トヲ用ヒ金屬ノ熔接（切斷ヲ含ム以下之ニ同ジ）ヲ爲スモノニ適用ス

本令ニ於テ「アセチレン」熔接裝置（以下單ニ熔接裝置ト稱ス）ト稱スルハ酸素ト「アセチレン」トヲ用ヒ金屬ノ熔接ヲ爲スニ要スル「アセチレン」發生器（以下單ニ發生器ト稱ス）安全器、淸淨器、導管、吹管等ヲ含ム一切ノ裝置ヲ謂フ

第二條　熔接裝置ヲ設置（出張用熔接裝置ニ在リテハ格納ヲ含ム）セントスルトキハ熔接裝置每ニ左ノ事項ヲ具シ別記第一號樣式（正副二通）ニ依リ警視總監ニ願出デ許可ヲ受クベシ第五號イ、ロ、ニ、ヘ若ハ第七號ノ事項ヲ變更シ又ハ發生器室（出張用熔接裝置ニ在リテハ格納室以下之ニ同ジ）ノ改築、增築、移轉、大修繕若ハ大變更ヲ爲サントスルトキ亦同ジ

一　設置者ノ住所、氏名、生年月日（法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地、代表者ノ氏名、以下之ニ同ジ）

二　使用ノ目的

二　設置地地名番號

四　出願ノ要旨

五　摘要書

イ　發生器室ノ構造及床面積

ロ　發生器ノ構造、種類、型式、主要寸法

ハ　發生器ノ製作所名及製作年月日

ニ　安全器ノ構造、種類、型式、主要寸法、箇數

ホ　淸淨器其ノ他附屬器具ノ名稱、主要寸法、箇數

ヘ　「カーバイド」ノ貯藏量竝貯藏方法

ト　「カーバイド」ノ一日ノ最大使用量

チ　作業ノ始終時

六　圖面

イ　熔接裝置ノ配置圖

ロ　發生器、安全器ノ構造圖

ハ　發生器室ノ圖面

ニ　設置地四隣ノ略圖

七　熔接裝置設置場ノ構造調書

八　工事竣功期日

前項ノ外必要ト認ムルトキハ書類又ハ圖面ノ提出ヲ求ムルコトアルベシ

出張用熔接裝置ニ在リテハ第一項第六號イ及ニノ事項ヲ省略スルコトヲ得

九　臨時資金調整法第四條ノ二ノ規定ニ依リ政府ノ許可ヲ受クベキモノニ在リテハ日本銀行總裁ノ許可通知書ノ寫、同條但書ノ規定ニ依リ許可又ハ承認ヲ要セザルモノニ在リテハ臨時資金調整法第四條ノ規定ニ依ル政府ノ認可又ハ許可ニ關スル書類ノ寫（日本銀行總裁ノ認可通知書又ハ許可通知書ノ寫）臨時資金調整法第四條ノ二但書ノ規定ニ依リ政府ノ許可ヲ要セザルモノニ在リテハ其ノ旨記載シタル書類

十　臨時農地等管理令第三條ノ規定ニ依リ農林大臣又ハ地方長官ノ許可ヲ受クベキモノニ在リテハ其ノ許可書ノ寫（同令第四條ノ規定ニ該當スルモノヲ除ク）

十一　電力調整令施行規則第一條又ハ第三條ノ規定ニ依リ遞信大臣又ハ遞信局長ノ認可ヲ受クベキモノニ在リテハ其ノ電力供給認可書ノ寫但シ十キロワット（又ハ十五馬力）未滿ノモノニ在リテハ豫定電氣供給事業者ノ電力供給契約書ノ寫、自家用電氣施設ノ認可ヲ受ケタルモノニシテ其ノ契約量以內ノ增加設備ニ在リテハ其ノ旨記載シタル書類

十二　企業許可令第三條ノ規定ニ依リ行政官廳ノ許可又ハ指定統制會ノ承認ヲ受クベキモノニ在リテハ其ノ許可書又ハ承認書ノ寫但シ企業許可令施行規則第六條ノ規定ニ依リ許可又ハ承認ヲ要セザルモノニ在リテハ臨時資金調整法第四條ノ規定ニ依ル政府ノ認可又ハ許可ニ關スル書類ノ寫（日本銀行總裁ノ認可通知書又ハ許可通知書ノ寫）臨時資金調整法第四條ノ二但書ノ規定ニ依リ政府ノ許可ヲ要セザルモノニ在リテハ其ノ旨記載シタル書類

第三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル事項ヲ變更

セントスルトキハ別記第二號様式（正副二通）ニ依リ兼メ警視總監ニ届出ヅベシ

一　作業ノ始終時

二　「カーバイド」ノ一日ノ最大使用量

三　工事竣功期日

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ熔接裝置ノ設置ヲ許可セズ

一　宮城、離宮又ハ御用邸ヨリ四百米以内ナルトキ

二　學校、病院、公園、興行場其ノ他多衆ヲ收容スベキ建築物ヨリ百米以内ナルトキ

三　著シク保安上危險衛生上有害ノ虞アリト認ムルトキ

四　其ノ他公共ノ利益ヲ害スル虞アリト認ムルトキ

前項第一號及第二號ノ距離ハ設備又ハ四圍ノ狀況ニ依リ支障ナシト認ムルトキハ特ニ制限スルコトアルベシ

第五條　發生器ハ專用ノ發生器室内ニ設ケ同一室内ニ二箇以上設クルコトヲ得ズ但シ已ムヲ得ズト認ムルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第六條　發生器室ハ左ノ制限ニ依ルベシ

一　平家建又ハ直上ニ階ヲ有セザル場所ニ設クルコト

二　壁體ハ鐵筋「コンクリート」造又ハ鐵骨若ハ木骨ニ厚四糎以上ノ「メタルラス」張「コンクリート」若ハ「セメントモルタル」塗或ハ鐵骨ノ外部ニ厚二糎以上ノ鐵板張ヲ施シタル構造ト爲スコト但シ徑九十糎以上ノ發生器ヲ收容スルモノニ在リテハ厚十三糎以上ノ鐵筋「コンクリート」造ト爲スコト

三　屋根及天井ハ鐵板又ハ輕量ナル不燃材料ヲ用ヒ室面積ノ十六分ノ一以上ノ斷面積ヲ有スル排氣筒ヲ屋上ニ突出セシメ其ノ開口ハ窓、出入口其ノ他ノ孔口ヨリ一米以上ノ距離ヲ保有セシムルコト

四　扉ハ鐵製ニシテ鐵板ノ厚二糎以上又ハ之ト同等以上ノ堅固ナル締金具ヲ附シ二米未滿ノ距離ニ於テ火氣ヲ使用スル場所ニ面セシメザルコト

五　壁體ト發生器トノ間隔ハ十五糎以上ト爲スコト

前項ノ制限ニ付テハ設備、發生器ノ構造若ハ四圍ノ狀況ニ依リ特ニ斟酌シ又ハ別段ノ事項ヲ命ズルコトアルベシ

出張用熔接裝置ヲ格納スル室ハ木骨鐵板張又ハ之ト同等以上ノ構造ト爲シ第一項各號ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第七條　熔接裝置ノ構造、設備ハ左ノ制限ニ依ルベシ

一　發生器ノ水室ハ厚三糎以上ノ鋼板、氣鐘ハ徑四十糎以上ノモノニ在リテハ厚二糎以上、四十糎未滿ノモノニ在リテハ厚一・五糎以上ノ鋼板ヲ以テ構成シ「ガス」ノ漏洩セザルモノト爲スコト

二　發生器ハ地盤ヨリ高十糎以上ノ「コンクリート」、煉瓦等ノ臺上ニ安定ニ据付クルコト

三　發生器ニハ給鐘ノ昇降ヲ支持スルニ必要ナル鐵柱及安全排氣管、清淨器ヲ設クルコト

四　發生器、安全器、清淨器、導管、吹管其ノ他ノ附屬器具ニシテ「アセチレン」ノ接觸スル虞アル部分ニハ銅ヲ使用セザルコト

五　安全器ハ厚二糎以上ノ鋼板ヲ以テ構成シ接合部分ハ熔接又ハ之ト同等以上ノ强度ヲ有セシムルコト

六　安全器ハ水封式トシ其ノ内部ニ異常ノ壓力ヲ生ジタル際之ヲ容易ニ外部ニ逸散セシムル構造ト爲スコト

七　安全器ハ内徑十二糎以下、有效水柱二十五糎以上トシ水位ヲ檢スルニ便ナル構造ト爲スコト

八　安全器ハ吹管毎ニ設ケ「ガス」ノ漏ガ發生器ト分離セルモノニ在リテハ更ニ其ノ

二間ニ之ヲ設クルコト

九　導管ハ容易ニ毀損セザルモノヲ用ヒ、「ゴムホース」ヲ使用スル場合ハ其ノ接合部ニ締金等ヲ附シ弛緩セシメザルコト

十　導管ハ酸素用ニ在リテハ黒色、「アセチレン」用ニ在リテハ赤色ノモノヲ用ヒ其ノ混同ヲ防グコト

十一　「カーバイド」ノ残滓ノ個所ハ発生器室内ニ設ケ「カーバイド」填充器ノ容積ノ十倍以上ト為シ「コンクリート」、煉瓦等耐水材料ヲ以テ構成スルコト

前項ノ制限ハ構造上支障ナシト認ムルトキハ特ニ許可スルコトアルベシ

出張用熔接装置ニ在リテハ第一項第二號及第十一號ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第八條　工事竣功シタルトキハ熔接装置毎ニ特別線監ニ届出デ別記第三號様式ニ依ル検査證ノ交付ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

検査證ハ熔接装置ノ設置場所ニ掲出シ出張作業ノ場合ハ之ヲ携帯スベシ

検査證ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ速ニ其ノ事由ヲ具シ届出デ再交付ヲ受クベシ

第九條　発生器及安全器ニハ検査證ニ依リ指示セラレタル番號ヲ別記第四號様式ニ依リ作製シ其ノ見易キ箇所ニ標示スベシ

第十條　出張用熔接装置ヲ設置地以外ニ於テ使用セントスルトキハ別記第五號様式（正副二通）ニ依ル届書ヲ使用地所轄警察署若ハ巡査派出所又ハ巡査駐在所ニ提出スベシ

前項ノ届書副本ハ作業中之ヲ携帯スベシ

第十一條　熔接装置ニシテ第四條第一項第三號又ハ第四號ニ該當スルニ至リタルトキハ構造、設備ノ変更其ノ他必要ナル措置ヲ命ジ又ハ其ノ使用ヲ停止若ハ禁止スルコトアルベシ

第十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ本令ニ依ル許可ヲ取消スコトアルベシ

一　本令ニ依ル顧届ニ虚偽ノ事項ヲ記載シタルトキ

二　竣功期日ヲ經過シ仍竣功セザルトキ

三　設置者ノ所在不明九十日以上ニ亘リタルトキ

四　熔接装置ノ使用ヲ引續キ一年以上休止シタルトキ

五　本令又ハ本令ニ基キテ発スル命令若ハ處分ニ違反シタルトキ

第十三條　設置者ハ左ノ事項ヲ遵守スベシ

一　発生器室ヨリ二米未満ノ距離ニ於テ喫煙、火氣ノ使用其ノ他火花ヲ発スル虞アル行爲ヲ禁止スル旨適當ナル箇所ニ掲示スルコト

二　熔接装置設置場ニハ適當ナル消火設備ヲ設クルコト

三　作業場ニハ適當ナル保護眼鏡、保護手袋ヲ備フルコト

四　熔接士ヨリ熔接装置ノ構造、設備ノ缺陷ニ付告知ヲ受ケタルトキハ直ニ危害防止ニ付必要ナル措置ヲ爲スコト

第十四條　設置者検査證ノ交付ヲ受ケタルトキハ遅滞ナク熔接主任ヲ選任シ其ノ氏名ヲ発生器室又ハ熔接装置ノ見易キ箇所ニ掲示スベシ

第十五條　熔接士ニ非ザレバ熔接主任タルコトヲ得ズ

第十六條　熔接士タラントスル者ハ別記第六號様式ニ依リ履歴書及写眞（出願前六箇月以内ニ撮影シタル脫帽、正面、半身ノ名刺型二葉）ヲ添ヘ管轄警察署ニ願出デ免許ヲ受クベシ

第十七條　熔接士免許ハ試験ニ合格シ且左ノ各號ノ一ニ該當セザル者ニ之ヲ與フ

一　十八歳未満ノ者

二　精神病者、聾者、唖者又ハ盲者

三　熔接士免許ノ取消ヲ受ケ一年ヲ經過セザル者

四　其ノ他不適當ト認メタル者

熔接士ノ免許ヲ與ヘタルトキハ別記第七號様式ニ依ル免許ヲ交付ス

第十八條　熔接士免許試験ハ左ノ各號ノ科目

ニ付之ヲ行フ

一　發生器、安全器其ノ他附屬器具ノ構造及取扱概要

二　「アセチレン」、「カーバイド」及酸素ニ關スル事項

三　「アセチレン」熔接ニ關スル法規

第十九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ付テハ試驗ノ全部又ハ一部ヲ省略スルコトヲ得

一　尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限三年以上、高等小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限二年以上ノ學校又ハ之ト同等以上ノ學校ニ於テ化學又ハ機械ノ學科目ヲ修メ之ヲ卒業シタル者

二　前號ト同等以上ノ學識經驗ヲ有スト認ムル者

三　警視總監ノ指定シタル講習會ニ於テ所定ノ講習ヲ受ケ其ノ修了證ヲ有スル者

第二十條　熔接士ハ就業中免許證ヲ携帶スベシ

免許證ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ速ニ其ノ事由ヲ具シ屆出デ再交付ヲ受クベシ

免許證ノ記載事項ニ變更ヲ生ジタルトキハ還滯ナク屆出デ其ノ書替ヲ受クベシ

第二十一條　熔接士左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ免許ヲ取消又ハ停止スルコトアルベシ

一　故意又ハ重大ナル過失ニ因リ火災、爆發又ハ之ニ準ズル事故ヲ惹起シタルトキ

二　免許試驗ニ不正ノ行爲アリタルコト發覺シタルトキ

三　免許證ヲ他人ニ貸與シタルトキ

四　第十七條第一項第二號又ハ第四號ニ該當スルニ至リタルトキ

前項ノ處分ヲ受ケタルトキハ還滯ナク免許證ヲ返納スベシ

免許ノ停止期間滿了シタルトキハ免許證ヲ還付ス

第二十二條　熔接作業又ハ熔接裝置ノ取扱ニ從事スル者ハ左ノ事項ヲ遵守スベシ

一　熔接作業中ハ佩付ノ保護眼鏡、保護手袋ヲ着用スルコト

二　熔接裝置ハ常ニ整頓シ打撃其ノ他危險ノ虞アル取扱ヲ爲サザルコト

三　安全器ハ熔接作業中容易ニ水位ヲ認メ得ベキ箇所ニ置クコト

四　安全器ノ機能ヲ保持スル爲一日一回以上其ノ水位ヲ檢スルコト

五　發生器室ノ扉ハ開放セザルコト

六　發生器ノ氣鐘ニ錘ニ重錘ヲ荷セザルコト

七　發生器ヲ修繕、運搬、格納セントスルトキ又ハ龜裂シテ使用ヲ休止セントスルトキハ其ノ內部ヲ充分ニ清掃スルコト

十四　危害豫防ニ注意シ異狀ヲ認メタルトキハ直ニ適當ナル措置ヲ爲スコト

熔接主任ハ從業者ガ前項各號ノ事項ヲ遵守スルヤ否ヤニ付常ニ周到ナル監督ヲ加ヘ危害防止ノ注意ヲ爲スベシ

第二十三條　設置者自ラ熔接裝置ヲ管理スルコト能ハザルトキハ管理人ヲ選任シ別記第八號樣式ニ依リ選任契約書寫及檢査書ヲ添

十　發生器又ハ發生器室ヨリ二米突滿ノ距離ニ於テ喫煙、火氣ノ使用其ノ他火花ヲ發スル虞アル行爲ヲ爲サザルコト

十一　「カーバイド」ノ殘渣ハ「ガス」ノ發生ナキニ至ル迄濕潤又ハ容器ニ容レ置キ適當ニ處理スルコト

十二　「カーバイド」罐ヲ開封スル際ハ打撃シテ火花ヲ發セシムルコトナキニ注意スルコト

十三　「アルコール」、揮發油其ノ他引火性料品ヲ容レタル容器ヲ熔接セントスルトキハ其ノ內部ヲ充分ニ清掃スルコト

十四　危害豫防ニ注意シ異狀ヲ認メタルトキハ直ニ適當ナル措置ヲ爲スコト

熔接主任ハ從業者ガ前項各號ノ事項ヲ遵守スルヤ否ヤニ付常ニ周到ナル監督ヲ加ヘ危害防止ノ注意ヲ爲スベシ

第二十三條　設置者自ラ熔接裝置ヲ管理スルコト能ハザルトキハ管理人ヲ選任シ別記第八號樣式ニ依リ選任契約書寫及檢査書ヲ添

へ警視總監ニ届出ヅベシ之ヲ變更シタルトキ亦同ジ

管理人ハ本令ノ適用及本令ノ規定ニ基キテ發スル命令ノ遵守ニ付テハ設置者ニ代ルモノトス

管理人不適當ト認ムルトキハ其ノ變更ヲ命ズルコトアルベシ

工場法又ハ工場取締規則ノ定ムル所ニ依リ選任セラレタル工場管理人ハ本令ニ依ル管理人ト看做ス

第二十四條　熔接裝置ニシテ火災、爆發其ノ他ノ事故發生シタルトキハ設置者ハ別記第九號樣式ニ依リ遲滯ナク届出ヅベシ但シ工場法施行規則第二十五條、第二十六條ノ規定ニ依リ提出セルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ設置者ハ遲滯ナク届出ヅベシ但シ設置者又ハ管理人ノ氏名ノ變更及第三號、第五號ノ届出ニハ檢査證ヲ添附スベシ

一　設置者又ハ管理人ノ住所、氏名ニ變更アリタルトキ

二　法定代理人、保佐人又ハ夫ニ變更アリタルトキ

三　設置地地名番號ニ變更アリタルトキ

四　熔接裝置ノ使用ヲ九十日以上ニ亘リ休止セントスルトキ又ハ休止後之ヲ使用シタルトキ

五　熔接裝置ノ使用ヲ廢止シタルトキ

第二十六條　熔接裝置ヲ承繼シタルトキハ住所、氏名、生年月日ヲ記シ双方連署ノ上檢査證ヲ添附シ十日以内ニ届出ヅベシ但シ連署シ能ハザルトキ又ハ檢査證ヲ添附シ能ハザルトキハ其ノ旨届書ニ附記シ其ノ事由ヲ確認スルニ足ルベキ書類ヲ添附スベシ

裝置者ノ死亡ニ因ル承繼アリタルトキハ承繼人ハ三十日以内ニ檢査證ヲ添附シ使用ノ繼續又ハ廢止ノ旨届出ヅベシ

第二十七條　本令ノ規定ニ依リ警視總監ニ提出スベキ願届書類ハ設置地所轄警察署長ヲ經由スベシ但シ第十六條ノ規定ニ依ル熔接

士免許證ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十八條　本令ノ規定ニ依ル願届ハ願届人ニシテ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ法定代理人、準禁治産者ナルトキハ保佐人、妻ナルトキハ夫ノ連署ヲ要ス

第二十九條　本令ニ規定スル事項ニ付他ノ法令ニ依リ警視總監ノ許可又ハ認可ヲ要スル場合ニ於テ本令ノ規定ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ法令ノ規定ニ依ル願書又ハ届書ニ本令ニ規定スル事項ヲ併セ具スベシ但シ重複スルモノハ之ヲ省略スルコトヲ得

第三十條　設置者ハ第二條、第三條ノ規定ニ依リ提出シタル願届書ノ副本ヲ事業繼續期間中保存スベシ

第三十一條　當該官吏、吏員、熔接裝置ヲ臨檢セントスルトキ又ハ檢査ニ必要ナル準備ヲ命ジタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

第三十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

一　第二條、第三條、第五條乃至第十條、第十三條乃至第十五條、第二十條、第二十二條、第二十三條第一項、第二十四條乃至第二十六條、第三十條及第三十一條ノ規定ニ違反シタル者

二　第十一條、第二十一條及第二十三條第三項ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ處分ニ違反シタル者

第三十三條　設置者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本令ノ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十四條　設置者法人ニシテ管理人ナキトキハ本令ノ罰則ハ其ノ代表者ニ之ヲ適用ス

第三十五條　設置者又ハ管理人ハ其ノ代理人戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルル

コトヲ得ズ

管理人ノ選任アル場合ト雖モ違反行爲ニシテ設置者ノ指揮ニ出デタルトキハ設置者ヲモ處罰ス

第三十六條　本令ニ規定シタル違反行爲ヲ敎唆シ又ハ幇助シタル者ハ之ヲ處罰ス

附　則

第三十七條　本令ハ昭和十一年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十八條　本令施行前許可ヲ受ケタル熔接裝置並發生器室ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

前項ノ熔接裝置並發生器室ハ別記第十號樣式ニ依リ昭和十一年十一月三十日迄ニ屆出ヅベシ

第三十九條　本令施行前許可ヲ受ケタル熔接裝置並發生器室ノ構造、設備其ノ他ニシテ本令ニ適合セザルモノハ昭和十四年八月三十一日迄ニ本令ニ準據シ屆出ヅベシ

前條及前項ノ屆出ヲ爲シタル熔接裝置ニシテ本令ニ適合スルモノハ第八條ニ依ル檢査證ヲ交付ス

第四十條　本令施行ノ際現ニ使用スル出張用熔接裝置並發生器室ニ付テハ本令施行後一年ハ仍本令ニ依ラザルコトヲ得

第四十一條　本令施行ノ際現ニ熔接裝置ノ取扱並熔接作業ニ從事スル者ハ本令施行ノ日ヨリ一年以內ハ第十五條ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

本令施行前引續キ一年以上熔接裝置ノ取扱並熔接作業ニ從事シタル者ハ本令施行ノ日ヨリ一年以內ニ其ノ從事シタルコトヲ證スルニ足ルベキ書類ヲ添附シ本人ノ申請アリタル場合ニ限リ第十六條ノ規定ニ拘ラズ熔接士免許ヲ與フ但シ第十七條第一項各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラズ

（第一號樣式）

「アセチレン」熔接裝置

| 設置者ノ住所氏名生年月日 | | |

折リタタミ線

書			
清浄器其ノ他附属器具	名稱	主要寸法	箇數

出願ノ要旨	備考

工事竣功期日	

「カーバイド」			
貯藏量	貯藏方法	一日ノ最大使用量	瓩

殘渣ノ溜桝	
構造	主要寸法

カーバイド 填充器	
主要寸法	容積

熔接作業ニ從事スル者 男 名 女 名 計 名

右裝置 致度關係書類相添此段及御願候也

昭和 年 月 日

設置者 氏 名 印

代理人 氏 名 印

警視總監 殿

注意 1 本樣式ニ記入シ盡サザル事項ニ付テハ別ニ欄ヲ設ケ又ハ別紙ニ記載シ添付スルコト

2 不要ノ欄及文字ハ抹消スルコト

（第二號樣式）

「アセチレン」熔接裝置 屆

設置者ノ住所 氏名生年月日

設置地地名番號

指示番號 發生器第 號 安全器第 號

作業ノ始終時 變更前 變更後

「カーバイド」ノ一日ノ最大使用量 變更前 變更後

工事竣功期日 許可竣功年月日 延期竣功年月日

右 致度此段及御屆候也

昭和 年 月 日

設置者 氏 名 印

代理人 氏 名 印

警視總監 殿

（縱二六糎 横二〇糎）

（第三號樣式）

第　　號	證査檢置裝接焊「ンレチセア」
設置地及 設置者氏名	
管理人氏名	
發生器	水室　徑　高　糎　糎
發生器	鐘氣　徑　高　糎　糎
發生器	種類型式
警視廳指示番號 第　　號	
安全器	種類型式　(イ)　(ロ)　(ハ)　(ニ)
安全器	(イ)　徑　高　糎　糎
安全器	(ロ)　徑　高　糎　糎
安全器	(ハ)　徑　高　糎　糎
安全器	(ニ)　徑　高　糎　糎
警視廳指示番號 第　　號	

昭和　年　月　日

警視廳印

警視廳

年月日	記載事項	取扱者認印
昭和　年　月　日		
昭和　年　月　日		
昭和　年　月　日		
昭和　年　月　日		
昭和　年　月　日		

（縱二六糎　横二〇糎）

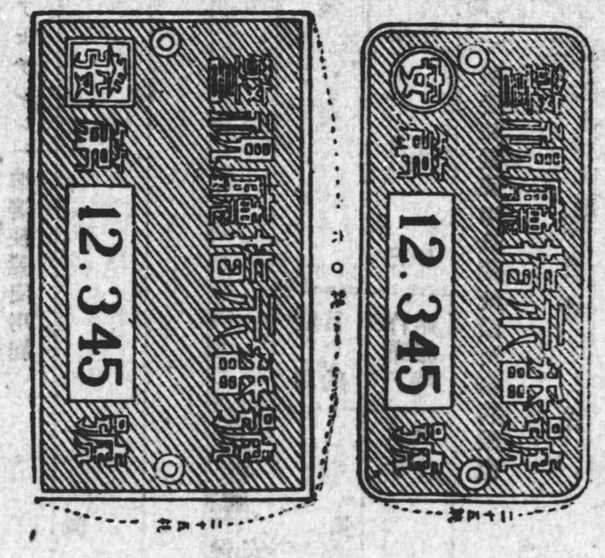
指示番號銘板

金屬板トシ厚〇、五粍以上

大　　サ　縱二五粍　横六〇粍

文字ノ大サ　長　六粍　幅　五粍

黒地白文字



（第四號樣式）

（第五號樣式）

出張用「アセチレン」熔接裝置使用届

設置者ノ住所氏名	
設置地地名番號	
熔接主任ノ氏名	
使用場所	
使用期間	自昭和　年　月　日 至昭和　年　月　日
使用目的	
作業ノ始終時	自　午　時　分 至　午　時　分
發生器第　號 安全器第　號	指示番號

右出張用「アセチレン」熔接裝置使用致度此段及御届候也

年　月　日

設置者　氏　名　㊞

何々警察署長　殿

（縦二六糎　横一八糎）

（第六號樣式）

「アセチレン」熔接士免許願

寫眞	本籍 住所
寫眞	

右「アセチレン」熔接士免許相受度別紙履歴書及寫眞相添此段及御願候也

年　月　日

氏　名

（生年月日）

警視總監　殿

氏　名　㊞

（縦二六糎　横一八糎）

「アセチレン」熔接士免許證

折目

注意

一　免許證ハ大切ニ携帶スベシ過テ滅失又ハ毀損シタルトキハ願出デ再交付ヲ受クベシ

二　免許證ヲ變造又ハ僞造シタルトキ若ハ他人ニ貸與シタルトキハ處罰セラルベシ

三　本籍、住所竝氏名ニ異動ヲ生ジタルトキハ其ノ旨遲滯ナク届出デ其書替ヲ受クベシ

折目

年月日	記載事項	取扱者印

（縦一〇糎　横二二、五糎）

（第七號樣式）（表面）

第　號

年　月　日交付

警視廳印

折目

寫眞

押出スタンプ

折目

本籍

住所

氏名

生年月日

（裏面）

←……七・五糎……→

（第八號樣式）

「アセチレン」熔接裝置管理人選任屆

一、設置者　住所　地名番號　氏名　生年月日

一、設置地

一、管理人　住所　氏名　生年月日

右者ヲ管理人ニ選任致候間選任契約書寫及檢查證相添此段及御屆候也

昭和　年　月　日

警視總監　殿

（紙二六種　横一八糎）

（第九號樣式）

「アセチレン」熔接災害事故死傷屆

| | | |

（第十號樣式）

「アセチレン」熔接裝置現況届

（縦二六糎、横四〇糎）

| | | |

「アセチレン」熔接取締規則施行心得

規則執行心得

第一條　「アセチレン」熔接取締規則（以下單ニ規則ト稱ス）第二條ノ規定ニ依ル願書ヲ受理シタルトキハ速ニ所要ノ事項ヲ調査シ別記條一號樣式ニ依ル調査書ヲ作成添附シ署印ヲ押捺シテ進達スベシ

第二條　規則第三條ノ規定ニ依ル變更届ヲ受理シタルトキハ意見ヲ附シ意見ナキモノハ署印ヲ押捺シテ進達スベシ但シ臨時作業時間ヲ變更スルモノハ警察署長之ヲ處理スベシ

第三條　規則第八條第一項ノ規定ニ依ル竣功届ヲ受理シタルトキハ速ニ實査シ支障ナシト認メタルモノハ其ノ旨届書ニ朱書シ署印ヲ押捺シテ進達スベシ

第四條　規則第八條第三項、第二十條第二項第三項、第二十三條又ハ第二十六條ノ規定ニ依ル届書ヲ受理シ事實相違ナク且支障ナシト認メタルモノハ署印ヲ押捺シ速ニ進達スベシ但シ熔接士免許證ノ記載事項異動届ニ在リテハ直ニ免許證ヲ訂正ノ上届出人ニ還付シ届書ニハ熔接士免許證訂正濟ノ旨附記スベシ

第五條　規則第十條ノ規定ニ依ル使用届ヲ受理シ支障ナシト認メタルトキハ届書副本ニ署印ヲ押捺シ之ヲ届出人ニ交付スベシ但シ巡査派出所、巡査駐在所ニ在リテハ署印ニ代ヘ巡査派出所名又ハ巡査駐在所名ヲ記シ取扱者捺印スベシ

巡査派出所又ハ巡査駐在所ニ於テ受理シタル前記ノ届出ニシテ特殊ナル事情アルモノハ警察署長ノ指揮ヲ俟ツベシ

第六條　規則第十一條ノ規定ニ依ル措置又ハ處分ヲ要スト認ムルモノアルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ之ヲ保安部ニ報告スベシ

第七條　規則第十二條ノ規定ニ依ル許可取消又ハ第二十一條ノ規定ニ依ル熔接士免許ノ取消若ハ停止ノ必要アリト認ムルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ證憑書類ヲ添ヘ上申スベシ

第八條　警察署長ニ於テ熔接士免許ノ停止處分ヲ執行スル場合ニ在リテハ速ニ執行年月日ヲ記入シ本人ニ交付スルト共ニ遲滯ナク之ヲ保安部ニ報告スベシ

前項ノ場合ニ於テハ其ノ停止期間中免許證ヲ領置スベシ

第九條　警察署長ニ於テ熔接士免許ノ取消處分ヲ執行シタルトキハ本人ヨリ之ニ對スル請書ヲ徵シ返納シタル免許證ト共ニ之ヲ進達スベシ

第十條　熔接裝置ニ關スル事故發生届ニシテ工場法施行規則第二十五條、第二十六條ノ規定ニ依リ提出スルモノニアリテモ規則第九號樣式ニ定ムル内容ヲ詳記セシムベシ

第十一條　熔接裝置ニ關シ爆發其ノ他重大ナル事故發生シタルトキハ直ニ現場ニ付調査シ其ノ概況ヲ電報又ハ電話ニ依リ保安部ニ報告スベシ

第十二條　規則第二十五條ノ規定ニ依ル届書ヲ受理シタルトキハ署印ヲ押捺シ遲滯ナク之ヲ保安部ニ進達スベシ

第十三條　警察署長ハ別記第二號樣式ノ臺帳ヲ作成シ之ヲ整理保存スベシ

第十四條　警察署長ハ熔接裝置ノ取締ニ就キ重要ナル違反事實又ハ參考トナルベキ事項アリタルトキハ之ヲ保安部ニ報告スベシ

（第一號樣式）

警察署調査者

地城		地區	本建築物、假設建築物ノ區別
建築線關係ノ適否			
計畫路線ノ有無			
周圍ノ狀況			
作業上特ニ注意ス可キ事項			
右各項以外支障ノ有無			

（第二號樣式）

設置者	氏名		管理人	氏名		署長	警部	主任	係				
	住所			住所		設置番地	地名番號						
設置許可	昭和	年	月	日	檢査證發行並番號	昭和	年	月	日第	號			
使用ノ目的													
指示番號	發生器第 號	安全器第 號	發生器室	構造	床面積	出張作業用ノ有無							
發生器	種型類式		主要寸法	水室 氣鐘		安全器	種型類式	箇數	箇				
作業ノ始終時	自午	時	分	至午	時	分	「カーバイド」ノ一日ノ最大使用量		瓩				
器械設備							備考						

（表面）

（縱一三糎 橫一八糎）

年	月	日	港	更	事	項

（裏面）

臨時資金調整法（拔萃）

昭和十二、九、一〇　法律第八六號

第一條　本法ハ支那事變ニ關聯シ物資及資金ノ需給ノ適合ニ資スル爲國內資產ノ使用ヲ調整スルヲ目的トス

第四條　命令ノ定ムル會社ノ設立ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ會社ノ資本增加、合併又ハ目的變更ニシテ命令ノ定ムルモノニ付亦同ジ

命令ノ定ムル會社左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ政府ノ許可ヲ受クベシ

一　第二回以後ノ株金ノ拂込ヲ爲サシメントスルトキ

二　他人ヲシテ引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲サシメズシテ社債ヲ募集セントスルトキ

第四條ノ二　命令ノ定ムル限度ヲ超ユル事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲サントスル者ハ之ニ付政府ノ許可ヲ受クベシ

但シ命令ノ定ムル者及左各ノ號ノ一ニ該當スル資金ニ依ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　金融機關ヨリノ借入金

二　他人ヲシテ引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲サシメタル社債ノ收入金

三　本法ニ依リ設立又ハ資本增加ニ付認可ヲ受ケタル場合ノ會社ノ第一回拂込株金又ハ出資金

四　本法ニ依リ拂込又ハ募集ニ付許可又ハ認可ヲ受ケタル場合ノ會社ノ拂込株金又ハ社債收入金

臨時資金調整法施行令（抜萃）

昭和一三、九、二五　勅令第五二七號

第四條　臨時資金調整法第四條第一項ノ規定ニ依リ設立ニ付主務大臣ノ認可ヲ要スル會社ハ資本金（出資總額、株金總額、出資總額及株金總額ノ合計額又ハ基金總額ヲ謂フ以下同ジ）貳拾萬圓以上ノ會社トス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

一　特別ノ法令ニ依リ設立セラルル會社

二　臨時資金調整法以外ノ法令ニ依リ設立ニ付行政官廳ノ認可、許可又ハ免許ヲ受クベキ會社

三　目的トスル事業ノ全部ニ付行政官廳ノ許可又ハ免許ヲ受クベキ會社行政官廳前項第二號又ハ第三號ニ揭グル會社ニ付認可、許可又ハ免許ヲ爲サントスルトキハ其ノ事項ノ主務大臣ハ勅令ノ主務大臣ニ協議スベシ

第五條　臨時資金調整法第四條第一項ノ規定ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ要スル會社ノ資本增加、合併又ハ目的變更ハ左ニ揭グルモノトス但シ行政官廳ノ認可、許可若ハ免許ヲ受ケタルモノ又ハ行政官廳ノ命令ニ依リ爲スモノハ此ノ限ニ在ラズ

一　資本金二十萬圓以上ノ會社ノ資本增加合併又ハ目的變更

二　資本增加又ハ合併ニ因リ資本金二十萬圓以上ノ會社ト爲ルベキ場合ニ於ケル資本增加又ハ合併

行政官廳前項但書ノ認可、許可、免許又ハ命令ヲ爲サントスルトキハ其ノ事項ノ主務大臣ハ勅令ノ主務大臣ニ協議スベシ

第六條　臨時資金調整法第四條第二項ノ規定ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受クベキ會社ハ資本金二十萬圓以上ノ會社トス但シ同項ニ揭グル事項ニ付行政官廳ノ認可、許可若ハ免許ヲ受ケタルモノ又ハ行政官廳ノ命令ニ依リ當該事項ヲ爲スモノハ此ノ限ニ在ラズ

行政官廳前項但書ノ認可、許可、免許又ハ命令ヲ爲サントスルトキハ其ノ事項ノ主務大臣ハ勅令ノ主務大臣ニ協議スベシ

第六條ノ二　臨時資金調整法第四條第二ノ規定ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受クベキ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ限度ガ其ノ事業設備ニシテ主務大臣ノ定ムルモノニ付テハ其ノ限度ヲ三萬圓トス

第六條ノ三　臨時資金調整法第四條ノ二但書ノ規定ニ依リ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲スニ付許可ヲ受クルコトヲ要セザル者ハ左ノ各號ニ揭グル者トス

一　北海道、府縣、府縣組合、市町村、市町村組合、町村組合、市町村內ノ區、市町村學校組合、町村學校組合及學區

二　當該事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ付行政官廳ノ認可、許可若ハ免許ヲ受ケタル者又ハ行政官廳ノ命令ニ依リ當該事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲ス者

三　第四條第一項各號ノ一ニ該當スル會社又ハ第五條第一項但書ニ該當スル資本增加ヲ爲シタル會社ニシテ第一回拂込株金又ハ出資金ニ依リ當該事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲スモノ

四　第六條第一項但書ニ該當スル會社ニシテ第二回以後ノ拂込株金又ハ社債收入金ニ依リ當該事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲スモノ

行政官廳前項第二號ノ認可、許可、免許又ハ命令ヲ爲サントスルトキハ其ノ事項ノ主務大臣ハ大藏大臣及商工大臣ニ協議スベシ

臨時農地等管理令（抜萃）

（昭一六、二、一下、勅令第一一四號）

第一條　國家總動員法（昭和十三年勅令第三百十七號ニ依ル場合ヲ含ム以下同ジ）第十三條第一項及第三項ノ規定ニ依ル食糧農產物貴ノ生產ヲ確保スル爲ニ爲ス農地又ハ耕地ノ目的ニ供スルコトヲ得ル土地ノ管理ニ付テハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第三條　農地ノ所有者、賃借人、永小作人其ノ他權原ニ基キ農地ヲ耕作スルコトヲ得ル者（以下權利者ト稱ス）其ノ農地ヲ耕作以外ノ目的ニ供セントスルトキハ農林大臣ノ定ムル所ニ依リ地方長官（農林大臣特ニ定メタルトキハ農林大臣）ノ許可ヲ受クベシ

前項ノ許可ニハ條件ヲ附スルコトヲ得

第四條　前條ノ規定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニハ之ヲ適用セズ

一　國又ハ道府縣ガ權利者タル場合

二　主務大臣又ハ地方長官ノ命令、免許、許可、認可其ノ他ノ處分ニシテ農林大臣ノ定ムルモノニ依リテ爲ス工事又ハ施設ノ爲ニ農地ヲ使用スル場合

三　土地收用法其ノ他ノ法令ニ依リ農地又ハ之ニ關スル權利ヲ收用又ハ使用シタル場合ニ於テ當該收用又ハ使用ニ係ル農地ヲ其ノ目的ニ供スル場合

四　第五條ノ規定ニ依ル許可ニ係ル農地ヲ其ノ目的ニ供スル場合

五　前各號ノ外農林大臣ノ定ムル場合

（以下省略）

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

電力調整令施行規則（抜萃）

（昭一四、一〇月逓信省令第四六號）

第一條　新ニ電力ヲ受電シ又ハ受電電力ヲ增加シテ電力ノ消費ヲ爲サントスル者ハ左ノ區別ニ依リ逓信大臣又ハ逓信局長ノ認可ヲ受クベシ但シ告示ヲ以テ指定スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　新規受電電力又ハ增加受電電力一千キロワット以上ノモノニ在リテハ逓信大臣

二　其ノ他ノモノニ在リテハ逓信局長

第三條　電氣供給事業者別ニ告示ヲ以テ指定スル限度ヲ超ユル電力消費裝置ヲ新設又ハ增設シテ電力ノ消費ヲ爲サントスル者ニ對シ電力ヲ供給セントスルトキハ第一條ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケタル者ニ對シ電力ヲ供給セントスル場合ノ外逓信局長ノ認可ヲ受クベシ

（以下省略）

附　則

本令ハ電力調整令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

電力調制令施行規則

昭和十四年十月二十日ヨリ施行ス

機械設備制限規則

昭和一四、九、二五　商工省令第五七號

第一條　本則ニ於テ機械設備トハ金屬工作機械ニシテ左ニ揭グルモノヲ謂フ

一　切削研磨用ノモノ

二　鍛造用ノモノ

第二條　機械設備ノ新設又ハ增設（讓受借受又ハ入替ニ依ル場合ヲ含ム以下同ジ）ヲ爲サントスル者ハ其ノ設備カ別表ニ揭クル物品又ハ其ノ部分品ノ製造（加工ヲ含ム以下同シ）ニ使用セラルルモノナル場合ニ在リテハ商工大臣、其ノ他ノ場合ニ在リテハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル會社又ハ臨時資金調整法以外ノ法令ニ依リ設立ニ付行政官廳ノ認可、許可若ハ免許ヲ受ケタル會社カ機械設備ノ新設又ハ增設ヲ爲サントスルトキ

二　自動車製造事業法、製鐵事業法、工作機械製造事業法、重要機械製造事業法、航空機製造事業法又ハ造船事業法ニ依リ許可ヲ受ケ營ム事業ノミニ使用スル機械設備ノ新設又ハ增設ヲ爲サントスルトキ

三　瓦斯事業法、電氣事業法、石油業法、人造石油製造事業法、產金法若ハ輕金屬製造事業法ニ依リ許可若ハ免許ヲ受ケ營ム事業又ハ鑛業法若ハ砂鑛法ノ適用ヲ受クル事業ニ用フル設備ノ修繕ノミニ使用スル爲機械設備ノ新設又ハ增設ヲ爲サントスルトキ

四　行政官廳ノ命令ニ依リ機械設備ノ新設又ハ增設ヲ爲サントスルトキ

五　臨時資金調整法第四條第一項ノ規定ニ依リ會社ノ設立ニ付認可ヲ受ケ第一回拂込株金ニ依リ機械設備ノ新設ヲ爲サントスルトキ

六　臨時資金調整法第四條、第八條又ハ第九條ノ規定ニ依リ資本增加、第二回以後ノ株金ノ拂込又ハ社債ノ募集ニ付認可又ハ許可ヲ受ケ調達シタル資金ニ依リ機械設備ノ新設又ハ增設ヲ爲サントスルトキ

七　臨時資金調整法第四條ノ二ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ機械設備ノ新設又ハ增設ヲ爲サントスルトキ

八　製鐵設備制限規則第一條ノ許可ヲ受ケタル者カ製鐵設備ト共ニ機械設備ノ新設又ハ增設ヲ爲サントスルトキ

第三條　前條ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ前條ノ規定ニ依ル區別ニ從ヒ商工大臣又ハ地方長官ニ提出スベシ

一　機械設備ノ新設又ハ增設ヲ爲サントスル工場ノ名稱及位置

二　新設又ハ增設ヲ爲サントスル機械設備ノ種類別數量及價額竝ニ其ノ取得豫定先

三　新設又ハ增設ヲ爲サントスル機械設備ニ依リ製造スベキ物品ヲ現在製造スル者ニ在リテハ其ノ事業ノ概要（機械設備ノ種類別數量、最近一年間ニ製造シタル實

四　新設又ハ增設ヲ必要トスル事由

五　工事ノ着手及完成ノ豫定時期又ハ讓受ケントスル機械設備ノ使用開始ノ豫定時期（借受ノ場合ニ在リテハ借受ノ豫定期間及借受ケントスル機械設備ノ使用開始ノ豫定時期）

前項ノ許可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

一　新設又ハ增設ヲ爲サントスル機械設備ニ依リ製造スベキ物品ノ主タル豫定納入先（納入先別ニ種類別數量及價額ヲ記載スベシ）ヲ記載シタル書類

二　新設又ハ增設ヲ爲サントスル機械設備ニ依リ製造スベキ物品ノ主要原材料ノ種類別數量及價額竝ニ其ノ取得方法ヲ記載シタル書類

三　新設又ハ增設ヲ爲サントスル機械設備ニ依リ製造スベキ物品ヲ現在製造スル者ニ在リテハ其ノ事業ノ概要（機械設備ノ種類別數量、最近一年間ニ製造シタル實

該物品ノ種類別數量及價額竝ニ工場ノ坪數及職工數）ヲ記載シタル書類

新設又ハ增設ヲ爲サントスル機械設備ニ依リ製造スベキ物品ガ兵器若ハ其ノ部分品又ハ其ノ他軍用ニ供スル物品ニシテ軍事上ノ機密保護ノ爲特ニ必要アルモノニ在リテハ前項ノ書類ヲ添附スルコトヲ要セズ此ノ場合ニ於テハ當該設備ノ新設又ハ增設ヲ必要トスル旨ノ軍ノ證明書ヲ添附スベシ

第四條　機械設備ノ新設又ハ增設ヲ爲サントスル者第二條乃至第七號ニ揭グル認可又ハ許可ヲ受ケタル場合ニ在リテハ運滯ナク左ニ揭グル事項ヲ記載シタル書類ヲ地方長官ニ提出スベシ

一　機械設備ノ新設又ハ增設ヲ爲サントスル工場ノ名稱及位置

二　新設又ハ增設ヲ爲サントスル機械設備ノ種類別臺數

三　新設又ハ增設ヲ爲サントスル機械設備ニ依リ製造スベキ物品

前項ノ書類ニハ第二條第五號乃至第七號ニ揭グル認可又ハ許可ヲ受ケタルコトヲ證スル書面ヲ添附スベシ

第五條　第二條ノ許可ヲ受ケタル者其ノ工事ヲ完成シ又ハ讓受ケ若ハ借受ケタル機械設備ノ使用ヲ開始シタルトキハ遲滯ナク之ヲ第二條ノ規定ニ依ル區別ニ從ヒ商工大臣又ハ地方長官ニ屆出ヅベシ

第六條　第二條ノ許可ヲ受ケ機械設備ノ新設又ハ增設ヲ爲シタル者當該設備ニ依リ製造スベキ物品ノ種類ヲ變更セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ現ニ製造スル物品又ハ變更後製造スベキ物品ガ別表ニ揭グル物品又ハ其ノ部分品ナル場合ニ在リテハ商工大臣、其ノ他ノ場合ニ在リテハ地方長官ノ許可ヲ受クベシ

第七條　本則ニ依リ商工大臣ニ提出スベキ書類ハ當該機械設備ノ新設、增設又ハ轉用ヲ爲ス工場ノ所在地ヲ管轄スル地方長官（鑛業法又ハ砂鑛法ノ適用ヲ受クル事業ヲ營ム者ガ其ノ事業設備トシテ機械設備ノ新設若ハ增設ヲ爲シ又ハ其ノ事業設備タル機械設備ヲ轉用セントスル場合ニ在リテハ鑛山監督局長）ヲ經由スベシ

附　則

本則ハ昭和十四年九月三十日ヨリ之ヲ施行ス

別表

蒸汽機關
　蒸汽罐
　蒸汽タービン
內燃機關
　水車
電氣機械
通信機械
探鑛、選鑛又ハ精錬機械
金屬工作機械
　工具
　起重機
　コンベヤ
　捲上機
　索道
荷物用エレベータ
氣體壓縮機
　送風機
　ポンプ
　水壓機
計器又ハ測定器具
試驗、檢定又ハ理化學用機械器具
醫療用機械器具
光學機械器具
鐵道車輛
自動車（自動車用ガス發生裝置ヲ含ム）
　牽引車
蓄電池車
鋼船
航空機
　發動機
球軸受又ハコロ軸受
兵器
石油精製用機械
製鹽用機械
非鐵金屬材料製造用機械
化學工業用機械

纖維工業設備ニ關スル件

昭一四、六、二三　商工省令第三一號

左ノ各號ノ一ニ該當スル物品ノ製造又ハ加工ヲ爲シ又ハ爲サントスル者其ノ製造又ハ加工ニ使用スル設備ヲ新設シ、增設シ若ハ改造シ又ハ之ヲ讓受ケ若ハ借受ケントスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クベシ

一　綿又ハ其ノ製品
二　羊毛（山羊毛及駱駝毛ヲ含ム）又ハ其ノ製品
三　兎毛又ハ其ノ製品
四　麻又ハ其ノ製品
五　絹又ハ其ノ製品（生絲ヲ除ク）
六　人造絹絲又ハ其ノ製品
七　ステープルフアイバー又ハ其ノ製品
八　紙又ハ其ノ製品
九　セロフアン又ハ其ノ製品
十　前各號ニ揭グル物品ノ故、屑又ハ襤褸

前項ノ設備ハ商工大臣之ヲ指定ス

附　則

本令ハ昭和十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ違反シタル行爲ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

從前ノ規定ニ依リ爲シタル許可ハ之ヲ本令ニ依リ爲シタルモノト看做ス

商工省告示第百三十六號　昭一六、六、二三

纖維工業設備ニ關スル件第二項ノ規定ニ依リ設備左ノ通指定シ昭和十三年二月商工省告示第三十二號ハ之ヲ廢止ス

本告示ハ昭和十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

洗毛機
ガーネット機
ラグマシン
廻切機
カード
ドレッシングフレーム
梳篠機
練篠機
粗紡機

精紡機（ガラ紡絲製造用精紡機ヲ含ム）
撚絲機
管卷機
整經機
織機
浸染機
メリヤス機
酸化機
レース機
メリヤス解舒機
組紐機
熟成槽
製網機
紡絲機
製綱機
叩解機
帽體成形機
抄取機
毛燒機
製膜機
起毛機
剪毛機
精練機
洗淨機
シルケット機
糊付機
縮絨機
脫水機
乾燥機
幅出機
カレンダ
蒸布機
捺染機

製鐵設備制限規則

昭二四　商工省令第　號

第一條　左ニ掲グル製鐵設備ノ新設又ハ増設ヲ爲サントスル者ハ商工大臣ノ許可ヲ受クベシ

一　製鋼能力一ノ場所ニ於テ一年五千二百五十噸ニ達セザル設備ヲ以テ營ム鍛鋼品又ハ鑄鋼品ノ製造事業ニ使用スル製鋼設備

二　製銑能力又ハ製鋼能力一ノ場所ニ於テ一年二千五百噸ニ達セザル設備ヲ以テ營ム電氣製鐵事業（製鐵事業法施行令第一條第六號ニ掲グルモノヲ除ク）竝場製鋼事業又ハ製鐵事業法施行令第一條第五號ニ掲グル事業ニ使用スル製銑設備又ハ製鋼設備

第二條　前條ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ商工大臣ニ提出スベシ

一　製鐵設備ヲ新設シ又ハ増設セントスル工場ノ名稱及位置

二　新設シ又ハ増設セントスル製鐵設備ノ概要（設計圖ヲ添附スベシ）及其ノ能力

三　新設シ又ハ増設セントスル製鐵設備ニ依リ製造スベキ製品ノ種類

四　工事ノ着手及完成ノ豫定時期

五　製造方法

六　原料ノ取得方法

七　工事費豫算

八　製造及販賣ノ豫定計畫

前項ノ許可申請書ニハ法人ニ在リテハ定款、登記簿ノ謄本、財産目錄、貸借對照表、損益計算書及利益ノ處分ニ關スル書類ヲ添付スベシ

附　則

本則ハ昭和十四年八月十日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十四年商工省令第五五號鉄鐵鑄物製造設備制限規則ヲ左ノ通リ改正施行セリ

鑄造設備制限規則

昭一五、一一、五　商工省令第九三號改正

第一條　本則ニ於テ鑄物トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ

一　鑄鐵品（可鍛鑄鐵品ヲ含ム）

二　鋼地金、鋼ヲ主タル成分トスル粗地金（產金法ノ適用ヲ受クル製錬ノ過程ニ在ル含金物ヲ除ク）若ハ黄銅、青銅其ノ他ノ銅合金又ハ故銅（銅又ハ黄銅、青銅其ノ他ノ銅合金ノ屑、ユルミ及故鉢ニ此等ヲ流青ヘタルモノヲ謂フ）ヲ原料トスル鑄物

本則ニ於テ鑄造設備トハ鑄物ノ製造ニ使用スル、キユポラ、反射爐、電氣爐其ノ他ノ焙燒爐ヲ謂フ

第二條　鑄造設備ノ新設若ハ増設（讓受又ハ借受ニ依ル場合ヲ含ム以下同ジ）又ハ改造（能力ノ増加スル場合ニ限ル以下同ジ）ヲ爲サントスル者ハ商工大臣ノ許可ヲ受クベシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル會社又ハ臨時資金調整法以外ノ法令ニ依リ設立ニ付行政官廳ノ認可、許可若ハ免許ヲ、受ケタル會社ガ鑄造設備ノ新設、増設又ハ改造ヲ爲サントスルトキ

二　航空機製造事業法若ハ造船事業法ニ依リ許可ヲ受ケ營ム事業又ハ重要機械製造事業法ニ依リ許可ヲ受ケ營ム兵器若ハ機械用ダイ鑄物ノ製造事業ノミニ使用スル鑄造設備ノ新設、増設又ハ改造ヲ爲サントスルトキ

三　行政官廳ノ命令ニ依リ鑄造設備ノ新設増設又ハ改造ヲ爲サントスルトキ

四　臨時資金調整法第四條第一項ノ規定ニ依リ會社ノ設立ニ付認可ヲ受ケ第一回拂込株金ニ依リ鑄造設備ノ新設ヲ爲サント

スルトキ

五　臨時資金調整法第四條、第八條又ハ第九條ノ規定ニ依リ資本增加、第二回以後ノ株金ノ拂込又ハ社債ノ募集ニ付認可又ハ許可ヲ受ケ調達シタル資金ニ依リ鑄造設備ノ新設、增設又ハ改造ヲ爲サントスルトキ

六　臨時資金調整法第四條ノ二ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ鑄造設備ノ新設、增設又ハ改造ヲ爲サントスルトキ

前項ノ規定ハ鑄造ノ製造ヲ爲シ又ハ爲サントスル者其ノ鑄物以外ノモノノ製造ニ使用スル、キユポラ、反射爐、電氣爐其ノ他ノ熔融爐ヲ鑄物ノ製造ニ轉用ゼントスル場合ニ之ヲ準用ス（以下省略）

附　則

本令ハ昭和十五年十一月七日ヨリ之ヲ施行ス

アルミニウム屑配給統制規則（抜萃）

昭一五、五月　商工省令第三四號

第一條　本則ニ於テアルミニウム屑トハアルミニウム又ハアルミニウム合金ノ屑（鑄滓及灰ヲ含ム）及故竝ニ此等ヲ再製シタルモノヲ謂フ

第七條　アルミニウム屑ノ熔融ヲ爲シ又ハ爲サントスル者其ノ用ニ供スル熔融爐ノ新設若ハ增設（讓受、借受又ハ轉用ニ依ル場合ヲ含ム以下同ジ）又ハ改造（製造能力ノ增加スル場合ニ限ル以下同ジ）ヲ爲サントスルトキハ商工大臣ノ許可ヲ受クベシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル會社又ハ臨時資金調整法以外ノ法令ニ依リ設立ニ付行政官廳ノ認可、許可若ハ免許ヲ受ケタル會社ガ熔融爐ノ新設、增設又ハ改造ヲ爲サントスルトキ

二　自動車製造事業法、航空機製造事業法、造船事業法、其ノ他ノ臨時資金調整法以外ノ法令ニ依リ熔融爐ノ新設、增設若ハ改造ニ付行政官廳ノ認可、許可若ハ免許ヲ受ケ又ハ行政官廳ノ命令ニ依リ熔融爐ノ新設、增設又ハ改造ヲ爲サントスルトキ

三　臨時資金調整法第四條第一項ノ規定ニ依リ會社ノ設立ニ付認可ヲ受ケ第一回拂込株金ニ依リ熔融爐ノ新設ヲ爲サントスルトキ

四　臨時資金調整法第四條、第八條又ハ第九條ノ規定ニ依リ資本增加、第二回以後ノ株金ノ拂込又ハ社債ノ募集ニ付認可又ハ許可ヲ受ケ調達シタル資金ニ依リ熔融爐ノ新設、增設又ハ改造ヲ爲サントスルトキ

五　臨時資金調整法第四條ノ二ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ熔融爐ノ新設、增設又ハ改造ヲ爲サントスルトキ

アルミニウム屑配給統制規則

汽罐取締令

昭和十年四月九日
内務省令第二〇號

第一章　總　則

第一條　本令ニ於テ汽罐ト稱スルハ左ニ揭グルモノヲ謂フ

一　密閉セル容器ニシテ專ラ大氣壓ヨリ高キ壓力ノ蒸汽ヲ發生スル汽罐

二　密閉セル容器ニシテ其ノ罐水ノ溫度ヲ上昇セシメテ容器外ニ給湯スル溫水罐

三　密閉セル容器ニシテ蒸汽ヲ發生シ又ハ之ニ蒸汽ヲ送入シテ直接物品ヲ加熱スル蒸罐

第二條　本令ニ於テ傳熱面積ト稱スルハ汽罐ノ一面ガ熱ガスニ觸レ他ノ面ガ水ニ觸ルル部分ヲ熱ガスノ觸ルル側ニ於テ測レル面積ヲ謂フ

本令ニ於テ爐格面積ト稱スルハ汽罐ノ燃料焚燒ヲ目的トスル火格子ノ有效面積ヲ謂フ

本令ニ於テ制限壓力ト稱スルハ汽罐ノ最高使用ゲージ壓力ヲ謂フ

第三條　本令ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル汽罐ニハ之ヲ適用セズ

一　制限壓力〇・五瓩平方糎以下ノ汽罐ニシテ罐胴ノ內徑三百粍以下、長六百粍以下又ハ電熱面積一平方米以下ノモノ

二　傳熱面積三・五平方米以下ノ汽罐ニシテ大氣ニ開放セル蒸汽管又ハ水頭壓五米以下ノ竪管ヲ有シ其ノ管ノ內徑二十五粍以上ノモノ

三　水頭壓十米以下ノ溫水罐ニシテ爐格面積〇・五平方米以下、傳熱面積八平方米以下ノモノ

四　制限壓力〇・五瓩平方糎以下ノ蒸罐ニシテ罐胴ノ內徑五百粍以下、長千粍以下又ハ內容積〇・二立方米以下ノモノ

五　炊事用高壓釜

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル汽罐ニハ第三十一條第一項ノ規定ハ之ヲ適用セズ

一　制限壓力四瓩平方糎以下ノ汽罐ニシテ罐胴ノ內徑七百五十粍以下、長千三百粍以下又ハ傳熱面積三平方米以下ノモノ

二　水頭壓二十米以下ノ溫水罐ニシテ爐格面積一平方米以下又ハ傳熱面積十四平方米以下ノモノ

三　蒸罐

第五條　汽罐ヲ設置セントスル者ハ汽罐毎ニ別記第一號樣式ニ依ル願書正副二通ニ別記第二號樣式ニ依ル汽罐明細書二通（先ニ罐體檢査ヲ受ケタルモノニ在リテハ其ノ罐體檢査濟ノ印ヲ押捺シアル汽罐明細書及其ノ寫）ヲ添ヘ設置地（移動式汽罐ニ在リテハ其ノ主タル作業事務所所在地以下之ニ同ジ）地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ）ノ許可ヲ受クベシ

第六條　汽罐ハ罐體檢査ニ合格シタルモノニ非ザレバ之ヲ設置スルコトヲ得ズ

前項ノ罐體檢査ニ於テ行フ水壓試驗ノ水壓力ハ左ノ各號ニ依ル

一　制限壓力四・三瓩平方糎ヲ超ユルトキハ其ノ壓力ノ一・三倍ニ三瓩平方糎ヲ加ヘタル壓力

二　制限壓力一瓩平方糎ヲ超エ四・三瓩平方糎以下ナルトキハ其ノ壓力ノ二倍ノ壓力

三　制限壓力一瓩平方糎以下ナルトキハ二瓩平方糎ノ壓力

四　制限壓力以上ノ壓力ヲ受クルノ虞ナキ溫水罐ニ在リテハ其ノ壓力ニ一瓩平方糎ヲ加ヘタル壓力

第七條　罐體檢査ヲ受ケントスル者ハ汽罐毎ニ別記第三號樣式ニ依ル願書ニ別記第二號樣式ニ依ル汽罐明細書二通（第五條ノ規定ニ依ル許可ノ申請ヲ爲シタル地方長官ノ罐體檢査ヲ受ケントスル場合ハ此ノ限ニ在ラズ）ヲ添ヘ汽罐所在地地方長官ニ申請スベシ

罐體檢査ニ合格シタルトキハ汽罐ニ別記第四號樣式ニ依ル刻印ヲ押刻シ汽罐明細書一通ニ別記第五號樣式ニ依ル罐體檢査濟ノ印ヲ押捺シ之ヲ交付ス

前項ノ汽罐明細書ノ記載事項ニ變更アリタ

ルトキハ速ニ書換ヲ受検地地方長官ニ由請スベシ

第二項ノ汽罐明細書ヲ滅失シ又ハ毀損シタルトキハ其ノ再交付ヲ受検地地方長官ニ申請スルコトヲ得

第八條　汽罐設置工事竣功シタルトキハ汽罐ノ毎ニ別記第六號樣式ニ依ル願書ヲ提出シ設置地地方長官ノ竣功検査ヲ受クベシ

竣功検査ニ合格シタルトキハ別記第七號樣式ノ汽罐検査證ヲ交付ス

移動式汽罐ニ付テハ第一項ノ竣功検査ヲ省略シ先ニ第五條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケタルモノニ在リテハ罐體検査ニ合格シタル際先ニ罐體検査ニ合格シタルモノニ在リテハ第五條ノ規定ニ依ル許可ノ際別記第七號樣式ノ汽罐検査證ヲ交付ス

第九條　汽罐ハ汽罐検査證ノ交付ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

汽罐設置者ニ變更アリタルトキハ承繼者ハ十日以内ニ設置地地方長官ニ届出デ汽罐検

査證ノ書換ヲ受クベシ

汽罐検査證ヲ滅失シ又ハ毀損シタルトキハ其ノ再交付ヲ受検地地方長官ニ申請スルコトヲ得

第十條　汽罐設置者汽罐又ハ其ノ設備ニ付左ノ各號ノ一ニ該當スル部分ヲ修繕又ハ變更セントスルトキハ別記第八號樣式ニ依ル願書正副二通ニ汽罐検査證ヲ添ヘ設置地地方長官ノ許可ヲ受クベシ汽罐ノ制限壓力又ハ水頭壓ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

一　汽罐ノ罐胴、煙筒、火室、鏡板、竪板、管板及控

二　焚燒裝置

三　汽罐ノ据付基礎

第十一條　前條第一號ノ部分ノ修繕又ハ變更工事竣功シタルトキハ別記第九號樣式ニ依ル願書ヲ提出シ設置地地方長官ノ修繕又ハ變更検査ヲ受クベシ

汽罐ハ前項ノ検査ニ合格シタルモノニ非ザレバ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

第十二條　汽罐検査ノ有效期間ハ一年トス但シ汽罐ノ構造又ハ管理ノ狀況ニ依リ地方長官ハ之ヲ短縮シ又ハ延長スルコトヲ得

第十三條　汽罐検査ノ有效期間滿了後引續キ汽罐ヲ使用セントスルトキハ有效期間滿了前別記第十號樣式ニ依ル願書ヲ提出シ設置地地方長官ノ更新検査ヲ受クベシ

地方長官必要アリト認ムルトキハ臨時ニ汽罐ノ検査ヲ行フコトヲ得

地方長官前二項ノ検査ヲ行フトキハ別記第十一號樣式ニ依リ豫メ期日ヲ指定シテ之ヲ通知ス

第十四條　汽罐ニシテ内務大臣ノ指定スル保險業者ノ保險ニ付シタルモノニ付テハ地方長官ハ前條第一項ノ更新検査ハ之ヲ省略スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ更新検査ヲ省略セラレタル汽罐ニ付保險契約ノ終了又ハ解除アルトキハ前條第一項ノ規定ヲ準用ズ

第一項ノ保險業者ノ保險ニ付シタルトキハ

十日以内ニ別記第十二號樣式ニ依リ設置地地方長官ニ届出ヅベシ其ノ保險契約ノ更新終了又ハ解除アリタルトキ亦同ジ

第一項ノ保險業者汽罐ノ検査ニ從事スル汽罐検査員ヲ選任セントスルトキハ内務大臣ノ認可ヲ受クベシ

内務大臣汽罐検査員ガ其ノ職務ヲ行フニ不適當ナリト認ムルトキハ前項ノ認可ヲ取消スコトヲ得

第十五條　汽罐ノ検査ヲ受ケントスルトキハ罐體ヲ冷却シ煙道ヲ掃除シ其ノ他受検ニ必要ナル準備ヲナシ置クベシ

第十六條　汽罐設置者又ハ汽罐取扱主任者ハ検査ニ立會シ當該官吏ノ指揮ニ從フベシ

第十七條　當該官吏検査ノ爲必要アリト認ムルトキハ左ノ事項ヲ命ズルコトヲ得

一　汽罐ノ被覆物ノ全部又ハ一部ヲ取除クコト

二　汽罐ヲ移動スルコト

三　鉄若ハ管ヲ抽出シ又ハ罐材ニ穿孔スル

コト

四　水壓試驗ヲ施行スルコト

五　歸還製汽罐ニ付テハ解體スルコト

六　其ノ他必要ナル事項

第十八條　汽罐設置者ハ左ノ各號ノ事項ヲ遵守スベシ

一　汽罐室其ノ他汽罐ノ設置場所ニハ係員ノ外濫リニ立入ルコトヲ禁止シ其ノ旨見易キ箇所ニ揭示スルコト

二　汽罐檢查ノ際並ニ汽罐取扱主任者ノ資格及氏名ヲ汽罐室其ノ他汽罐設置場所內ノ見易キ箇所ニ揭示スルコト但シ移動式汽罐ニ在リテハ汽罐取扱主任者ヲシテ之ヲ携帶セシムルコト

三　汽罐取扱主任者ヨリ汽罐ノ構造裝置ノ缺陷ニ付告知ヲ受ケタルトキハ直ニ危害防止ニ付必要ナル措置ヲ爲スコト

第十九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ汽罐設置者ハ遲滯ナク設置地地方長官ニ届出ヅベシ

一　汽罐ノ使用ヲ廢止セントスルトキ

二　一年以上汽罐ノ使用ヲ休止セントスルトキ

前項第一號ノ場合ハ汽罐設置者ハ汽罐檢查證ヲ返納スベシ

第一項第二號ノ汽罐ヲ再ビ使用セントスルトキハ遲滯ナク設置地地方長官ニ届出ヅベシ

前項ノ場合ニ於テ汽罐檢查ノ有效期間滿了後ナルトキハ再使用ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

前項ノ再使用檢查ヲ受ケントスルトキハ別記第十三號樣式ニ依リ設置地地方長官ニ申請スベシ

第二十條　汽罐ノ設置場所ニ於テ火災、汽罐ノ破裂又ハ之ニ準ズル事故發生シタルトキハ汽罐設置者ハ別記第十四號樣式ニ依リ遲滯ナク設置地地方長官ニ届出ヅベシ但シ工場法施行規則第二十六條ノ規定ニ該當スルトキハ此ノ限リニ在ラズ

第二十一條　汽罐設置者ハ汽罐ニ付一切ノ權限ヲ有スル汽罐管理人ヲ選任スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ汽罐管理人ヲ選任セントスルトキハ汽罐設置者ハ汽罐管理人連署ノ上設置地地方長官ノ認可ヲ受クベシ

地方長官必要アリト認ムルトキハ前項ノ認可ヲ取消スコトヲ得

汽罐管理人ハ本令ノ適用ニ付テハ汽罐設置者ニ代ルモノトス

第二十二條　地方長官ハ當該官吏ヲシテ汽罐ノ設置場所ニ臨檢セシムルコトヲ得

第二十三條　地方長官ハ汽罐ノ使用ニ關シ危害ヲ生ジ其ノ他公益ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ汽罐設置者ニ對シ除害若ハ豫防ノ爲必要ナル施設ヲ命ジ又ハ其ノ使用ヲ制限若ハ禁止スルコトヲ得

第三章　汽罐室

第二十四條　地方長官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ本令ノ規定ニ依ル許可ヲ取消スコトヲ得

一　本令ノ規定ニ依リ提出スベキ書類ニ虛僞ノ事項ヲ記載シタルトキ

二　汽罐設置者ノ所在不明三月以上ニ亙リタルトキ

三　汽罐ノ使用ヲ引續キ三年以上休止シタルトキ

第二章　汽罐ノ構造

第二十五條　汽罐ハ告示ヲ以テ別ニ定ムル構造上ノ要件ヲ具備シタルモノナルコトヲ要ス

應張力又ハ應曲力ヲ生ズル部分ニ付熔接ヲ行ヒタル汽罐ハ熔接ノ設備、設計、施行方法及熔接者ニ付熔接着手前汽罐熔接地地方長官ノ承認ヲ受ケタルモノナルコトヲ要ス

地方長官支障ナシト認ムルトキハ前二項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第三章　汽罐室

第二十六條　汽罐ハ專用ノ建物又ハ適當ニ區劃セル場所ニ之ヲ設置スベシ但シ已ムヲ得ザル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十七條　汽罐ノ据付位置ハ左ノ各號ニ依

ルベシ

一　汽罐ノ外側ト天井又ハ屋根裏トノ間ニ八百二十糎以上ノ距離ヲ保有セシムルコト但シ安全辨其ノ他ノ裝置ノ檢查及取扱ニ支障ナキトキハ此ノ限ニ在ラズ

二　罐體ヲ露出セル汽罐又ハ竪型汽罐ニ在リテハ前號ノ外其ノ外側ト壁體トノ間ニ四十五糎以上ノ距離ヲ保有セシムルコト但シ罐胴ノ內徑五百粍以下ニシテ長千粍以下ノモノニ在リテハ三十糎迄短縮スルコトヲ妨ゲズ

第二十八條　露出セル汽罐ノ外側又ハ金屬性煙突若ハ煙筒ヨリ十二糎以內ニ在ル可燃性材料ハ金屬以外ノ不燃性材料ヲ以テ適當ニ被覆スベシ

汽罐室又ハ汽罐設置場所ニ燃料ヲ貯藏スル場合ニハ汽罐外側ヨリ百二十糎以上ノ距離ヲ保有セシムベシ但シ防火ノ爲適當ナル障壁ヲ設クル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十九條　汽罐室ニハ二以上ノ出入口ヲ設

クベシ但シ差支ナキトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三十條　本章ノ規定ハ移動式汽罐ニハ之ヲ適用セズ

第四章　汽罐士及汽罐取扱主任者

第三十一條　汽罐士免許ヲ受ケタル者（以下單ニ汽罐士ト稱ス）ニ非ザレバ汽罐ノ取扱ニ從事スルコトヲ得ズ但シ汽罐士ノ指揮監督ノ下ニ補助トシテ作業ニ從事スル者ハ此ノ限ニ在ラズ

汽罐士免許ヲ分チ一級汽罐士免許及二級汽罐士免許ノ二種トス

第三十二條　汽罐士免許ハ汽罐士試驗ニ合格シ且一級汽罐士免許ニ在リテハ一年以上、二級汽罐士免許ニ在リテハ六月以上汽罐取扱ノ作業ニ從事シタル者ニ之ヲ與フ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ之ヲ與ヘズ

一　女子又ハ十八歲未滿ノ者

二　精神病者、聾者、啞者又ハ盲者

三　汽罐士免許ノ取消ヲ受ケ一年ヲ經過セザル者

四　其ノ他地方長官ニ於テ不適當ト認ルム者

第三十三條　汽罐士試驗ハ左ノ各號ノ科目ニ關シ之ヲ行フ

一　汽罐構造（設計及材料ニ關スル事項ヲモ含ム）

二　汽罐取扱方法

三　燃料及燃燒

四　汽罐取締ニ關スル法令

第三十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ付テハ一級汽罐士試驗ノ全部又ハ一部ヲ省略スルコトヲ得

一　工業學校ニシテ尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限五年ノモノ若ハ高等小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限三年ノモノ又ハ之ト同等以上ノ學校ニ於テ機械又ハ船用機關ニ關スル學科目ヲ修メ之ヲ卒業シタル者

二　前號ト同等以上ノ學識經驗ヲ有スト認メタル者

第三十五條　汽罐士試驗ヲ受ケントスル者ハ別記第十五號樣式ニ依リ受驗地地方長官ニ願出ヅベシ

汽罐士試驗ニ合格シタルトキハ別記第十六號樣式ノ汽罐士合格證書ヲ交付ス

第三十六條　汽罐士免許ヲ受ケントスル者ハ別記第十七號樣式ニ依リ前條ノ試驗ヲ受ケ

タル地ノ地方長官ニ申請スベシ

地方長官汽罐士免許ヲ與ヘタルトキハ別記第十八號樣式ノ汽罐士免許證ヲ交付ス

第三十七條　汽罐士左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ地方長官ハ其ノ免許ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

一　故意又ハ重大ナル過失ニ因リ火災、汽罐ノ破裂又ハ之ニ準ズル事故ヲ惹起シタルトキ

二　第三十二條第二號又ハ第四號ニ該當スルニ至リタルトキ

三　汽罐取扱主任タル汽罐士第四十條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ

前項ノ處分ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク汽罐士免許證ヲ返納スベシ

汽罐士免許ノ停止期間滿了シタルトキハ汽罐士免許證ヲ還付ス

第三十八條　汽罐士免許證ヲ滅失シ又ハ毀損シタルトキハ其ノ再交付ヲ別記第十九號樣式ニ依リ免許ヲ受ケタル地ノ地方長官ニ申請スルコトヲ得

第三十九條　汽罐設置者ハ汽罐取扱主任者ヲ選任スベシ

前項ノ汽罐取扱主任者ハ左ノ各號ニ該當スル者ナルコトヲ要ス但シ第四條ノ汽罐ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一　取扱汽罐ノ傳熱面積合計二十五平方米以上又ハ制限壓力七瓩平方粍以上ノモノニ在リテハ一級汽罐士

二　其ノ他ノモノニ在リテハ一級汽罐士又ハ二級汽罐士

汽罐設置者第一項ノ規定ニ依リ汽罐取扱主任者ヲ選任シタルトキハ其ノ履歷書及汽罐士免許證ノ寫（前項但書ノ場合ヲ除ク）ヲ添ヘ設置地地方長官ニ屆出ヅベシ

地方長官汽罐取扱主任者ガ者其ノ職務ヲ行フニ不適當ナリト認ムルトキハ其ノ解任ヲ命ズルコトヲ得

第四十條　汽罐取扱主任者ハ左ノ各號ノ事項ヲ遵守スベシ

一　水面測定裝置ハ一日ニ一回以上其ノ機能ヲ檢査スルコト

二　罐水ノ汚濁ニ注意シ適宜排水ヲ行フコト

三　給水裝置ノ機能ヲ保持スル爲常ニ注意スルコト

四　安全辨ノ機能ヲ保持スル爲常ニ注意スルコト

五　汽罐檢查證ニ記載シタル制限壓力ヲ超エテ蒸汽罐ヲ上昇セシメザルコト

六　危害豫防ニ注意シ異狀ヲ認メタルトキハ直ニ適當ナル措置ヲ爲スコト

汽罐設置者ハ汽罐取扱主任者ガ前項各號ノ事項ヲ遵守スルコトヲ妨グルコトヲ得ズ

第五章　手數料

第四十一條　汽罐設置者第七條第一項（罐體檢查）、第八條第一項（竣功檢查）、第十一條第一項（修繕、變更檢查）、第十三條第一項（更新檢查）又ハ第十九條第五項（再使用檢查）ノ檢查ヲ受ケントスルトキハ別表第一號ニ定ムル手數料ヲ納付スベシ

第四十二條　汽罐士試驗若ハ汽罐士免許ヲ受ケントスル者又ハ汽罐士免許證ノ再交付ヲ受ケントスル者ハ別表第二號ニ定ムル手數料ヲ納付スベシ

第四十三條　前二條ノ手數料ハ收入印紙ヲ用ヒ願書ニ之ヲ貼付スベシ

既納ノ手數料ハ之ヲ還付セズ但シ第三十四條ノ規定ニ依リ汽罐士試驗ノ全部ヲ省略シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第六章　罰　則

第四十四條　左ニ揭グル者ハ百圓以下ノ罰金若ハ科料又ハ拘留ニ處ス

一　第五條（汽罐設置許可）、第六條第一項（罐體檢查）、第九條第一項（汽罐檢查證）、第十條（汽罐修繕、變更許可）、第十一條第二項（汽罐修繕、變更檢查）、第十四條第四項（汽罐檢查員ノ認可）、第十五條（汽罐檢查ノ準備）、第十六條（汽罐設置者ノ遵守事項）、

第十九條第四項(汽罐再使用檢査)、第二十六條乃至第二十九條(汽罐室)、第三十一條第一項(汽罐士免許)、第三十九條第一項(汽罐取扱主任者ノ選任)及第四十條(汽罐取扱主任者ノ遵守事項及汽罐設置者ノ義務)ノ規定ニ違反シタル者

二　第十三條第二項ノ規定ニ依ル檢査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ檢査ヲ受クルコトヲ怠リタル者、第十七條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ命令ニ從ハザル者又ハ第二十三條ノ規定ニ依ル地方長官ノ命令又ハ處分ニ違反シタル者

第四十五條　第七條第三項(汽罐明細書書換手續)、第九條第二項(汽罐設置者變更手續)、第十四條第三項(保險契約及其ノ更新、終了又ハ解除ノ届出)、第十九條第一項乃至第三項(汽罐使用ノ廢止又ハ休止ノ届出、汽罐檢査證ノ返納及汽罐再使用ノ届出)、第二十條(事故ノ届出)、第三十七條第二項(汽罐士免許證ノ返納)及第三十九條第三項、

汽罐取扱主任者ノ届出)ノ規定ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第四十六條　正當ノ事由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金若ハ科料又ハ拘留ニ處ス

第四十七條　汽罐設置者又ハ汽罐管理人ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ本令又ハ本令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ズ

第四十八條　本令ニ依ル罰則ハ汽罐管理人ヲ選任シタル場合ニ在リテハ汽罐管理人ニ、法人ニ在リテハ其ノ代表者ニ、未成年者又ハ禁治産者ニ在リテハ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

第七章　附　則

第四十九條　本令ハ昭和十年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五十條　地方長官ハ本令施行ノ際汽罐取締ニ關スル道府縣ノ命令ニ依リ設置又ハ運轉ノ許可申請中ノ汽罐ニ付テハ本令ノ規定ニ拘ラズ從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

前項ノ處分ハ本令ニ依リ處分シタルモノト看做ス

第五十一條　本令施行前汽罐取締ニ關スル道府縣ノ命令ニ依リ檢査若ハ試驗又ハ許可若ハ認可ヲ受ケタル汽罐ハ本令ニ依リ檢査又ハ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

前項ノ規定ニ依ル汽罐檢査ノ有效期間ハ之ヲ變更セズ但シ本令施行後一年ヲ超ユルコトヲ得ズ

第五十二條　本令施行ノ際現ニ許可又ハ檢査ヲ要セズシテ使用スル汽罐ニシテ本令ノ規定ニ依リ新ニ許可又ハ檢査ヲ受クルヲ要スルモノニ付テハ本令施行ノ日ヨリ一年以内ハ本令ノ規定ニ拘ラズ從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

第五十三條　本令施行ノ際現ニ汽罐取締ニ關スル道府縣ノ命令ニ依リ汽罐取扱ニ從事スル者ハ本令施行ノ日ヨリ一年以内ハ本令ノ規定ニ拘ラズ從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

本令施行前汽罐取締ニ關スル道府縣ノ命令ニ依リ汽罐取扱ニ關スル資格ニ付地方長官ノ證明若ハ免許ヲ有スル者又ハ本令施行前一年以上汽罐ノ取扱ニ從事シタル者ハ本令施行ノ日ヨリ一年以内ニ本人ノ申請アリタル場合ニ限リ第三十二條本文ノ規定ニ拘ラズ左ノ區別ニ從ヒ汽罐士免許ヲ與フ

一　取扱汽罐ノ傳熱面積合計二十五平方米以上又ハ制限壓力七瓩平方糎以上ノ汽罐ノ取扱ニ付資格又ハ免許アル者又ハ其ノ取扱主任者ニハ一級汽罐士

二　其ノ他ノ者ニ在リテハ二級汽罐士

第三十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二項ノ場合ニ在リテハ第四十二條ノ規定ニ依ル手數料ハ之ヲ徵收セズ

（第一號樣式）

汽罐設置届

左記汽罐設置致度候間御許可相成度此段及御届候也

年　月　日

設置者　住所（法人ノ場合ニ在リテハ名稱及代表者ノ氏名）　氏名　㊞

（地方長官）殿

一	事業ノ名稱及種類
二	設置場所（名稱、所在地番又ハ字名、地目、地積及所有者ノ氏名又ハ名稱（法人ノ場合ニ在リテハ代表者ノ氏名））
三	
四(イ)	敷地周圍ノ狀況
五	汽罐室（煉瓦積設置ノ場合ニ限ル）ノ構造及容積
六	使用ノ目的
七	一日ノ最長使用時間
八	燃料ノ種類及一日ノ最大消費見積量
九	焚火方法
一〇(イ)	汽罐ノ型式及其ノ製造者ノ氏名又ハ名稱
一〇(ロ)	汽罐胴ノ設備ノ種類、構造、強度及附屬品
一一(イ)	給水裝置ノ有無、給力ヲ示ス裝置及附屬品
一一(ロ)	煙突ノ材料、主要寸法及築造方法

（設二六類、横三七類）

一二(イ)	過熱方法ノ概要
一二(ロ)	給水加熱裝置ノ概要
一二(ハ)	空氣加熱裝置ノ概要
一二(ニ)	給炭裝置ノ材料、主要寸法及構造ノ概要
一二(ホ)	燃料ノ調製裝置ノ種類、主要寸法又ハ能力ヲ示ス事項
一二(ヘ)	焚口裝置ノ概要
一二(ト)	煙突ノ構造、種別及主要寸法
一三(イ)	煙突ノ構造（甲）鐵板製（乙）鐵筋コンクリート（丙）其ノ他
一三(ロ)	煙突ノ避雷設備ノ構造概要
一三(ハ)	煙突ト通風ヲ爲ス汽罐、爐、燃焼室又ハ煙道トノ關係位置並ニ其ノ構造ノ種類及其ノ寸法
一四	工事竣功期日

備考

一　移動式汽罐ニ在リテハ第二號欄ニ主タル作業事務所ヲ記入スルコト

二　㈠ノ印ヲ附シアル欄ニ付テハ別紙圖面ヲ添附スルコト

三　本樣式規定ノ欄ニシテ別紙圖面ニ記載シタルモノハ之ヲ記入スルコトヲ要セズ

四　項ニ關係ナキ事項ハ省略スルコトヲ得

五　本樣式ニ記入シ盡サザル事項ニ付テハ別ニ欄ヲ設ケ又ハ別記ニ記載シ添附スルコトヲ得

六　同一型式ノモノニ基以上設置スル場合ニ於テハ一基ニ付詳記シ他ハ省略スルコトヲ得

（第二號様式甲）（鋼製汽罐）（蒸罐ヲ除ク）

汽罐明細書

一	汽罐ノ種類及型式	
二	制限壓力又ハ水頭壓	
三⊗	汽罐ノ構造	
	（イ）爐格面積	
	（ロ）傳熱面積	
	（ハ）罐胴ノ材料、最大内徑、全長及板ノ厚	
	（ニ）鏡筒又ハ火室板ノ材料、最大内徑、長及板ノ厚	
	（ホ）鏡板、冠板及管板ノ材料、形狀並ニ板ノ厚	
	（ヘ）目板ノ材料及板ノ厚	
	（ト）控ノ材料、種類及徑又ハ厚	
	（チ）罐胴ノ接手	甲 縦接手ノ種類、鋲列數、鋲口徑及鋲心距
		乙 周接手ノ種類、鋲列數、鋲口徑及鋲心距
	（リ）鏡筒又ハ火室板ノ接手	甲 縦接手ノ種類、鋲列數、鋲口徑及鋲心距
		乙 周接手ノ種類、鋲列數、鋲口徑及鋲心距
	（ヌ）罐管又ハ水管ノ材料、管徑、長、厚及數	
	（ル）人孔、檢査孔及掃除孔ノ大及數	
	（ヲ）排水管ノ材料及内徑（排水コツク又ハ排水弁ノ取付部分ニ於テ測リタルモノ）	
	（ワ）安全辨ノ種類、辨徑及數	
	（カ）逸水裝置ノ概要	
	（ヨ）壓力計ノ最大指度數	
	（タ）水面測定裝置ノ種類及數（硝子水面計ニ在リテハ硝子管ノ内徑ヲ併記スルコト）	
四	製作者名及製作年月竝ニ經歷ノ概要	
五	熔接箇處及其ノ施行方法	
六	熔接施行者名	
七*	水壓試驗壓力	
八*	檢査場所及年月日	
九*	檢査官氏名印	

備考

一 ⊗印ヲ附シアル欄ニ付テハ別紙圖面ヲ添附スルコト

二 *印ヲ附シアル欄ハ出願人ニ於テ記入セザルコト

三 本様式規定ノ欄ニシテ別紙圖面ニ記載シタルモノハ之ヲ記入スルコトヲ要セズ

四 本様式ニ記入シ盡サザル事項ニ付テハ別ニ欄ヲ設ケ又ハ別紙ニ記載シ添附スルコト

（縦二六糎、横三七糎）

（第七十三條、第七十二條）

（乙種第百四十一號様式）（第百四十一號様式乙）

汽罐明細書

一	汽罐ノ種類、型式及個数	
二	汽罐ノ最高使用圧力又ハ水頭圧	
三の二	汽罐ノ構造	
	(イ) 胴	
	(ロ) 鏡板	
	(ハ) 煙道、火室及煙管ノ孔並ニ煙管ノ取付方法	
	(ニ) 安全弁ノ構造並ニ其ノ取付方法	
	(ホ) 水面計ノ構造並ニ其ノ取付方法	
	(ヘ) 給水装置ノ構造並ニ其ノ取付方法	
	(ト) 蒸気ノ出口ノ構造並ニ其ノ取付方法	
	(チ) 煙道ノ構造並ニ其ノ取付方法	
四	製作者ノ名称及製作地並ニ製作年月ノ概要	
五※	水圧試験ノ概要	
六※	検査ノ年月日及所轄官庁	
七※	検査印ノ名称及民間検査機関ノ名称	

備考 一 ※ノ欄ニハ別紙ヲ附シテ記載スルコトヲ妨ケズ

二 本様式ニ規定シアル事項ニ関シ別紙ヲ附シテ記載スルコトヲ妨ケズ

三 本様式ニ規定シアル事項ニ関シ別紙ヲ附シテ記載スルコトヲ妨ケズ

四 本様式ニ規定シアル事項ニ関シ別紙ヲ附シテ記載スルコトヲ妨ケズ

（第七十三條、第七十二條）

（蒸罐）（第百四十一號様式丙）

汽罐明細書

一	蒸罐ノ用途及型式	
二	最高使用圧力	
三の二	蒸罐ノ構造	
	(イ) 蒸罐ノ内径	
	(ロ) 胴ノ厚サ、大サ、構造及継目ノ種類	
	(ハ) 鏡板ノ材料、強度及厚サ	
	(ニ) 煙室ノ材料、強度及厚サ	
	(ホ) 煙管ノ材料及厚サ	
	(ヘ) 煙管ノ取付方法ノ概要	
	(ト) 接続管ノ手 甲 口径、材料及厚サ	
	接続管ノ手 乙 口径、材料及厚サ	

(チ) 安全辨ノ種類、辨径及数	
(リ) 給汽方法ノ概要	
(ヌ) 壓力計ノ最大指度数	
(ル) 排汽及排水方法ノ概要	
四 製作者名及製作年月並ニ構造ノ概要	
五 併設ヲ行ヒタル個数及其ノ施行方法	
六 始業施行者名	
七* 水壓試驗壓力	
八* 檢査場所及年月日	
九* 檢査官氏名印	

備考 一 ㊇印ヲ附シアル欄ニ付テハ別紙圖面ヲ添附スルコト
二 *印ヲ附シアル欄ハ出願人ニ於テ記入セザルコト
三 本様式規定ノ欄ニシテ別紙圖面ニ記載シタルモノハ之ヲ記入スルコトヲ要セズ
四 本様式ニ記入シ難サザル事項ニ付テハ別ニ欄ヲ設ケ又ハ別紙ニ記載シ添附スルコト

收入印紙

罐體檢査願

一 汽罐ノ種類
一 傳熱面積又ハ内容積
一 設置許可指令番號
一 受檢地地名番號
一 受檢希望日

右汽罐罐體檢査相受度此段及御願候也

年 月 日

住所
製作者又ハ設置者
氏名 ㊞

(地方長官) 殿

備考 收入印紙ハ出願人ニ於テ消印セザルコト

（第四號樣式）

道府縣符號表

0123456789

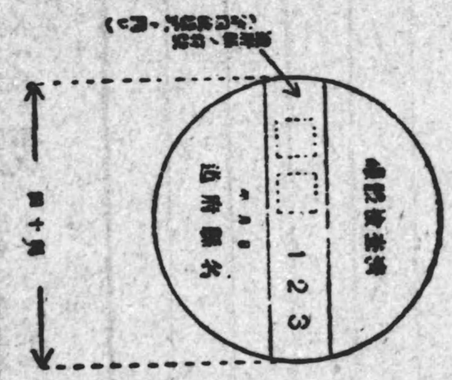
道府縣ノ符號

文字ノ大
長、九粍
幅、七粍
線ノ太
〇・五粍

道府縣名	符號	道府縣名	符號	道府縣名	符號
北海道	北	靜岡縣	靜	岡山縣	岡
普視廳	普	山梨縣	山梨	廣島縣	廣
京都府	京	滋賀縣	滋	山口縣	山口
大阪府	大	岐阜縣	岐	和歌山縣	和
神奈川縣	神	長野縣	長野	德島縣	德
兵庫縣	兵	宮城縣	宮	香川縣	香
長崎縣	長崎	福島縣	福島	愛媛縣	愛媛
新潟縣	新	岩手縣	岩	高知縣	高
埼玉縣	埼	青森縣	青	福岡縣	福
群馬縣	群	山形縣	山形	大分縣	大分
千葉縣	千	秋田縣	秋	佐賀縣	佐
茨城縣	茨	福井縣	福井	熊本縣	熊
栃木縣	栃	石川縣	石	宮崎縣	宮崎
奈良縣	奈	富山縣	富	鹿兒島縣	鹿
三重縣	三	鳥取縣	鳥	沖繩縣	沖
愛知縣	愛	島根縣	島		

備考　鑄鐵製汽罐ノ場合ハ銘板ニ押刻スルコト

（第五號樣式）



（第六號樣式）

汽罐竣功檢査願

收入印紙

一　汽罐ノ種類
一　傳熱面積又ハ內容積
一　設置地地名番號
一　罐體檢査刻印
一　設置許可指令番號
一　受檢希望日

右設置工事竣功致候間御檢査相成度此段及御願候也

年　月　日

住所

設置者　氏　名

（地方長官）殿

備考　收入印紙ハ出願人ニ於テ消印セザルコト

（第七號樣式）（表面）（縦一七糎、横二四糎）

汽罐檢査證	第　號
設置地及設置者氏名	
罐體檢査ノ別印	
種類	大及煙熱面積
制限壓力又ハ水頭壓	燃料
有效期間	檢査官印
自　年　月　至　年　月	
自　年　月　至　年　月	
自　年　月　至　年　月	
自　年　月　至　年　月	
自　年　月　至　年　月	
有效期間	檢査官印
自　年　月　至　年　月	
自　年　月　至　年　月	
自　年　月　至　年　月	
年　月　日　廳府縣印	

（第七號樣式）（裏面）

日附	記事欄	檢査官印
年　月　日		
年　月　日		
年　月　日		
年　月　日		
年　月　日		
年　月　日		
年　月　日		
年　月　日		
年　月　日		
年　月　日		

（第八號樣式）

汽罐修繕變更願

左記汽罐修繕變更致度候間御許可相成度此段及御願候也

年　月　日

住所
設置者　氏名　㊞

（地方長官）殿

一	事業ノ名稱及種類	
二	設置地名番號	
三	汽罐檢査證番號	
四	修繕ノ箇處及方法	
五	修繕ノ理由	
六	修繕施行者住所氏名	
七	竣功期日	

備考
一　⊗印ヲ附シアル欄ニ付テハ別紙圖面ヲ添附スルコト
二　熔接ニ依ル修繕ニ在リテハ其ノ設備、設計及施行方法ヲ記入スルコト
三　本樣式規定ノ欄ニシテ別紙圖面ニ記載シタルモノハ之ヲ記入スルコトヲ要セズ
四　本樣式ニ記入シ盡サヾル事項ニ付テハ別ニ欄ヲ設ケ又ハ別紙ニ記載シ添附スルコト

（縦二六糎、横一八・五糎）

（第九號樣式）

汽罐修繕變更檢查願

收入印紙	
一	汽罐ノ種類
一	傳熱面積又ハ內容積
一	設置地地名番號
一	汽罐檢查證番號
一	修繕許可指令番號
一	變更許可指令番號
一	受檢希望日

右修繕變更工事竣功並檢查相成度此段及御願候也

年　月　日

住所
設置者　氏　名　㊞

（地方長官）殿

備考　收入印紙ハ出願人ニ於テ消印セザルコト

（第十號樣式）

更新檢查願

收入印紙	
一	汽罐ノ種類
一	傳熱面積又ハ內容積
一	設置地地名番號
一	汽罐檢查證番號
一	汽罐檢查證有效期間　自　年　月 至　年　月
一	受檢希望日
一	移動式汽罐ニ在リテハ希望受檢地

右更新檢查相受度此段及御願候也

年　月　日

住所
設置者　氏　名　㊞

（地方長官）殿

備考　收入印紙ハ出願人ニ於テ消印サザルコト

汽罐取締令

（第十一號樣式）

年　月　日

汽罐檢査通知書

一　汽罐檢査證番號　第　號

一　檢査期日　月　日

一　注意事項

右ノ通　更新臨時　檢査施行候條汽罐取締令ニ依リ相當準備相成度

（汽罐設置者）殿

（縦二六糎、横一八・五糎）

（第十二號樣式）

保險契約　更新解除　屆

一　汽罐ノ種類

一　汽罐檢査證番號

一　設置地地名番號

一　保險者名

一　保險金額

一　保險契約年月日

一　保險契約期間　自　年　月　日　至　年　月　日

右保險契約　更新解除　致候間此段及御屆候也

年　月　日

住所

設置者　氏　名

（地方長官）殿

（第十三號樣式）

汽罐再使用檢査願

收入印紙

一　汽罐ノ種類
一　傳熱面積又ハ內容積
一　設置地地名番號
一　汽罐檢査證番號
一　使用休止年月日
一　受檢希望日

右汽罐再使用檢査相成度此段及御願候也

年　月　日

住所
設置者　氏　名

（地方長官）殿

備考　收入印紙ハ出願人ニ於テ消印セザルコト

（第十四號樣式）

汽罐事故報告

事業ノ種類		事故ノ原因及發生狀況	被害ノ狀況							
	汽罐設置地		死傷者數			事故ニ損ル因害				
	汽罐ノ種類		性	男	女	被害建物ノ種類	機械、設備等ノ損害	坪數	損害ノ見積金額	備考
	汽罐檢査證番號		死亡者							
			二週間以上ノ休業ヲ要スル者							
			其ノ他ノ負傷者							
			計							
	設置者又ハ汽罐管理人									
	取扱主任者資格氏名									
	事故發生日時									
	事故發生場所									

（縱二六糎、横一八・五糎）

記載心得　一　本報告ハ二通提出スルコト　二　本報告ニ付テハ其ノ寫ヲ作成シ屆出後五年間之ヲ保存スルコト　三　設置者又ハ汽罐管理人欄ニハ屆出人タル汽罐設置者又ハ汽罐管理人ノ氏名ヲ記入シ捺印スルコト　四　事故ノ原因及發生狀況欄ニハ破裂當時ノ使用壓力事故ニ關係アル作業、操作其ノ他原因及發生狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ擧ゲ其ノ顚末ヲ記載スルコト　五　事故ノ原因發生狀況其ノ他ニ關シ本欄ニ記載シ難キトキハ別紙ニ記載シ添附スルコト

（第十五號樣式）（表面）（面縱二六糎、横一八・五糎）

汽罐士試驗願

住所　氏名

（生年月日）

收入印紙

受驗種目　級

右汽罐士試驗相受度此段及御願候也

年　月　日

氏名　㊞

（地方長官）殿

備考

一　收入印紙ハ出願人ニ於テ消印セザルコト

二　出願前六月以内ニ撮影シタル名刺形半身脱帽ノ寫眞一葉添附スルコト

三　第三十四條ノ規定ニ依リ試驗ノ全部又ハ一部ノ省略ヲ希望スル者ハ其ノ資格證明書ノ寫ヲ添附スルコト

（第十五號樣式）（裏面）

學校及職業ニ關スル履歴

（第十六號樣式）

汽罐士試驗合格證書

第　號

氏名

（生年　月　日）

一（二）級　汽罐士

右汽罐士試驗ニ合格シタルコトヲ證ス

年　月　日

總府　縣　團

（縱二六糎、横一八・五糎）

（第十七號樣式）（表面）（縦二六糎、横一八・五糎）

一（二）級汽艇士免許願

収入印紙

一（二）級汽艇士免許相成度此段及御願候也

年　月　日

住所

名　㊞

（地方長官）殿

備考　収入印紙ハ出願人ニ於テ消印セザルコト

（裏面）

氏名	
生年月日	
本籍	
住所	
汽艇士試験合格證書番號	
學校及職業ニ關スル履歴	
寫眞	寫眞ハ出願前六月以内ニ撮影シタル名刺形半身肥帽ノモノ一葉
備考	

（第十八號樣式）（縦八糎、横一八糎）

汽艇士免許證

氏名

（生年月日）

一（二）級汽艇士

寫眞

廳府縣印

第　號

年　月　日交付

廳府縣印

（第十九號樣式）

汽艇士免許證再交付願

収入印紙

一　免許證種目　級汽艇士

一　免許證再交付願出ノ理由

右汽艇士免許證再交付相成度此段及御願候也

年　月　日

住所

氏名　㊞

（地方長官）殿

備考

一　出願前六月以内ニ撮影シタル名刺形半身肥帽ノ寫眞二葉ヲ添附スルコト

二　毀損ニ因ル再交付願出ノ場合ハ該免許證ヲ添附スルコト

三　収入印紙ハ出願人ニ於テ消印セザルコト

別表手數料

第一號（甲）

汽罐（蒸除罐ヲ）	種別／傳熱面積（平方米）	五未滿	五以上十未滿	十以上四十未滿	四十以上百未滿	百以上二百未滿	二百以上三百未滿	三百以上
	罐體檢査、竣功檢査、更新檢査、修繕變更檢査及再使用檢査	〇・七〇円	一・五〇円	五・〇〇円	七・〇〇円	一〇・〇〇円	一四・〇〇円	一七・〇〇円

第一號（乙）

蒸罐	種別／內容積（立方米）	〇、九未滿	〇、九以上二未滿	二以上五未滿	五以上十未滿	十以上
	罐體檢査、竣功檢査、更新檢査、修繕變更檢査及再使用檢査	〇・五〇円	一・〇〇円	二・〇〇円	三・〇〇円	五・〇〇円

第二號

級別／種別	汽罐士試驗手數料	汽罐士免許手數料	汽罐士免許證再交付手數料
一級汽罐士	一・〇〇円	一・五〇円	〇・五〇円
二級汽罐士	〇・五〇	一・〇〇	〇・五〇

汽罐構造規格（昭和十年四月九日內務省令告示第二〇四號）

汽罐取締令第二十五條ノ規定ニ依ル汽罐ノ構造上ノ要件制限壓力三十五瓩平方糎以下ノモノニ付左ノ通定ム

第一章　汽罐ノ材料

第一條　汽罐ノ材料ハ左表ニ揭グルモノヲ使用スルコトヲ要ス但シ之ト同等以上ノ材料ヲ使用スル場合又ハ制限壓力十瓩平方糎以下ノ汽罐ニ付地方長官支障ナシト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

種別	材料					
	材質	寸法	註			
鋼板	鋼板第一種					
	鋼板第二種					
	鋼板第三種					
	鋼板第一種					
	鋼板第二種					
	鋼板第一種					
	鋼板第二種					
	鋼板第三種					
	鋼板第一種					
	鋼板第二種					
	鋼板第一種					
	鋼板第二種					
形鋼	日本標準規格第二十六號					

棒鋲(火室又ハ燃燒室)	一號	棒鋼第二種	
鋼鋲		棒鋼第二種	
鋲	日本標準規格鉄材第一種乙第四百二十二號	鉄材第一種乙	
		鉄材第一種丙	
		鉄材第二種乙	
		鉄材第二種丙	日本標準規格第三十九號
鋼水管	日本標準規格第十五號	日本標準規格第七十七號	但シ外徑百四十粍ヲ超ユルモノノ使用ヲ妨ゲズ
鐵管	日本標準規格第十六號	日本標準規格第七十七號	但シ外徑百四十粍ヲ超ユルモノノ使用ヲ妨ゲズ
蒸汽罐、給水管	日本標準規格第十八號	日本標準規格第七十八號	第二條參照
鑄鋼品	日本標準規格第六號		第四種ヲ除ク
可鍛鑄鐵品	日本標準規格第七十九號		使用ヲ禁止スル場合ニ付テハ第三條及第四條參照
鑄鐵品	日本標準規格第百三十四號		
鋼管	日本標準規格第四十八號		

鋼板ノ第二種、第三種又ハ棒鋼ノ第二種、第三種ノ各種別ノ抗張力ノ差ノ範圍ハ同一罐ノ同一用途ニ供スルモノニ付七瓩平方粍ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二條　日本標準規格ニ定ムルガス管ハ前條ノ規定ニ拘ラズ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ限リ之ヲ汽罐ノ蒸汽管又ハ給水管ニ使用スルコトヲ得

一　汽罐ノ制限壓力ガ十瓩平方粍以下ナルトキ

二　汽罐ノ制限壓力ガ十六瓩平方粍以下ニシテガス管ノ徑六十五粍以下ナルトキ

第三條　鑄鐵品（特殊鑄鐵品ヲ除ク）又ハ可鍛鑄鐵品ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

一　蒸汽ノ壓力ガ十六瓩平方粍ヲ超ユルトキ

二　蒸汽ノ溫度ガ攝氏二百五十度ヲ超ユルトキ

第四條　銅管ハ蒸汽ノ溫度ガ攝氏二百度ヲ超ユル場合ニ於テハ之ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ壓力計又ハ水面計ニ使用スル銅管ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二章　汽罐ノ構造

第五條　汽罐ニ使用スル鋼板ノ厚ハ六粍以上タルコトヲ要ス但シ蒸罐ニ在リテハ厚四粍以上ノ縫目無鋼管ヲ使用スルコトヲ妨ゲズ

控ヲ有スル板、管板又ハ鎔ヲ有スル爐筒板若ハ火室板ノ厚ハ前項ノ規定ニ拘ラズ八粍以上タルコトヲ要ス

第六條　罐胴又ハ鎔ヲ有スル汽筒ノ鋼板ノ厚ハ左ノ各號ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一　制限壓力二・五瓩平方粍ヲ超ユル場合

（イ）罐胴又ハ汽筒ノ內徑六百粍ヲ超ユルトキハ鋼板ノ厚ハ八粍以上タルコト

（ロ）罐胴又ハ汽筒ノ內徑六百粍以下ノトキハ鋼板ノ厚ハ六粍以上タルコト

二　制限壓力二・五瓩平方粍以下ノ場合

（イ）罐胴又ハ汽罐ノ內徑九百粍ヲ超ユルトキ鋼板ノ厚ハ八粍以上タルコト

（ロ）罐胴又ハ汽筒ノ内徑九百粍以下ノトキハ鋼板ノ厚ハ六粍以上タルコト

鑄鐵製汽罐又ハ鑄鐵製温水罐ノ罐體ヲ構成スル鑄鐵ノ厚ハ八粍以上タルコトヲ要ス

第七條　鏡板又ハ冠板ニ使用スル鋼板ノ厚ハ罐胴板、汽筒板又ハ火室板ノ厚ヨリ小ト爲スコトヲ得ズ

第八條　罐胴又ハ汽筒ノ繼接手ハ左ノ各號ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一　片目板衝接ト爲サザルコト

二　罐胴又ハ汽筒ノ内徑千粍ヲ超ユル制限壓力八・五瓩平方糎以上ニ於テ使用スルモノニ在リテハ累接ト爲サザルコト

三　罐胴又ハ汽筒ノ内徑五百粍ヲ超ユル制限壓力五瓩平方糎以上ニ於テ使用スルモノニ在リテハ一列俟累接ト爲サザルコト

四　横置多管式汽罐ノ罐胴ニ在リテハ火焰ニ直接接觸スルコトナキ位置ニ配置スルコト

第九條　汽罐（鑄鐵製汽罐、鑄鐵製温水罐及蒸罐ヲ除ク）ニハ罐胴又ハ鏡板ノ適當ナル箇所ニ人孔ヲ設クベシ但シ罐胴ノ内徑六百五十粍未滿、長千粍未滿ニシテ掃除若ハ檢査ノ爲罐胴ニ潜入シ得ザルモノ又ハ罐胴ノ内徑千粍未滿ノ竪型汽罐ニシテ人孔ヲ設ケ難キモノ在リテハ二以上ノ掃除孔又ハ檢査孔ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

人孔ノ大ハ長徑三百七十五粍以上、短徑二百七十五粍以上ノ楕圓形又ハ内徑三百七十五粍以上ノ圓形タルコトヲ要ス

掃除孔又ハ檢査ノ大ハ内徑二十五粍未滿タルコトヲ得ズ

第十條　横置多管式汽罐ニ在リテハ前條ニ規定スル人孔ノ外前管板ノ煙管巢ノ下部ニ入孔ヲ設クベシ但シ罐胴ノ内徑千二百粍未滿ニシテ人孔ヲ設ケ難キモノ又ハ管板ノ縦中央部ノ管列間ニ若ハ外方管列ト罐胴トノ間ニ二百三十粍以上ノ間隙アルモノニ付テハ適當ナル大ヲ有スル掃除孔ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第十一條　竪型汽罐ノ罐胴ニハ水脚部ニ二以上ノ掃除孔ヲ設クベシ

第十二條　竪型多管式汽罐ノ罐胴ニハ火室冠板ノ高ト同一ノ高ノ位置ニ二以上ノ檢査孔ヲ設クベシ

第十三條　水管ヲ有スル竪型汽罐ノ罐胴ニハ水管ヲ掃除シ得ル位置ニ適當數ノ掃除孔ヲ設クベシ

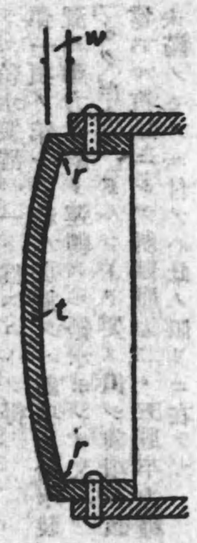
第十四條　「コルニツシユ」型汽罐ノ前鏡板ノ下部ニハ掃除孔ヲ設クベシ

第十五條　罐胴、鏡板及管板ニ設クル人孔、掃除孔又ハ檢査孔ハ相當ノ强力ヲ有スル緣環又ハ突環ニテ補强スベシ但シ掃除孔又ハ檢査孔ノ長徑百五十粍未滿ノモノハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條　控ニ依リ補强セラレザル鏡板ハ左ノ各號ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一　取付鋲ノ曲内半徑（r）ハ鏡板ノ厚（t）ノ四倍以上ト爲スコト

二　取付鋲ノ彎曲起部ト胴板縁トノ間（w）ハ六粍以上ト爲スコト



第十七條　竪型汽罐ノ火室冠板ト冠板トヲ連結スル焰管ノ内徑ハ罐胴内徑ノ六分ノ一以上ダルコトヲ要ス

第十八條　管寄ノ材料ニハ軟鋼又ハ錬鋼ヲ使用スルコトヲ要ス但シ工作ニ缺陷ナキ限リ材質良好ナル鑄鋼ヲ使用スルコトヲ妨ゲズ

第十九條　汽罐ニハ二以上（温水罐又ハ蒸罐ニ在リテハ一以上）ノ安全辨ヲ設クベシ但シ鏡格面積〇・六平方米又ハ傳熱面積十二平方米以下ノモノニ在リテハ之ヲ一ト爲スコトヲ得

温水罐ニ在リテハ制限壓力ヲ超ユル場合直ニ逃水スル安全裝置ヲ以テ前項ノ安全辨ニ代フルコトヲ得

第二十條　安全辨ノ徑ハ二十五粍以上タルコトヲ要ス

罐胴ノ內徑五百粍以下、罐胴ノ長千粍以下傳熱面積二平方米以下及制限壓力五瓩平方糎以下ノ小型汽罐（以下單ニ小型汽罐ト稱ス）ニ在リテハ安全辨ノ徑ハ前項ノ規定ニ拘ラズ十九粍以上ト爲スコトヲ妨ゲズ

第二十一條　安全辨ハ其ノ徑三十八粍未滿トナルトキハ之ヲ簧條式ト爲スコトヲ得ズ但シ「ポップ」簧條式安全辨其ノ他機能確實ナルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第二十二條　安全辨ハ其ノ辨ニ加ハル蒸汽ノ全壓力六百瓩ヲ超ユル場合ハ之ヲ槓桿式ト爲スコトヲ得ズ

第二十三條　安全辨ノ辨及辨座ニハ容易ニ腐蝕スルコトナキ材料ヲ使用スルコトヲ要ス

第二十四條　汽罐（溫水罐及蒸罐ヲ除ク）ニハ二以上ノ硝子水面計ヲ備フルコトヲ要ス但シ竪型汽罐ニシテ罐胴ノ內徑七百五十粍未滿ノモノ及暖房ニ專用セラルル鑄鐵製汽罐ニ在リテハ其ノ一ハ硝子水面計ニ非ザル水面測定裝置タルコトヲ要ス

硝子水面計ノ硝子管ハ內徑十粍以上又ハ之ニ相當スル斷面積ヲ有スルコトヲ要ス

硝子水面計ハ其ノ硝子面ノ看取シ得ル最下部ガ安全低水面ヲ指示スベキ位置ニ取付クルコトヲ要ス

前項ノ安全低水面トハ汽罐使用中維持セラルベキ最低ノ水面ヲ謂フ

第二十五條　汽罐（蒸罐ヲ除ク）ニハ臨時單獨ニ汽罐ノ最大蒸發量以上ヲ給水シ得ル二以上ノ給水裝置ヲ備フベシ、但シ第一ノ給水補置ガ二以上ノ給水ポンプヲ結合シタルモノナル場合ニ於テハ第二ノ給水裝置ノ給水能力ハ汽罐ノ最大蒸發量ノ二十五パーセント以上ニシテ第一ノ給水裝置中ノ給水ポンプ中最大ノモノト同等以上ノモノタルコトヲ妨ゲズ

爐格面積〇・六平方米又ハ傳熱面積十二平方米以下ノ汽罐ニ在リテハ前項ノ規定ニ拘ラズ給水裝置ヲ一ト爲スコトヲ得

第一項ノ第一ノ給水裝置又ハ前項ノ給水裝置ハ動力ニ依リ運轉スル給水ポンプ又ハ「インゼクタ」タルコトヲ要ス但シ前項ニ該當スル汽罐ニシテ制限壓力二・五瓩平方糎未滿ノモノニ付テハ此ノ限リニ在ラズ

第二十六條　汽罐ノ制限壓力ヨリ其ノ二十パーセント以上高キ水壓力ニテ汽罐ニ給水シ得ル貯水槽又ハ汽罐ノ制限壓力ヨリ一瓩平方糎以上高キ壓力ヲ有スル水道ハ之ヲ給水裝置ト爲スコトヲ得

第二十七條　近接セル二以上ノ汽罐ヲ結合シテ使用スル場合ニ於テハ給水裝置ニ關スル規定ノ適用ニ付テハ之ヲ一汽罐ト看做ス

第二十八條　給水裝置ノ給水管ニハ汽罐ニ近接セル位置ニ給水辨及逆止辨ヲ備フベシ

第二十九條　汽罐ニハ水室ノ最低部ニ直結セル排水管ヲ設ケ之ニ排水コック又ハ排水辨ヲ備フベシ

排水コック又ハ排水辨ノ通水孔ノ斷面積ハ五百平方粍（小型汽罐又ハ蒸罐ニ在リテハ百二十平方粍）以上タルコトヲ要ス

排水コック又ハ排水辨ハ見易ク且取扱容易ナル位置ニ設クベシ

第三十條　熱ガスニ接觸スル給水管、排水管及水面測定裝置ノ通水管ハ耐熱材料ヲ以テ防護スベシ

第三十一條　汽罐ニハ制限壓力ノ一倍半乃至三倍ノ指度ヲ有スル壓力計ヲ備ヘ制限壓力ノ指度ニハ適當ノ標示ヲ爲スベシ

第三十二條　蒸罐ハ第一條乃至第八條、第十六條、第十九條乃至第二十三條、第二十九條及第三十一條ニ依ルノ外左ノ各號ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一　罐胴又ハ鏡板ノ材料ニハ鋼板ヲ使用スルコト但シ罐胴ノ內徑四百五十粍以下又ハ之ニ相當スル斷面積ヲ有スル蒸罐ノ鏡板ハ鑄鐵製タルコトヲ妨ゲズ

二　加硫罐又ハ罐板ガ著シク腐蝕セラルル虞アル作業ニ使用セラルル蒸罐ノ鋼板ノ厚ハ九粍以上タルコト

三　鏡板締付ボルトノ直徑ハ二十五粍以上タルコト但シ罐胴ノ內徑四百五十粍以下又ハ之ニ相當スル斷面積ヲ有スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

四　鋼製鏡板ノボルト孔ヲ有スル板端ハ竪

牢ナル構造ト爲スコト

五　蒸汽送入管中適當ノ箇所ニ減壓辨又ハ減壓裝置ヲ備フルコト但シ其ノ必要ナキ場合ニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

六　容易ニ內部ヲ檢査シ得ザル蒸罐ニ在リテハ適當ノ箇所ニ檢査孔ヲ設クルコト

七　橫置型蒸罐ニ在リテハ罐胴ノ縱接手ハ罐胴ノ最低部ヨリ左右約二十度以內ノ範圍ニ之ヲ配置セザルコト

第三十三條　鋼鐵製汽罐ハ製限壓力〇・七瓩平方糎以下ニ於テ使用スル組合式タルコトヲ要ス

鑄鐵製溫水罐ハ制限壓力三瓩平方糎（水頭壓三十米）以下ニ於テ使用スルモノタルコトヲ要ス

第三章　强度計算

第三十四條　汽罐ノ强度計算ニ使用スル抗張力ハ日本標準規格ニ依ル場合ハ其ノ最低値ニ依ルモノトス

前項ニ依ルコトヲ得ザル場合ニ於テハ地方長官ノ査定ニ依ルモノトス

第三十五條　胴板ノ强力ニ對スル制限壓力ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P=\frac{200fE(t-1)}{CD}\quad 又ハ\ t=\frac{CDP}{200fE}+1\cdots(一)$$

P　ハ制限壓力　瓩平方糎

t　ハ胴板ノ厚　糎

f　ハ罐板ノ最小抗張力　瓩

D　ハ罐胴ノ最大內徑　糎

E　ハ縱接手部分ノ强率ニシテ左ノ算式中最小ノモノヲ用フルコト

（イ）接手部分ニ於ケル胴板ノ强率

$$E_1=\frac{p-d}{p}$$

（ロ）接手部分ニ於ケル鉸鋲ノ强率

$$E_2=\frac{fsA(n_1+1.8n_2)}{fpt}$$

（ハ）累接又ハ片目板ガ一列鋲少ナキ兩目板衝接ニシテ鉸鋲ノ數外列ニ於テ半數ナル場合ニ於ケル鉸鋲及胴板ノ聯合强率

$$E_3=\frac{p-2d+\frac{fsA}{fpt}}{p}$$

（ニ）目板ノ幅等シキ兩目板衝接ニシテ鉸鋲ノ數外列ニ於テ半數ナル場合ニ於ケル鉸鋲及胴板ノ聯合强率

$$E_4=\frac{p-2d+\frac{1.8fsA}{fpt}}{p}$$

p　ハ外列ニ於ケル鉸鋲ノ心距　糎

d　ハ鉸鋲孔ノ徑　糎

A　ハ鉸鋲孔ノ面積　平方糎

n_1　ハpナル心距ニ於ケル鉸鋲ニシテ一箇所ニ剪斷力ヲ受クルモノノ數

n_2　ハpナル心距ニ於ケル鉸鋲ニシテ二箇所ニ剪斷力ヲ受クルモノノ數

fs　ハ鉸鋲ノ抗剪力ニシテ鐵用鋲材ノ抗張力ノ八十五パーセント

C　ハ定數ニシテ左表ニ依ルコト

縱接手ニ於テ累接ナルトキ	四・七五
縱接手ニ於テ兩目板衝接一列鋲又ハ片目板ガ一列鋲少ナキトキ	四・二五
縱接手ニ於テ二列鋲以上ノ兩目板衝接又ハ纖目無鋼管ナルトキ	四・〇〇

前項（ハ）（ニ）以外ノ構造ヲ有スル場合ニ於ケル鉸鋲及胴板ノ聯合强率ハ其ノ構造ニ從ヒ計算スルモノトス

第三十六條　平板ノ强力ニ對スル制限壓力ハ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

一　控ノ配列規則正シキ場合

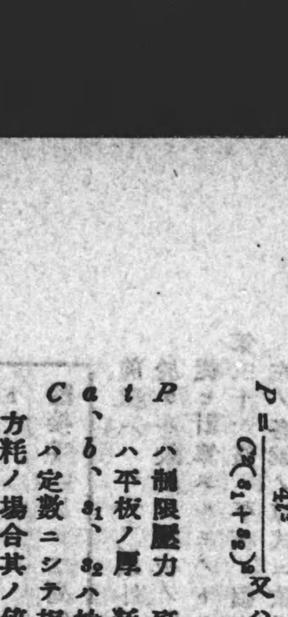
$$P=\frac{t^2}{C(a^2+b^2)}\quad 又ハ\ t=C\sqrt{(a^2+b^2)P}\quad\cdots\cdots\cdots(二)$$

二　控ノ配列不規則ナル場合

$$P=\frac{4t^3}{C^2(s_1+s_2)^2}\text{又ハ}\quad t=\frac{1}{2}C(s_1+s_2)\sqrt{P}\qquad\cdots\cdots\cdots(三)$$

P ハ制限壓力　瓩平方糎
t ハ平板ノ厚　糎
a、b、s_1、s_2 ハ拴ノ間隔　糎
C ハ定數ニシテ板ノ抗張力三十四瓩平方糎ノ場合其ノ値ハ左表ニ依ル

拴			
ネジ拴	頭部ヲ鉸締シタルモノ	熱ガスニ觸ルル場合	〇・〇一七五
		熱ガスニ觸レザル場合	〇・〇一五五
	頭付又ハナットヲ有スルモノ	熱ガスニ觸ルル場合	〇・〇一六〇
		熱ガスニ觸レザル場合	〇・〇一三九
拴管及ルナットヲ有スル場合	熱ガスニ觸レザル場合	外面座金ノ徑ガ拴心距ノ五分ノ二ニシテ其ノ厚ガ板ノ厚ノ三分ノ二ナルトキ	〇・〇一四四
		外面座金ノ徑ガ拴心距ノ五分ノ三ニシテ其ノ厚ガ板ノ厚ノ六分ノ五ナルトキ	〇・〇一三四
		外面座金ノ徑ガ拴心距ノ五分ノ四ニシテ其ノ厚ガ板ノ厚ニ等シキトキ	〇・〇一二四
	熱ガスニ觸ルル場合		〇・〇一一三



金一面ガ熱ガスニ觸レ他面ガ蒸汽ニ觸ルル板ニシテ熱ガスニ觸ルル面ガ何等防護セラレザル場合ニハ上記ノ定數ヲ十パーセント增加スルコト

抗張力ガ f 瓩平方糎ナル板ヲ使用スル場合ニハ C ノ値ハ前表ニ示スモノニ $\sqrt{\frac{34}{f}}$ ヲ乘ジタモノトス

三　周圍ニ於テ固定セラレタル矩形平板ノ場合

$$P=856t^2\left(\frac{1}{a^2}+\frac{1}{b^2}\right)\text{又ハ}\quad t=0.053a\sqrt{\frac{P}{\left\{1+\left(\frac{a}{b}\right)^2\right\}\left(\frac{1}{a^2}+\frac{1}{b^2}\right)}}\qquad\cdots\cdots\cdots(四)$$

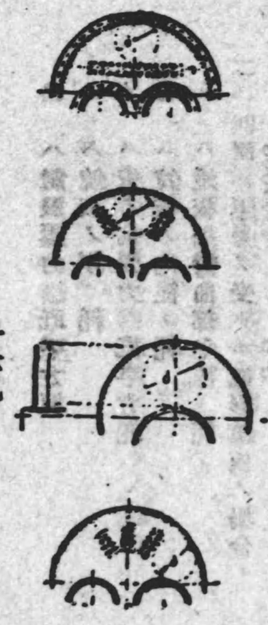
P ハ制限壓力　瓩平方糎
t ハ平板ノ厚　糎
f ハ材料ノ許容抗張內力即四分ノ一抗張力瓩平方糎
a ハ矩形ノ長邊　糎
b ハ矩形ノ短邊　糎

四　ガセット拴ニテ補强セラレタル平板ノ場合

$$P=5000\frac{t^2}{d^2}\text{又ハ}\quad t=0.142d\sqrt{P}\qquad\cdots\cdots\cdots(五)$$

P ハ制限壓力　瓩平方糎
t ハ平板ノ厚　糎
d ハ補强ナキ區域內ニ畫キ得ル最大圓ノ徑　糎

定數〇・〇一四及五〇〇〇ハ板ノ抗張力ガ三十四瓩平方糎ノ場合ニ對スルモノニシテ板ノ抗張力ガ f 瓩平方糎ナル場合ニハ〇・〇一四ニ對シテハ $\frac{f}{34}$ ヲ乘ジ、五〇〇〇ニ對シテハ $\sqrt{\frac{34}{f}}$ ヲ乘ズルモノ



トス

五　火焰ニ接觸セザル平板ニ其ノ厚ノ三分ノ二ヨリ薄カラザル圓ヘ板ヲ適當ニ鉄着シタルトキハ左ノ算式ニヨリ定メタル t ノ値ヲ(二)、(三)、(四)及(五)式ニ適用ス

$$t=\frac{7}{8}(t_1+t_2)\quad\cdots\cdots(六)$$

t_1　ハ原平板ノ厚　粍

t_2　ハ副ヘ板ノ厚　粍

第三十七條　鍔ヲ有スル鏡板ニシテ控其ノ他ニ依リ補强セラレザルモノハ内ノ張力ニ對スル制限壓力ハ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

一　平ナル鏡板ノ場合

$$P=\frac{800}{3}\left\{\frac{t}{d+\frac{2}{3}\left(1+\frac{2}{d}\right)}\right\}^2\text{又ハ}$$

$$t=0.0612\left\{d+\frac{2}{3}\left(1+\frac{2}{d}\right)\right\}\sqrt{Pf}\quad\cdots\cdots(七)$$

P　ハ制限壓力　瓩平方糎

t　ハ鏡板ノ厚　粍

f　ハ板ノ抗張力　瓩平方粍

d　ハ鏡板ノ内徑　粍

r　ハ鏡板端彎曲部半徑　粍

二　凹面ニ壓力ヲ受クル皿形鏡板ノ場合

$$P=\frac{200tf_2}{R}\text{又ハ}\quad t=\frac{PR}{200f}\quad\cdots\cdots(八)$$

P　ハ制限壓力　瓩平方糎

t　ハ板ノ厚　粍

f_2　ハ板ノ許容抗張内力　瓩平方粍ニシテ五瓩平方粍以下トス

R　ハ皿形ノ中央部ニ於ケル内面ノ半徑粍ニシテ鏡鋲ノ内徑ヨリ大ナルコトヲ得ズ

皿形鏡板ニ人孔ヲ設クルトキハ其ノ厚ハ(八)式ニテ算定シタルモノニ二粍ヲ加フベシ

三　凸面ニ壓力ヲ受クル皿形鏡板ノ場合

$$P=\frac{200tfd}{R}\text{又ハ}\quad t=\frac{PR}{200fd}\quad\cdots\cdots(九)$$

P　ハ制限壓力　瓩平方糎

t　ハ板ノ厚　粍

f　ハ板ノ許容壓縮内力　瓩平方粍ニシテ三・五瓩平方粍以下トス

R　ハ皿ノ中央部ニ於ケル外面ノ半徑粍

第三十八條　多管式汽罐ノ管板ノ構造ハ左ノ各號ニ依ルベシ

一　管群部以外ノ平板部ノ厚ニ對シテハ第三十六條ノ規定ヲ適用ス

二　管群部ニ於ケル厚ハ控管又ハ他ノ控ヲ有スル場合ハ第三十六條ノ規定ニ依ルベシ

此ノ場合ニ在リテハ無管端ヲ單ニ擴大シタル構造タルヲ妨ゲズ但シ管板ノ厚 t 粍ハ管孔ノ徑 d ガ三十八粍乃至百粍ノトキ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$t=\frac{d}{10}+5\quad\cdots\cdots(一〇)$$

鋼製管板ノ厚　$t=\frac{PWD}{1900(D-d)}\quad\cdots\cdots(一一)$

t　ハ管板ノ厚　粍

d　ハ管孔ノ徑　粍

三　管ノ心距 p 粍ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$p=\left(1+\frac{45}{t}\right)d\quad\cdots\cdots(一二)$$

t　ハ管板ノ厚　粍

d　ハ管孔ノ徑　粍

p　ハ管ノ心距　粍

四　燃燒室頂部ノ壓力ガ管板ニ加ハル場合其ノ厚ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$t=\frac{PWD}{1900(D-d)}\quad\cdots\cdots(一三)$$

P　ハ制限壓力　瓩平方糎

t　ハ管板ノ厚　粍

D　ハ煙管ノ水平心距　粍

W　ハ管板ト燃燒室反對側板トノ間隔粍

d　ハ煙管ノ内徑　粍

第三十九條　水平式汽罐ニ於テ罐胴ノ縦ス継目板ノ張力ニ對スル制限壓力ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス但シ管ノ頂付近ニ對スル鉄筋ノ有效厚ハ十粍以上トス

$$P=\frac{100f(t-3)(p-d)}{2.1Dp}$$ 又ハ

$$t=\frac{2.1DPp}{100f(p-d)}+3 \quad \cdots\cdots(一三)$$

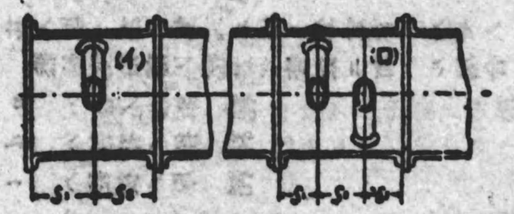
P　ハ制限壓力　粍平方當
t　ハ板ノ厚　粍
f　ハ材料ノ抗張力　粍平方粍
p　ハ継孔ノ縦心距　粍
d　ハ継孔ノ徑　粍
D　ハ罐胴ノ内徑　粍

第四十條　罐胴ノ張力ニ對スル制限壓力ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P=\frac{2400(t-2)}{\left\{2+\frac{a}{2400}\cdot\frac{D}{(t-2)}\cdot\frac{a}{(s+D)}\right\}D}$$ 又ハ

$$t=\frac{DP}{2400}\left\{1+\sqrt{1+\frac{as}{P(s+D)}}\right\}+2 \quad \cdots\cdots(一四)$$

P　ハ制限壓力　粍平方當
t　ハ板ノ厚　粍
D　ハ罐胴ノ内徑　粍
a　ハ有效支持部ノ周圍ノ最大距離　粍
s　ハ定規ニシテ左表ニ依ル



(イ)號　$s=s_1+0.5s_2$

但シ$s_1 \geqq s_2$　(ロ)號　$\begin{cases} s=s_1+s_2 \\ \text{但シ} s_1 \geqq s_2 \end{cases}$　$\begin{cases} s=s_3+s_2 \\ \text{但シ} s_3 \geqq s_2 \end{cases}$

鑛接手ノ種類	鑛接係數	鑛接能率
重接ノ場合	一〇〇	七〇
單接又ハ複接ノ場合	八〇	五〇
鑛目重ネ又ハ複接ノ場合ノ一ニシテ圓形ノ全徑ガ鑛目ノ幅ノ一・五倍以上ナルトキ	七五	四五

第四十一條　波形鑛板ニ罐内壓力ニ對スル制限壓力ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P=\frac{1200(t-2)}{D}$$ 又ハ

$$t=\frac{PD}{1200}+2 \quad \cdots\cdots(一五)$$

P　ハ制限壓力　粍平方當
t　ハ波形鑛板ノ厚　粍

D　ハ罐胴ノ最小内徑　粍

第四十二條　杭ノ各部ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

一　摩擦杭ニテ杭　$P=\frac{75f_z d_2}{a}$ 又ハ

$$d=\sqrt{\frac{aP}{75f_z}} \quad \cdots\cdots(一六)$$

二　杭脚　$P=\frac{95f_z A}{a}$ 又ハ

$$A=\frac{Pa}{95f_z} \quad \cdots\cdots(一七)$$

三　支杭　$P=\frac{95f_z AH}{aL}$ 又ハ

$$A=\frac{PaL}{95f_z H} \quad \cdots\cdots(一八)$$

四　ガセット杭　$P=\frac{85f_z AH}{aL}$ 又ハ

$$A=\frac{PaL}{85f_z H} \quad \cdots\cdots(一九)$$

P　ハ制限壓力　粍平方當
a　ハ一本ノ杭ノ受持ッ面積　平方粍
d　ハ杭ノ最小斷面ノ徑　粍

第四十三條　桁柱ノ腹力ニ對スル制限應力ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P=\frac{Cd^2t}{(W-p)DW}$$ 又ハ

$$t=\frac{P(W-p)DW}{Cd^2} \quad \cdots\cdots(一一〇)$$

P ハ制限應力　㎠平方瓩

C ハ桁桁間ノ場合ニ於ケル抗壓力ガ四十瓩ノ場合ニ依ル係數

D ハ桁桁間ノ距離　㎝

W ハ桁桁間ノ場合ニ於ケル抗壓力ガ四十瓩ノ場合ニ依ル係數

d ハ桁桁中央部ノ高　㎝

t ハ桁桁中央部ノ腹板厚　㎝

p ハ桁桁間ノ上下弦材ノ心距離　㎝

桁ボルト一本ノ場合	五二〇
桁ボルト二本又ハ三本ノ場合	七八〇
桁ボルト四本又ハ五本ノ場合	八七〇
桁ボルト六本又ハ七本ノ場合	九二〇
桁ボルト八本以上ノ場合	九五〇

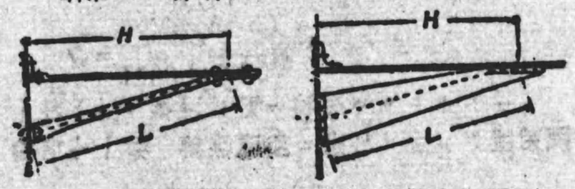
第四十四條　桁ノ腹力ニ對スル制限應力ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

l ハ桁桁間ノ距離　㎝

H ハ桁ノ最小斷面積　㎠平方糎

L ハ桁ノ長又ハガセット桁ノ平均長糎

f_s ハ桁ノ材料ノ許容內力　㎠平方糎ニシテ左表ニ依ル



桁ノ場合	腹板ノ材料規格	腹板用鋼材規格	腹板ノ厚	f_s
桁ノ場合	腹板ノ材料規格	腹板用鋼材規格	三四二百三十一號鐵用	七・五
桁ノ場合	腹板ノ材料規格	腹板用鋼材規格	三四二百三十一號鐵用	八・〇
桁ノ場合	腹板ノ材料規格	腹板用鋼材規格	三四二百三十一號鐵用	六・〇
桁ノ場合	腹板ノ材料規格	腹板用鋼材規格	三四二百三十一號鐵用	七・五
桁ノ場合	腹板ノ材料規格	腹板用鋼材規格	三四二百三十一號鐵用	八・〇
桁ノ場合				五・〇

第四十四條　鉚管ノ腹力ニ對スル制限應力ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P=\frac{700(t-1.5)}{d}$$ 又ハ $$t=\frac{Pd}{700} \quad \cdots\cdots(一一一)$$

P ハ制限應力　㎠平方糎　但シ P ハ1,025ヲ超ユルヲ得ス

d ハ管ノ外徑　糎

t ハ管ノ厚　糎

本式ニ依リ算定シタル目本標準規格鐵鋼管ノ最高許容應力ハ左表ノ如シ

外徑糎 ＼ 厚サ	2.6	2.9	3.2	3.5	4	4.5	5
38	202	—	—	—	—	—	—
40	193	245	—	—	—	—	—
45	171	218	—	—	—	—	—
50	154	196	—	—	—	—	—
55	—	178	216	—	—	—	—
60	—	163	198	233	—	—	—
65	—	151	183	215	—	—	—
70	—	140	170	200	250	—	—
75	—	—	159	187	234	—	—
80	—	—	149	175	218	—	—
85	—	—	140	165	206	247	—
90	—	—	132	155	194	233	—
95	—	—	—	147	184	221	—
100	—	—	—	140	175	210	245

第四十五條　水管ノ强力ニ對スル制限壓力ハ左ノ管式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P=\frac{1000\,(t-1.5)}{di}\quad 又ハ\quad t=\frac{Pbi}{1000}+1.5\quad (二三)$$

P　ハ制限壓力　瓩平方糎

t　ハ管ノ厚　粍

di　ハ管ノ内徑　粍

本式ニ依リ算定シタル日本標準規格罐用繼目無鋼管ノ最高許容壓力ハ左表ノ如シ

外徑粍＼厚粍	2.0	2.3	2.6	2.9	3.2	3.5	4.0	4.5
25	23.8	—	—	—	—	—	—	—
30	19.2	31.6	—	—	—	—	—	—
35	—	26.3	—	—	—	—	—	—
40	—	—	31.6	—	—	—	—	—
45	—	—	27.6	—	—	—	—	—
50	—	—	24.5	31.7	—	—	—	—
55	—	—	—	28.4	35.0	—	—	—
60	—	—	—	25.8	31.7	—	—	—
65	—	—	—	23.6	29.0	34.5	—	—
70	—	—	—	21.8	26.7	31.7	—	—
75	—	—	—	—	24.8	29.4	—	—
80	—	—	—	—	23.1	27.4	34.7	—
85	—	—	—	—	21.6	25.6	32.4	—
90	—	—	—	—	20.3	24.1	30.5	—
95	—	—	—	—	—	22.7	28.7	34.9
100	—	—	—	—	—	21.5	27.1	32.9

火焰側ニ配置セラレタル二列ノ水管ノ厚ハ第一項ノ算式（二二）ニ依リ算定シタル厚ニ〇・三粍以上ヲ加ヘタルモノト爲スベシ

第四十六條　安全辨ノ總面積ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

一　鋼板製汽罐（蒸罐ヲ除ク）

$$F=15H\sqrt{\frac{1000}{Pr}}\quad\cdots\cdots\cdots\cdots(二三)$$

二　鑄鐵製汽罐

（イ）上向通風ノ場合

$$F=\frac{10}{3}H\sqrt{\frac{1000}{Pr}}\quad\cdots\cdots\cdots\cdots(二四)$$

（ロ）下向通風又ハマガジンフイードノ場合

$$F=\frac{10}{3}H\sqrt{\frac{1000}{Pr}}\quad\cdots\cdots\cdots\cdots(二五)$$

P　ハ制限壓力　瓩平方糎

F　ハ安全辨ノ總面積　平方粍

H　ハ傳熱面積　平方米

r　ハ制限壓力力ニ對應スル蒸汽一立方米ノ重量　瓩

第四十七條　汽罐ガ最高蒸發ヲ繼續スル場合壓力ヲ制限壓力ヨリ十パーセント以上ニ上昇セシメザル構造ヲ有スル安全辨ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用セズ

鑄鐵製汽罐ニ在リテハ制限壓力ヨリ〇・三瓩平方糎以上壓力ヲ上昇セシメザル安全裝置ハ之ヲ安全辨ト看做ス

汽罐取締令施行細則

（一七八）

第一條　汽罐取締令（以下單ニ令ト稱ス）ニ依ル願届書類ハ管轄總監ニ提出スベシ、但シ令第五條（汽罐設置許可）同第九條（汽罐設置者變更汽罐檢査證再交付）同第十九條第一項（汽罐使用廢止休止）及第三項（汽罐再使用）同第二十條（災害發生届）同第二十一條（汽罐管理人選任）及第三十九條（汽罐取扱主任者選任）ノ規定ニ依ルモノハ汽罐設置地所轄警察署長ヲ、令第五十三條第二項（附則ニ依ル汽罐士免許申請）ノ規定ニ依ルモノハ住所地所轄警察署長ヲ經由スベシ

第三條ノ二第八條第七項第十二條及第十三條ニ依リ管轄總監ニ提出スベキ願届書類ハ汽罐設置地所轄警察署長ヲ經由スベシ

第二條　令第九條第二項ノ規定ニ依ル届出ハ別記第一號樣式ニ同條第三項ノ規定ニ依ル申請ハ別記第二號樣式ニ依ルベシ

第三條　令第十條第二號又ハ第三號ニ該當スル工事竣功シタルトキハ別記第三號樣式ノ二ニ依ル竣功届ヲ提出スベシ

第四條　令第十三條ノ規定ニ依ル更新檢査願ハ有效期間滿了ノ前月十日迄ニ提出スベシ更新檢査ヲ受ケントスルトキハ罐體ヲ冷却セシメ罐水ヲ排除シ人孔蓋、檢査孔蓋、掃除孔蓋螺格及火構（蒸罐ニ在リテハ人孔蓋又ハ蓋板）ヲ取外シ罐内ノ罐石又ハ塗料ヲ剝離シ煙道其ノ他ノ必要ナル部分並安全彈、硝子水面計等ヲ清掃シ受驗（鑄鐵製分割式汽罐ニ在リテハ罐内外ヲ清掃シ水壓檢査）ノ準備ヲ爲シ置クベシ

第三條ノ二　令第十條第二號又ハ第三號ニ該當スル工事竣功シタルトキハ別記第三號樣式ニ依ル竣功届ヲ提出スベシ

第四條　令第十三條ノ規定ニ依ル更新檢査願ハ有效期間滿了ノ前月十日迄ニ提出スベシ更新檢査ヲ受ケントスルトキハ罐體ヲ冷却セシメ罐水ヲ排除シ人孔蓋、檢査孔蓋、掃除孔蓋螺格及火構（蒸罐ニ在リテハ人孔蓋又ハ蓋板）ヲ取外シ罐内ノ罐石又ハ塗料ヲ剝離シ煙道其ノ他ノ必要ナル部分並安全彈、硝子水面計等ヲ清掃シ受驗（鑄鐵製分割式汽罐ニ在リテハ罐内外ヲ清掃シ水壓檢査）ノ準備ヲ爲シ置クベシ

移動式汽罐ノ罐體檢査ヲ受ケントスルトキハ附帶設備ヲ完備シ置クベシ

第五條　移動式汽罐ヲ設置地以外ニ於テ使用セントスルトキハ使用前日迄ニ別記第四號樣式ニ依リ使用地所轄警察署長ニ届出ヅベシ

第六條　令第十九條第一項第一號ノ規定ニ依ル廢罐届ハ別記第四號樣式ノ二ニ同項第二號ノ規定ニ依ル休罐届ハ汽罐檢査證添付ノ上別記第四號樣式ノ三ニ依ルベシ

第七條　令第二十一條ノ規定ニ依リ汽罐管理人選任ノ認可ヲ受ケントスルトキハ別記第五號樣式ニ依ル申請書正副二通ヲ提出スベシ

前項ノ申請書ニハ汽罐管理人タルベキ者ノ履歷書並選任契約書ノ寫ヲ添付スベシ

汽罐管理人ヲ解任シタルトキハ遲滯ナク届出ヅベシ

第八條　汽罐設置者ハ汽罐ノ使用開始前汽罐取扱主任者ヲ選任シ届出ヅベシ令第四條ニ該當スル汽罐ノ取扱主任者ノ選任届書ニハ履歷書ヲ添付スベシ

第九條　汽罐士免許願ニハ所定ノ期間汽罐ノ取扱ニ從事シタルコトヲ證スルニ足ルベキ書類ヲ添付スベシ

第十條　「コルニッシュ」型「ランカシャ」型汽罐又ハ之ニ類似セル汽罐ヲ据付ケントスル

トキハ左ノ各號ノ制限ニ從フベシ

一　數個ノ汽罐ヲ併置セントスルトキハ各汽罐間ノ隔壁ノ厚サ四百六十粍以上トナスコト

二　汽罐ト煉瓦壁トノ間隔ハ檢査又ハ掃除ノ爲潛入シ得ル間壁ヲ保有セシムルコト

三　煉瓦積ニ設クル出入口ノ寸法ハ幅三百粍以上長サ四百粍以上ト爲スコト

四　罐胴ノ最底部ト鏡最底部トノ距離三百粍以上ト爲スコト

五　汽罐ノ前面ト壁體トノ間ニハ檀格ノ長サノ一倍半以上ノ距離ヲ保有セシムルコト但シ汽罐ノ前面ニ適當ナル出入口ヲ有シ作業ニ支障ナキトキ又ハ檀格ヲ有セズ若ハ自動給炭機ヲ設備セル汽罐ニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

六　汽罐ト煉瓦トノ接觸スル部分ニシテ間隙ヲ生ジ火焔ヲ露出スル部分ハ耐熱材料ヲ以テ之ヲ防止スルコト

第十一條　給水罐ノ給水裝置ノ給水管ハ傳熱面積ニ從ヒ左ノ大サヲ以テスルベシ

傳熱面積	給水管ノ內徑
十平方米未滿	二十五粍以上
十五平方米未滿	三十粍以上
二十平方米未滿	四十粍以上
二十平方米以上	五十粍以上

第十二條　燃料ヲ變更セントスルトキハ管轄總監ニ願出許可ヲ受クベシ

第十三條　左ノ各號ノ一ニ變更アリタルトキハ遲滯ナク屆出ヅベシ

一　汽罐設置地地名番號

二　汽罐設置者又ハ汽罐管理人ノ住所氏名（法人ノ場合ニ在リテハ主タル事務所所在地代表者氏名）

三　汽罐設置者ノ法定代理人保佐人又ハ夫

前項第一號又ハ第二號ノ屆書ニハ汽罐檢查證ヲ添付スベシ

第十四條　從前ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル合格證書若ハ實格證明書ヲ所持スル者令第五十三條ノ規定ニ依リ汽罐士免許證交付ノ申請ヲ爲サントスルトキハ該證書ヲ添付スベシ

第十五條　第三條（罐體檢查ノ準備）第四條第二項（更新檢查ノ準備）第五條（移動式汽罐ノ使用地變更）第十二條（燃料變更）及第十三條（汽罐設置者住所等ノ變更）ノ規定ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十六條　令第四十七條及同第四十八條ノ規定ハ本令ノ罰則ニ之ヲ適用ス

附　則

第十七條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ適用ス

第十八條　昭和七年六月警視廳令第十六條汽罐取締規則ハ之ヲ廢止ス

第十九條　本令施行ノ際既ニ設置セル汽罐ニ付テハ其ノ改築ニ至ル迄第十條第一號乃至第五號及第十一條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第一號樣式

汽罐承繼屆

一　汽罐設置地地名番號

一　被承繼者住所氏名

一　承繼者住所氏名生年月日

一　事業ノ種類並使用目的

一　汽罐ノ種類

一　汽罐檢查證番號

右ノ通承繼仕候條此ノ段及御屆候也

年　月　日

右被承繼者　氏　名　印

承繼者　氏　名　印

（妻ノ場合ハ夫未成年者ノ場合ハ法定代理人ノ同意ヲ要ス）

警視總監　氏　名殿

第二號樣式

汽罐檢查證再交付願

一　汽罐設置地地名番號

一　設置者氏名

一　事業ノ種類及使用目的

一　汽罐ノ種類

一　汽罐檢查證番號

一　再交付ノ事由（毀損ノ場合ハ檢查證添附）

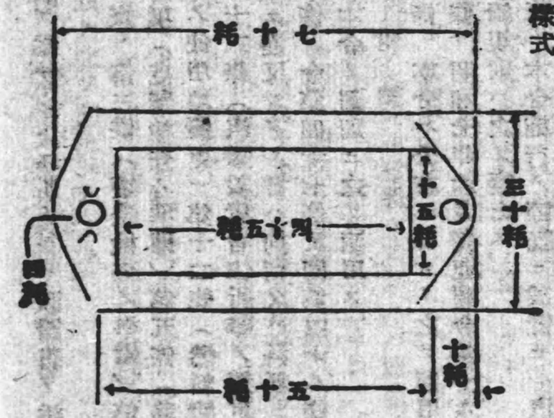
右ノ通汽罐檢査證滅失致候條再交付相成度此ノ段及御願候也

年　月　日

警視總監　氏　右氏　名印

殿

第三號標式



第三號標式ノ二

汽罐　焚燒裝置　竣功届

據付基礎

一　汽罐設置地地名番號

一　設置者ノ住所氏名

一　汽罐ノ種類

一　汽罐檢査證番號

一　傳熱面積

一　汽罐　焚燒裝置　許可年月日及指令番號

據付基礎

右ノ通汽罐　焚燒裝置　工事竣功致候條此ノ段及御届候也

年　月　日

警視總監　氏　右氏　名印

殿

第四號標式

移轉式汽罐使用届

一　設置者ノ住所氏名

一　汽罐取扱主任者ノ資格及氏名

一　汽罐檢査證番號

一　使用場所、使用期間及使用始終時

一　燃料ノ種類

一　煙突ノ口徑及高

右ノ通移轉式汽罐使用致度汽罐檢査證相添此ノ段及御届候也

年　月　日

右氏　名印

警察署長　氏　名殿

第四號標式ノ二

汽罐廢止届

一　設置地名番號

一　設置者ノ住所氏名

一　汽罐ノ種類

一　汽罐檢査證番號

右ノ通汽罐廢止仕候條汽罐檢査證相添此ノ段御届候也

年　月　日

右氏　名印

警視總監　氏　名殿

汽罐取締令施行細則

第四號標式ノ三

汽罐　休止　届

休止繼續

一　汽罐設置地地名番地

一　設置者ノ住所氏名

一　汽罐ノ種類

一　汽罐檢査證番號

一　汽罐　休　止　致度候條汽罐檢査證相添此ノ段及御届候也

休　止繼續

年　月　日

右氏　名印

警視總監　氏　名殿

第五號標式

汽罐管理人選任認可申請

一　設置地名番號

一　設置者ノ住所氏名

一　汽罐檢査證番號

一　事業ノ種類竝使用目的

一　管理人ノ住所氏名生年月日

一　管理人選任ノ事由
右ノ通汽罐管理人選任致度御認可相成度別紙履歴書及選任契約書相添法ノ段及申請候也

年　月　日　右　氏　名　印

警視總監　氏　名殿

第六號樣式

汽罐取扱主任選任（變更）届

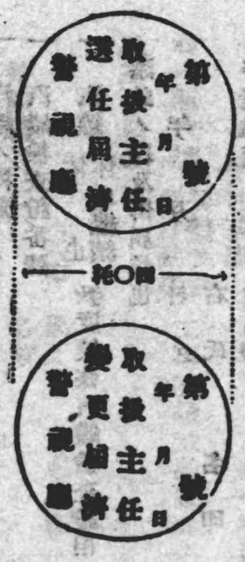
一　設置地地名番號
一　設置者氏名、
一　事業ノ種類並使用目的
一　汽罐ノ種類
一　傳熱面積
一　制限壓力又ハ水頭壓
一　取扱主任者氏名
一　免許證級別
一　變更ノ場合ハ前取扱主任者ノ氏名免許證級別解任年月日

右ノ通汽罐取扱主任ニ（選任／變更）致度履歴書及免許證寫相添此ノ段及御届候也

年　月　日　右　氏　名　印

警視總監　氏　名殿

第七號樣式　第八號樣式



原動機取締規則

第一條　本令ニ於テ原動機ト稱スルハ蒸汽機關及內燃機關ヲ謂フ
左ニ揭グル原動機ハ本令ノ適用ヲ除外ス
一　他ノ法令ノ適用ヲ受クルモノ
二　五馬力未滿ノモノ
三　十馬力未滿ノ移動式原動機ニシテ稻扱粗摺、灌漑用又ハ設置地ニ於テ六箇月以上ニ亘ラザル期間使用スルモノ

第二條　原動機ヲ設置セントスルトキハ左ノ事項ヲ具シタル願書正副二通ヲ提出シ許可ヲ受クベシ第五號イ又ハト若ハ第八號ノ事項ヲ變更セントスルトキ亦同シ但シ願出ニ關係ナキ事項ハ之ヲ省略スルコトヲ得
一　原動機設置者ノ住所、氏名、生年月日（法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地、代表者ノ氏名以下之ニ倣フ）
二　事業又ハ營業ノ種別、工場名又ハ屋號其ノ他之ニ類スル名稱
三　原動機設置地地名番號、市街地建築物法ニ依ル地域並地區
四　出願要旨
五　摘要書
イ　原動機室ノ構造及床面積
ロ　原動機ノ種類及基數
ハ　原動機又ハ其ノ附屬機械其ノ他設備ノ位置
ニ　原動機ノ附屬機械其ノ他設備ノ名稱又ハ能力ヲ示ス標準、用途及備數
ホ　原動機ノ使用目的並使用始終時
ヘ　燃料ノ種類及一日ノ最大消費見積高
ト　除害設備ノ概要
六　圖面
イ　周圍ノ狀況
ロ　原動機並其ノ附屬機械其ノ他設備ノ配置
ハ　原動機ノ基礎
ニ　原動機室
七　原動機室ノ構造調書

八　原動機ノ構造調書
イ　原動機ノ種類及基數
ロ　氣筒數及其ノ內徑竝衝程
ハ　馬力數又ハ「キロワット」數
ニ　回轉數（毎分）
ホ　調速機ノ種類
ヘ　勢輪ノ材質、主要寸法竝箇數
九　原動機ノ附屬機械其ノ他設備ノ構造調書
イ　起動裝置ノ概要
ロ　冷却裝置竝冷却方法ノ概要
ハ　排氣裝置竝排氣方法ノ概要
ニ　瓦斯發生裝置ノ概要
ホ　燃料貯藏設備ノ概要
十　工事竣功期日

前項ノ外必要ト認ムル書類又ハ圖面ノ提出ヲ求ムルコトアルベシ

第一項ノ副本ハ指令書ト共ニ之ヲ交付ス

第三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル事項ヲ變更セントスルトキハ豫メ前條第一項各號ノ事項ヲ具シ屆書正副二通ヲ提出スベシ但シ屆出ニ關係ナキ事項ハ之ヲ省略スルコトヲ得

一　原動機又ハ其ノ附屬機械ノ位置
二　原動機ノ附屬機械
三　原動機ノ使用目的竝使用始終時
四　工事竣功期日

前項ノ副本ハ別記第一號樣式ニ依ル原動機屆濟印ヲ押捺シテ之ヲ交付ス

第四條　工事竣功シタルトキハ屆出デ檢査ヲ受ケ別記第二號樣式ニ依ル原動機檢査證ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

原動機檢査證ハ原動機ノ使用繼續中之ヲ設置地ニ保存スベシ

原動機檢査證ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ速ニ其ノ事由ヲ具シ屆出デ再交付ヲ受クベシ

第五條　原動機設置者ハ原動機使用開始前原動機取扱主任者ヲ選任シ屆出ヅベシ之ヲ變更シタルトキ亦同ジ

前項ノ屆出ヲ爲サントスルトキハ履歷書ヲ添附シ屆書正副二通ヲ提出スベシ

前項屆書ノ副本ハ別記第三項樣式ニ依ル取扱主任選任屆濟印又ハ別記第四號樣式ニ依ル取扱主任變更屆濟印ヲ押捺シテ之ヲ交付ス

原動機取扱主任者ニシテ不適當ト認メルトキハ其ノ改任ヲ命ズルコトアルベシ

第六條　移動式原動機ヲ設置地以外ニ於テ使用セントスルトキハ使用前日迄ニ左ノ事項ヲ具シ使用地所轄警察署長ニ屆出ヅベシ

一　原動機設置者ノ住所、氏名
二　原動機ノ種類
三　原動機取扱主任者ノ氏名
四　原動機檢査證番號
五　原動機ノ使用場所、使用期間及使用始終時

第七條　原動機ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ設置ヲ許可セズ

一　破裂又ハ火災ヲ生ズルノ虞アリト認ムルトキ
二　著シク震動、騷音ヲ生ズルノ虞アリト認ムルトキ
三　其ノ他公共ノ利益ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキ

第八條　工事ニ付特ニ指示シタルトキハ其ノ都度屆出デ檢査ヲ受クルニ非ザレバ爾後ノ工事ニ着手スルコトヲ得ズ

第九條　原動機設置者ハ左ノ事項ヲ遵守スベシ

一　原動機室又ハ原動機設置場所ニハ係員ノ外妄リニ立入ルコトヲ禁止シ其ノ旨見易キ箇所ニ揭示スルコト
二　原動機檢査證及原動機取扱主任者ノ氏名ヲ原動機室又ハ原動機設置場所內ノ見易キ箇所ニ揭示スルコト
三　原動機ハ原動機取扱主任者ヲシテ取扱ハシメ又ハ現場ニ於テ監督ヲ爲サシムルコト
四　原動機ニ事故發生シタルトキハ原動機

取扱主任者ヲシテ適宜ノ措置ヲ講ゼシメ
即時届出ヅルコト

第十條　原動機ハ專用ノ建物又ハ別室若ハ適當ニ區劃セル場所ニ設置スベシ但シ作業ノ性質上已ムヲ得ザルモノハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ原動機室又ハ原動機設置場所ハ採光及照明ヲ良好ニスベシ

必要アリト認ムルトキハ換氣又ハ防火ノ爲適當ナル設備ヲ命ズルコトアルベシ

第十一條　原動機室ニハ二以上ノ出入口ヲ設クベシ但シ避難ニ支障ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

出入口ノ扉ハ外開戸又ハ引戸ト爲スベシ

第十二條　當該官吏原動機ヲ檢査又ハ臨檢セントスルトキ若ハ檢査ニ必要ナル準備ヲ命ジタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

第十三條　原動機設置者又ハ原動機管理人及原動機取扱主任者ハ本令ニ依ル檢査ニ立會シ當該官吏ノ指揮ニ從フベシ

第十四條　當該官吏檢査ノ爲必要アリト認ムルトキハ左ノ事項ヲ命ズルコトアルベシ

一　原動機ヲ運轉スルコト
二　原動機ヲ解體スルコト
三　原動機ヲ移動スルコト
四　壓力槽ニ在リテハ鉄ヲ抽出シ槽材ニ穿孔スルコト
五　水壓試驗ヲ施行スルコト
六　其ノ他必要ナル事項

第十五條　原動機ノ使用權ヲ承繼シタル者ハ住所、氏名、生年月日ヲ記シ双方連署ノ上原動機檢査證ヲ添附シ十日以内ニ届出ヅベシ但シ連署シ能ハザルトキ又ハ原動機檢査證ヲ添附シ能ハザルトキハ其ノ旨届書ニ附記シ其ノ事由ヲ確認スルニ足ルベキ書類ヲ添附スベシ

相續ニ因ル承繼アリタルトキハ相續人ハ相續開始ノ事實ヲ知リタル日ヨリ三十日以内ニ原動機檢査證ヲ添附シ其ノ旨届出ヅベシ

第十六條　原動機設置者自ラ原動機ヲ管理スルコト能ハザルトキハ原動機ニ關スル一切ノ權限ヲ有スル原動機管理人ヲ選任シ左ノ事項ヲ具シ原動機檢査證ヲ添附シ届出ヅベシ之ヲ變更シタルトキ亦同ジ

一　原動機設置者ノ住所、氏名、生年月日
二　原動機設置地地名番號
三　原動機管理人ノ住所、氏名、生年月日
四　原動機檢査證番號
五　選任契約書ノ寫
六　原動機管理人ノ履歷書

工場法、汽罐取締令、工場取締規則又ハ、「セルロイド」工場取締規則ニ依リ選任セラレタル管理人ハ本令ニ依ル原動機管理人ト看做ス

前項ニ該當スル事實アリタルトキハ第一項第一號乃至第四號ノ事項ヲ具シ原動機檢査證ヲ添附シ遲滯ナク届出ヅベシ

第十八條　原動機設置場所ニ於テ火災、破裂倒壞其ノ他ノ事故發生シタルトキハ左ノ事項ヲ具シ遲滯ナク届出ヅベシ　但シ工場法施行規則第二十六條、汽罐取締令第二十條工場取締規則第十五條及「セルロイド」工場取締規則第二十一條ノ規定ニ依ルモノニ基キテ發スル命令ノ遵守ニ付テハ原動機設置者ニ代ルモノトス

第十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ遲滯ナク届出ヅベシ

一　原動機設置者又ハ原動機管理人ノ住所、氏名ニ變更アリタルトキ
二　法定代理人、保佐人又ハ夫ニ變更アリタルトキ
三　事業又ハ營業ノ種別、工場名又ハ原動名其ノ他之ニ類スル名稱又ハ原動機設置地地名番號ニ變更アリタルトキ
四　原動機ヲ廢止シタルトキ

前項第一號、第三號及第四號ノ届出ニハ原動機檢査證ヲ添附スベシ

第十八條　原動機設置場所ニ於テ火災、破裂倒壞其ノ他ノ事故發生シタルトキハ左ノ事項ヲ具シ遲滯ナク届出ヅベシ　但シ工場法施行規則第二十六條、汽罐取締令第二十條工場取締規則第十五條及「セルロイド」工場取締規則第二十一條ノ規定ニ依ルモノニ